DIFFERENCE RESEMBLANCE VOL.3

EL ZINE

燃える　女性　世界

BRUCIA DONNE MONDO

KALASHNIKOV

PETROGRAD THE ASSASSINATORS BROTTSVÅG! DEMONA



静岡ハードコア/パンク特集 VEKTOR x 8000 x ZONE & MORE !!

WHO KILLED CROW ? クロウ・ロング・インタヴュー後編

GIVE THE ANARCHIST A CIGARETTE by PAINTBOX/MUNE

Contents vol.3



welcome to INCONSTANT →

燃える　女性　世界

BRUCIA DONNE MONDO
...INTRODUCTION

前号がメタルでパンク、パンクでメタルな感じでしたので、今号は切り口をガラッと変えて世界の女性ヴォーカル(男女混声含む)で攻めてみました。
チリ以外はイタリア、ルクセンブルク、デンマーク、スウェーデンとヨーロッパ諸国のバンドに偏りがちではあるが、多少なりとも現状下の世界規模での多様性・多面性をお伝えできれば幸いです。
ただし、一見、というか何度見てもかなり不可解なラインナップだと思われますので…、まずは序章を兼ねたディスク紹介をしてみました。



KALASHNIKOV/THE BEST OF K

その雑食性と革新性に魅了される、イタリアのアナーコ・パンク・コレクティヴの日本ベスト盤。月光仮面のテーマ曲のカヴァー含み、多彩なメロディーと楽曲で心が弾む全15曲。他の作品では当地の先駆者、DECLINOやWRETCHEDのカヴァーも披露しており、核の部分ではハードコア・パンクがしっかり息づいている。カチッとしすぎていない、程よいラフな演奏力も好ましく、本作には歌詞の日本語対訳つきなのも嬉しい。バンドの方向性と強い意志がインタヴューから伝わってくると思う。

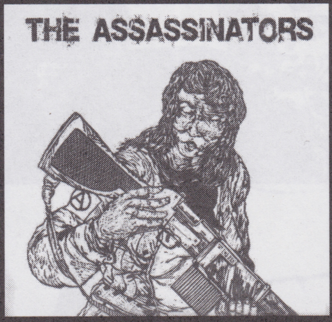
(SP RECORDS SE 006)CD



PETROGRAD/ASSORTED LULLABIES

日本でも根強いファンが多いルクセンブルク産ポリティカル・メロディック・パンク・バンド。過去の作品の多くは入手が難しい中で発売された嬉しい日本編集盤。UKメロディック好きからクラスティーまでを虜にする悲哀の旋律にただひたすら胸を締めつけられる。休止期間を経て2009年に活動を再開したが再び解散。PETROGRADの最後となる、そして意外な事実満載のインタヴューを堪能してもらいたい。

(SP RECORDS SE 010)CD



THE ASSASSINATORS/SIGT EFTER HJERTET

2008年、あんなに燃えたライヴはない。奇跡的なハーモニー、メロディー、もう完璧としか言いようがない。BAD RELIGIONとPOST REGIMENTの理想的な融合と表したいほどの切ない疾走感。本作はデモ・テープ(その後7インチ化)、シングルに続いて発表された1stアルバム(同時期にE.A.S.T. PEACEから音源集もリリースされた)。K-TOWNシーンのその後、そしてTHE ASSASSINATORSの現状について訊いた。DSBとのスプリットが待ち遠しくてしょうがない…。

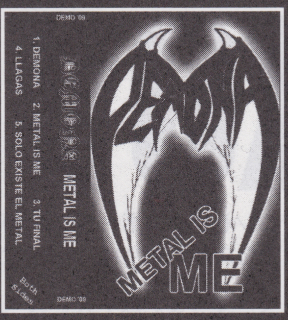
(ALERTA ANTIFASCISTA AA 49)LP



BROTTSVÅG!/KLASSRESAN

完全にメインは男性ヴォーカルなのでこの括りに入れていいのか迷ったが、ま、いいか。インタヴュー中に語られることとなる、"新しい2枚のデモ"のうちの一枚がこれ。女性ベーシストのコーラスが光るUMEÅ産パンク・ロック・バンドの最新音盤。初っ端のタイトル曲が意外にもハードコアのスピード感で迫るナンバーで驚き。これまでの、良い意味での垢抜けなさを失うことなく、グッと懐を広げた感のある秀作だ("広島"に言及しているらしき曲もあり)。正式なリリースが待ち遠しい当地期待のニューフェイス(でもメンバーは大人)。

(NO LABEL,NO NUMBER)CD-R



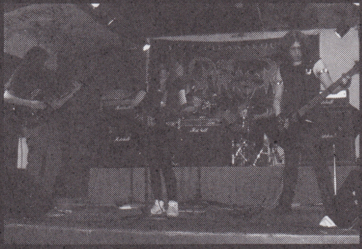
DEMONA/METAL IS ME

前号でMPDS会長も紹介していたチリ独りスピードメタル(現在はバンド編成)。世界中のメタルヘッズからの熱すぎる視線を一身に受け一部で俄然話題沸騰中だが音楽的にも、もちろん面白い。日本の80年代を彷彿とさせる妖艶なTanza嬢のヴォーカル含め、パンク/ハードコア・リスナーもいけるはず。続けていけば今後かなりビッグな存在になるんじゃないかと予感させる、そんなデモ音源。

(NO LABEL,NO NUMBER) CASSETTE TAPE









UNKNOWN FUTURE...

EMANCYPUNX(POLAND)/SEX DEVIANTS(CZECH REPUBLIC)/PREYING HANDS(CANADA)/LA FRACTION(FRANCE)/RUIDOSA INMUNDICIA(AUSTRIA)/ASFIXIA(SPAIN)/DAN(UK) etc...

Romantic Punk Collective from Italy

KALASHNIKOV

イタリアはミラノ出身の"romantic punk collective"、KALASHNIKOV。女性ヴォーカルでシンセとキーボード(+α)が入り乱れるアナーコ・パンク+メロディック・パンク+ニューウェイヴ+80'sイタリアン・ハードコアなスタイルのバンドだ(意味不明とは思いますが…)。
独創性と革新性が溢れまくる楽曲のセンスは抜群なのに、微妙に演奏技術が追いついていないところも個人的にはツボに入った。また、UKのTHE MOBの"No doves fly here"のカヴァー含むニュー・アルバムのリリースも今後予定している。2009年には日本のSP RecordsからベストCDが発売されており、現在(2010年1月末)でも入手可能なので、気になった方はチェックしてもらいたい。
ギターのStefano(Puj)がメールでの取材に応じてくれた。

■まずはKALASHNIKOV結成の話しをお願い。

「KALASHNIKOVは俺たちの地元、ミラノにあるスクワットで90年代の半ばに結成されたんだ。そこでは年がら年中ライヴが行われていたんだよ。その当時、俺たちは高校生でパンク・ミュージックに対する情熱で溢れていた。この音楽は、俺たちの個性とアイデアを引き出して表現するのに最も適したものだったから。当時のミラノは、暗黒の時期を終えてパンク/ハードコア・シーンが沸き返っていた。新しいバンド、新しいレーベル、新しいスクワット…、そこには大いなる熱狂があった。当初、俺たちの演奏は最低だったけど、俺たちにとってはどんなに些細な改善であれ、それは素晴らしい業績だった…」

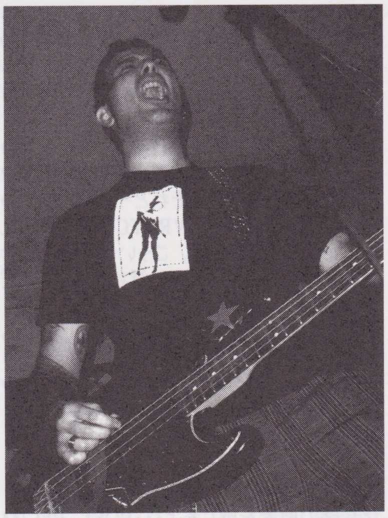
■このバンド名は銃のAK 47のことだよね?

「そうだよ、AK 47さ!その頃(90年代半ば)にいた英語のバンド名を持ち、しかも英語で歌うようなイタリアのバンドと俺たちをハッキリ区別するために、アグレッシヴなロシア語の名前を選んだんだ。その頃って多くのバンドがアメリカばかりを見ていて、アメリカのバンドの真似をしていた。そしてどいつも呑気なもんで、間抜けな歌詞にインチキな音楽ばっかりだった。俺たちには他のモデル(80'sの古いイタリアン・ハードコア)と、闘争のヴィジョンがあった。不朽の存在として、俺たちはロシア語の名前を選び、チンタラしたバンドと俺たちとの差別化を図ったんだ。カリフォルニアのビーチとシベリアの大草原みたいに対称的なもんだね!」









俺たちは常に詩的な想像力を与えようと努力してきたし サウンドには革新的な特徴を取り込んできた

■KALASHNIKOV以前のことも聞きたいんだけど、どんなことをしていたの?

「現在、KALASHNIKOVは7人のメンバー(Sarta、Milena、Puj、Don、Dino、Rissa、Lisa)からなる集団で、それにプラス、他の人たちも色んな活動において力を貸してくれているんだ。現在のKALASHNIKOVのメンバーでもある3人は、90年代(1994年～1998年)に101% ODIOというクラスト・バンドでプレイしていた(Sarta/ベース、KALASHNIKOVではギターを担当。Rissa/ドラム。Puj/ギター)。俺たちはすごく若かったけど、都市の中心地にあって1998年になくなってしまったLaboratorio Anarchicoという、伝説的なミラノのスクワットでプレイし始めたんだ。俺たちの歌は未熟で厭世的なアナーコ・パンクだったよ!曲名も、"I hate people"に"I kill your mother"、"Fuck the law"、それに"I want to bash you!"なんてもんだった。1996年にはSarta、Puj、RissaでPUNKHAKÀというくだらないパンク・ロック・バンドも結成した。Dino(ヴォーカル。KALASHNIKOVではベースを担当)も一緒だったんだけどジョークとして始めた、楽しむためのバンドでさ。けど1年後にはバンドのサウンドを変化させて、俺たちの好きな音楽であるパンク/ハードコアにロシアのフォークもミックスしてみようって決めたんだ。そうして1997年にKALASHNIKOVが生まれたってわけさ。

Milena(ヴォーカル)は2001年からKALASHNIKOVでプレイしている。最初のヴォーカリストだったCinziaが抜けた後からだね(CinziaはKALASHNIKOVのファースト・アルバム『Romantic Songs of Dissidence』に参加している)。MilenaにとってKALASHNIKOVは最初のバンドなんだ。彼女、以前はオーケストラのクラシック・バイオリニストだったんだぜ!Dino(ベース)も1997年から1999年の間はKALASHNIKOVのヴォーカルだった。2004年にベーシストとして戻ってきたんだよね。1999年から2004年まで、彼はミラノでたくさんのロック・バンド、PRINCIPAL SKINNERやAMANITA MUSCARIAなんかでセッションをしていたんだ。Don(キーボード)は1997年から楽しくやっているよ、彼のバンド初体験がKALASHNIKOVなんだ。Lisaは2006年からで、彼女もバンドは初めての経験だったんだけど、バンドが始まった頃からの古くからの友達でね。Sarta、Puj、Rissaは101% ODIOでプレイしていて、今はKALASHNIKOVだけで活動している。ただ、Sartaはワンマン・ブラックメタル・バンドみたいな数えきれないほどのプロジェクトもやってるよ!時々、Sarta、Puj、それにDonは自宅近くのレストランで一番安いピザを食べた後にダーク・アンビエントのジャム・セッションをやってもいるな」

■子供の頃から今まで聴いてきたバンドやミュージシャンはどんなの?

「みんなそれぞれ、それが普通なことだと思うけど、だいぶ様々なものを聴いているな。



それらはパンク・ミュージックへのデカい情熱を俺たちにもたらしてくれたよ。特にBAD RELIGION(アルバム『No Control』からアルバム『Stranger than Fiction』まで)、イギリス・パンクの第一世代(CLASH、JAM、ANTI-NOWHERE LEAGUE)、80年代のアメリカン・パンク(DEAD KENNEDYS、CIRCLE JERKS、BLACK FLAG)、それとイタリアの昔のパンク/ハードコア(WRETCHED、DECLINO、EU'S ARSE・・・)。こういう音楽を聴きながら成長してきたけど、常に音楽中毒だし、いろいろなジャンルを聴いてきた。KALASHNIKOVのサウンドに影響しているジャンルで言うなら、80年代のダーク・ロック、ニューウェイヴ、良質のエレクトロニクス、80年代のシンセ・ポップ・ミュージック、昔のヘヴィメタル・・・だね」

■そう、本当にKALASHNIKOVからは様々な音楽の要素を感じるよ・・・POST REGIMENTやLA FRACTIONなどからの影響はある?

「ポーランドのPOST REGIMENTもフランスのLA FRACTIONも知っているけど、KALASHNIKOVのサウンドには彼らからの影響はないな。もともと俺たちは同じ年にバンドを始めていて、その頃は確実に知らなかったからね。この2つの素晴らしいバンドがKALASHNIKOVと共通点が多いのは間違いないな。特にアティテュードの点でね。音楽的な影響は異なるが、そう思うよ。今度の





2月にKopiスクワットの20周年記念のためにベルリンでLA FRACTIONと共演する予定なんだ。楽しみだね!」

■80'sイタリアン・ハードコアの要素を君たちから直接的には感じないけど、DECLINOの曲(「Nessuna Fiducia」)をカヴァーしているよね。DECLINO、WRETCHED、EU'S ARSE、IMPACTのような80年代のイタリアン・ハードコア・バンドはKALASHNIKOVにとって重要なルーツなの?

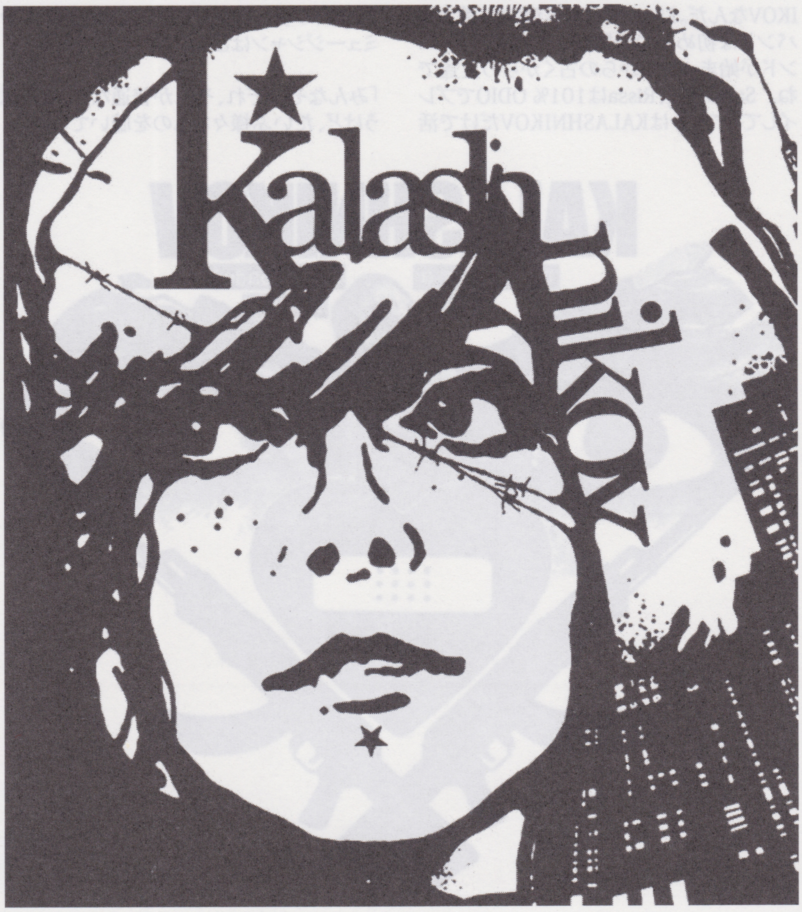
「ブラボー!君があげたバンドは俺たちにとってはもの凄く重要なんだよ。絶対的に必要だって言えるな!音楽やアティテュードの理解の度合いでは、確かに一番重要な影響が含まれているね。若かった時にはこういう80年代のバンドの作品を見つけるのは難しかったよ。見つけた時はもう何百回となく聴いたし、神聖な作品だと考えている!WRETCHEDやDECLINOの曲の俺たちのヴァージョンは、オリジナルとはだいぶ違っているんだ。自分たちのスタイルに曲を変化させるのが楽しいから。KALASHNIKOVの次のアルバムじゃ、影響を受けた80年代の偉大なるアナーコ・パンク・バンドの曲(「No doves fly here」)のカヴァーをしてるんだぜ。UKのTHE MOBの曲だよ!」

■BAD RELIGION、SNUFFのような有名なメロディック・パンクについてはどう思う?そういうバンドも好き?

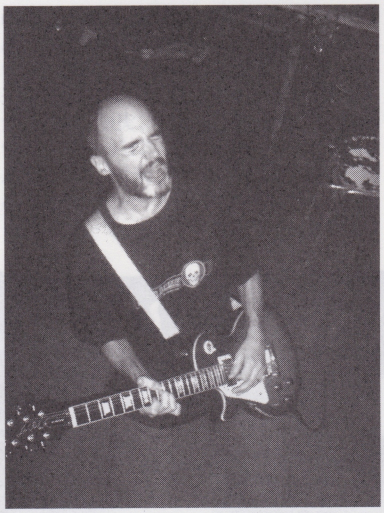
「俺たち、SNUFFは聴いたことがないな。彼らのことは知らない。その反対にBAD RELIGIONは単なるバンド以上の存在だ・・そう宗教さ!青春時代からBAD RELIGIONの曲は聴いてきたよ、自分たちのことのように彼らのアルバムを熟知してるぜ!音楽的に言うと、BAD RELIGIONは世界中で最高のパンク・バンドさ。少なくとも1996年までは・・・アルバム『The Grey Race』の後、BAD RELIGIONは平凡なレコードを作っちまった。運よく、アルバム『New Maps OF Hell』はなかなかいい作品だったな。BAD RELIGIONは昔の栄光を取り戻したね!」

■ウェブサイトで自分たちのことを"romantic punk collective"と紹介しているよね。"romantic punk collective"って、どんな意味なの?

「"Romantic(ロマンティック)"とはパンク・ミュージックに奇妙さを加えた様を表す形容詞だよ。俺たちにとってはパンク・ミュージックの伝統的な形容詞をぶち壊す定義みたいなものだね。あらゆるパンク・バンドがムカつき感や獰猛さを求めているからさ。俺たちは常に詩的な想像力を与えようと努力してきたし、サウンドには革新的な特徴(キーボード、女性ヴォーカル、シンセ・・)を取り込んできた。"Collective(集合体)"は古典的なロック・バンドではなくて、開かれた集団であると考える方が好きだって事実を表しているよ。集団の中に存在しながら、共同制作したり、アイデアを分かち合うことを強調する形容詞と言っていい」



■君たちのシーンには女性がバンドでプレ


イしやすい環境があるの？フェミニズムに関心はある？

「フェミニズム、セクシズム、ジェンダーなどに関わるテーマに関心があるよ。80年代や90年代のパンク/ハードコア・シーンは女性にとってはかなり閉ざされていて、バンドをやっていたのは少数の女性だったよな。今やパンク・シーンは昔に比べてたくさんの女性が存在しているのに、バンドをやっている女性は少ない。俺たちが女性をヴォーカルにするのは、アーティスティックな選択であって、他のパンク・バンドとは別のスタイルを表しているんだよ」

■イタリアのスクワットの状況も教えて。ヨーロッパでは多くのスクワットが政府によって取り壊されているよね。

「イタリアには数多くのスクワットがあって、ここにはスクワットに関する強固なカルチャーがあるんだ。イタリア初のスクワットは70年代に生まれたんだよ。イタリアじゃ、スクワットの間でもそれぞれ政治的な違いがある。例えば、アナーキスト、共産主義ムーヴメントに関連するものなど。俺たちが好きなのは、ミラノのVilla Vegan Occupata、サロンノのTelos Occupato、モデナのLa Scintilla、フィレンツェのVilla Panicoとかね・・・。時には弾圧や立ち退きの時代もある。しかし物語は続いているよ。スクワットで演奏するのは大好きだな。人間的というよりもカルチャー的な観点から、俺たちにとっては身近な場所であるんだ。典型的な社会の経済的論理とかステータスなんてものとはほど遠いところにあるからね。中央ヨーロッパ（オランダ、ベルギー、ドイツ・・・）にはたくさんのスクワットがあって、こういう国の政府は、イタリアやUK、東ヨーロッパのような国以上に、スクワットに対して寛大だよ。スクワット・シーンのあるギリシャはかなり強固だし、ポリティカルな激闘に燃えているな・・・」

■この質問にはうんざりしていると思うんだけど・・・「月光仮面」（「Brucia, ragazza, brucia」）の曲をプレイしたのはどうして？イタリアでは人気があるの？

「アハハ！問題ないよ！面白いことに、ここイタリアでは「月光仮面」の曲を知っている人なんていないよ！数年前に、Sartaと俺はネットでこの曲を聴き、ダウンロードしてみたんだよ。気に入った。俺たちには変わった音楽だったね！その後、なぜ俺たちが「月光仮面」を演奏したのか不思議に思った日本の人から手紙がきたよ。驚いたぜ！日本の70年代アニメの古い曲だったとは素敵だよね。特に歌い手の声がいいよ！」



■『The best of K』は素晴らしい作品だね。なぜこれを作ったの？SP Recordsからのリクエストだったの？日本から何か良い反応を得てるんじゃないかな？

「インターネットであれこれ検索しているうちに、SP RecordsのYukiと知り合ったんだ。「月光仮面」のカヴァーに感動してたよ！アハハ！日本でディストリビューションするレコードがあるか彼から尋ねられた。でも過去のレコードは在庫が切れていたんで、日本で直接KALASHNIKOVの作品を作るのはどうか提案してみたんだ。数ヵ月後、『The best of K』がリリースされた！この作品に対して日本から情報のようなものは来てないよ。みんなが作品を楽しんでくれるのを望んでいるだけさ！」

■歌詞ではどんなことを歌っているの？日本語訳された歌詞を読んでみたら、とても詩的でポリティカルに感じたけど。

「アナーキストの代表的な問題や感情、それに自由主義者の伝統を常々考えているよ。それから物語を書き綴っていくことで、それらを詩的な特徴のあるものに置き換える。KALASHNIKOVの初期の曲は戦争についてがほとんどだった。今取り上げている問題はもっと多岐にわたっていて、俺たちの生きている資本主義社会の矛盾に強く興味がある。John ZerzanやHakim Beyのようなアナーキスト思想家、James BallardやBruce Sterlingのような空想科学小説家は、ものの見方や書くものにおいて、もの凄くデカイ影響になっている。ポリティカルな小冊子や空想科学小説などがね。実際には、俺たちはアナーキストのインスピレーションを持った集団ではあるけど、俺たちのことをスチーム・パンク（※SFの一ジャンル）やあるいはポスト・アポカリプティック・パンク（※世界の終末を表すようなパンクと思われる）だと定義する人がいるとしたら、そういう定義は科学小説と関係があるな・・・」

■漠然とした質問になるんだけど、次のことについてどう考えている？自由に答えてみて。"宗教"、"政府"、"資本主義"、"戦争"、"イタリア"。

「それぞれの言葉はお互いに関わりあっていると確信してる。戦争と宗教は歴史的にみても結びついている。資本主義は支配者たちの一つの方向だし、中央政府は資本主義ビジネスの論理の奴隷だ。イタリアは君があげたものがお互いに露骨で密接に結びついている国だよ。カトリック教会やローマ教皇の本拠地であり、企業家に支配されている国でもあるんだ。Silvio Berlusconi（イタリアの首相で実業家）は巨大な力を手にして、資本主義の可能性を搾取している。彼はTV放送網を牛耳り、フットボール・チームまで支配していたんだぜ・・・」

■イタリア語で歌うのは重要なこと？イタリア語の曲はすごく魅力的だよ。

「イタリア語で歌うのはきわめて重要だね。意識的に選んだんだ。何か伝えたいものがある全てのグループが母国語で歌うべきだと信じているよ。明白な質問だね」

■君らの作品のアートワークは誰がやってるの？僕は『Music is a gun loaded with future』と『The best of K』が好きだな。とてもクールだね！

「各アルバムのアートワークは、それぞれの作品が価値のあるものになるようにしているつもりだよ。アートワークは二の次なんて気持ちはないな。アルバムのアートワークはバンドと共に進めてきたコミュニケーション作用の一部だね」

■どんなバンドと共演しているの？クラストやアナーコ・パンク・バンド？メロディック・パンク・バンドとは？お勧めのイタリアのバンドはいる？



俺たちがやっていることはプロモーション的なものやビジネスの論理に求められてのものじゃない パンク/ハードコアを音楽製品として考えることには関心がないんだ





Romantic Punk Collective

「イタリアやヨーロッパではアナーコ・スクワットを廻って演奏しているんだ。だからクラストやアナーコ・パンク・バンドとやることが多いな。妙な感じだよ。俺たちのサウンドはそういうバンドとはほど遠い音だからさ！でも俺たちはそういうハコで認識されてるし、グラインドやクラストのバンドに友だちがたくさんいるよ。政治性もなく、甘ったるいメロディを鳴らしているパンク・ロックやガレージのバンドが演奏しているような会場やクラブじゃ演ったことはない。イタリアには音楽もスタイルもアティテュードも俺たちが嫌いでたまらないMTVスタイルのバンドがわんさかいるよ。そいつらの熱烈なファンもね。くだらねぇ！俺たちはポリティカル・バンドだ。質問はイタリアの素晴らしいアナーコ・パンク・バンドだったよね？ラ・スペツィアのANXTV（CRASS Recordsスタイルのアナーコ・パンク）、トリエステのVIVERE MERDA（DISORDERのようなカオス・パンク）、ヴァレーゼのMISERIA（スピード・クラスト）、フォルリのLE TORMENTA（アナーコ・メタル）、他にもたくさんいるね・・・どれも素晴らしいDIYアティテュードを持ったバンドだよ」

■最近のお気に入りバンドも教えて。ハードコア/パンク・ロック以外でもOKだよ。

「音楽はいつも聴いているし、もうずいぶん長いこと音楽に夢中さ。時には様々なジャンルやスタイルの音楽を突っ込んで聴くのも好きだしね。それは、音楽が与えてくれる、アイデアの幅広い可能性を感じ取るのは重要だと信じているからなんだ。今、俺たちのステレオで何が流れているかって？みんなそれぞれだよ。東ヨーロッパやロシアの共産主義時代（80年代）のパンク、ポーランドのSIEKIERA（ポスト・パンク）のような素晴らしいバンドたち、シベリアのGRAJDANSKAIA OBORONA（フォーク・パンク）、ロシアの反体制詩人でもありフォーク・シンガーのYanka Dyagileva。MANOWARやWARLORD、BLACK SABBATHなどの壮大なメタルも常に聴いているね。DIRT、THE MOB、EXIT-STANCEのようなUKのアナーコ・パンクのバンドもだ・・・それからサウンドトラックもよく聴いているよ。Ennio Morriconeの昔の作品や他のイタリア人の作曲家のものも。あとBasil Poledouris（アメリカ人の作曲家）などの外国人もね。昔のプログレッシヴ・ロックもだけど、書ききれないな。一部をあげると、KING CRIMSON、CAMEL、BANCO DEL MUTUO SOCCORSO、AREA・・・」

■KALASHNIKOVの今後の予定や目標を聞かせて。

「新作のアルバムの制作を終えたところで、11曲収録の予定だよ。いつものようにギグをやり、5月か6月にはカナダ・ツアーも企画しているところなんだ。俺たちがやっていることは、プロモーション的なものやビジネスの論理に求められてのものじゃない。バンドの周りを廻っている伝統的な論理や"成功"にダイアルを合わせたりってことは無視しているし。自分たちにとっての満足を得るっていう、俺たちの中にある方針に従って、全てのことをやっているのさ」

■君たちにとっての、パンク/ハードコアとは？

「確かなことは絶対に音楽とともにあるものだよ。俺たちはパンク/ハードコアを音楽製品として考えることには関心がないんだ。パンク/ハードコアは批判的なものだし、存在を示したり世界中にアプローチするには穏やかな方法じゃない。もしパンク/ハードコアがこれを表現していなかったら、俺たちは音楽をやることがなかっただろうな」

■日本の読者にメッセージをお願い。

「おお、逆に日本の読者に俺たちの音楽をどう思っているのか聞いてみたいな！日本のカルチャー、それから遠く離れた俺たちの世界とは違う人たちと会いたいよ。日本はパンク/ハードコア・アナーコDIYのシーンが盛んだと知っているし、もっと詳しく知りたいね。その日まで・・・。インタヴューをありがとう！カンパイ！チャオ！」





Last Interview of Melodic Punk Band

petrograd

in Luxembourg

ルクセンブルクという国をご存知だろうか?フランス、ドイツ、ベルギーに囲まれた非常に小さな国だ(国土は南北が82キロ/東西が57キロ)。
だが、熱心にメロディック・パンクや女性ヴォーカル・ハードコアを聴いている人からは、「ルクセンブルク?あぁ、PETROGRADがいる国か」という反応が得られるだろう。男女ヴォーカルによる哀愁のポリティカル・メロディック・パンクで、僕は何枚かアナログ盤を持っているだけだったが、2009年に日本のSP Recordsが編集盤CDをリリースしてグッと入手しやすくなった。更には、休止していたバンド活動も再開したとの情報が。
これはゼヒともインタヴューせねば!!と思いコンタクトをとったところ、リーダーのSteveは既に不在で、またもや解散状態にあった。…タイミングが悪い、と落胆したが、現在バンドの窓口となっているギターのDavidは、Steveに対して色々と積年の想いがあったようで…。PETROGRADの内部事情が垣間見れる、ある意味で貴重なインタヴューとなった(タイミングは良かったのかもしれない)。
政治的メッセージ含めガチガチな印象があったのだが、それを見事に裏切られたのも個人的には面白かった。そんなわけで、ヨーロッパの小国ルクセンブルクを代表するバンド、PETROGRADの"ラスト・インタヴュー"を存分に堪能してもらいたい。

"これは俺が行うPETROGRADの初にして唯一、そして確実に最後のインタヴューだということをどうか知ってほしい。これまで、全てのインタヴューはSteve Differding(Diff)が答えてきた。解散に対して俺たちが抱いている失望のために、Diffが行ってきたインタヴューとはまた違ったスタイルになるかもしれない。 David"

■まず、PETROGRADはどういう風にして結成されたのか教えて。

「PETROGRADはシンガーでもありソングライターのSteve Differding(通称Diff)と、Diffの当時のガールフレンドのSimoneとで1996年に結成されたんだ。あの当時、Nathalieと俺は別のバンドをやっていたよ。その後1998年に最初のラインナップの変更があって(ギターとベースが脱退)、俺とBjornとが加入した。Bjornと俺はBOLTROPE(CDは入手可能)っていうハードコア・バンドで一緒にやっていたんだよ。PETROGRADから俺のところに加入を求める話があって、Bjornにベースを弾いてみないかと提案してみた。Bjornの素晴らしさはわかっていたし、いい友だちでもあったしね。あの頃PETROGRADはSteve Differdingが仕切っていて、女性ヴォーカルのSimoneは個人的な理由ですぐに脱退したよ(Simoneがヴォーカルをとるステージに Bjornと俺は2回ほど一緒に立ったね)。
NathalieはSimoneの後釜としてリハーサルにやって来た(彼女はそれまでパンク・

ミュージックとは無縁だったよ)。彼女はパンク・ロックを歌ったことはなくても、俺たちはNathalieの特別な声と音楽に夢中で打ち込んでいる姿を気に入った。今になってみると、彼女がかなりハードな時間を俺たちと一緒に過ごしてきたと認めなくちゃならないね。曲を覚えるのも数週間だけだったし、相当ぶっきらぼうな男共と練習していたんだからさ。新しいレコードの準備もあったし・・・。でも彼女はその全てをやり遂げたよ。その同じ年にはNathalieのことを素晴らしい人物だと認めないわけにはいかなかった。本当にバンドに一生懸命だし、他にいないほど正直なんだよ。もしもメジャー・レーベルに女性ヴォーカルの交代を求められるなんてことがあったとしても、そんなことは許さなかっただろうね。
『The Isabelle』(CD)を出し、1998年にはDiff、Nathalie、Bjorn、David、Thierryのラインナップでツアーをやり始めた。ThierryとGilbertがドラムのパートを入れ替わって叩いたりってこともあったな。Gilbertはずっと親友だよ。それに彼は俺たちのやっているパンクのカヴァー・バンド、SIXPAXのヴォーカルでもあるんだ。
俺たちのアルバムのブックレットを読んでみれば、この後はランナップがコンスタントに変わっていることに気づくだろう。3人のメンバーだけは不動だった。Diff(リーダー、ソングライター、支配者・・・独裁者・・・ハハハ)、Nathalieと俺(1998年〜2006年)。2006年になると、Diffがバンドをやりたくないと決断しちまって、PETROGRADをストップしなければならなくなった。Nathalieも他のメンバーとバンドを存続していこうとして努力したが、すぐに断念しなくちゃならなかったんだ。PETROGRADは2006年に終わりを迎えたよ。自分たちのリーダーの手で置き去りにされちまった(俺たちはDiffのことを決して許さない)」

■"PETROGRAD"っていう名前をつけたのは…。

「PETROGRADはSteveが他のインタヴューでも答えているように、ポリティカルな色が濃い名前だ。俺はこの質問には適切に答えることはできないな」
(※PETROGRAD/ペトログラートとはロシアの都市、サンクト・ペテルブルクの昔の呼称。ドイツ語風にサンクト・ペテルブルクと呼ばれていたが、第一次世界大戦でロシアとドイツが交戦状態に突入したため、1914年から1924年まではロシア語風の"ペトログラート"に改称された)

■PETROGRADの前にもバンドをやっていたよね。各メンバーの、バンド活動のキャリアも教えてもらいたい。

「ああ、たくさんの別のバンドでもプレイしていたよ・・・全ての名前をあげるのは難しいな。いくつかあげてみるね。

Steve Differding
BAKUNIENS CHILDREN、SUBWAY ARTS、NO MORE、PETROGRAD

David Thill
SIXPACKS 1991、SKOL、BOLTROPE、PETROGRAD、SIXPAX(2005)、REACH FOR STARLIGHT(2009)

Nathalie
MY ENDORPHIN、PETROGRAD、REACH FOR STARLIGHT(2009)

他のメンバー

Gilbert(ドラム)
TOXKAPP、SKINFLICKS、PETROGRAD、SIXPAX

Thierry(ドラム)
ROTZBOUWEN、LECTER MD、PETROGRAD

Frank(ベース)
KLARK KENT、PETROGRAD

Bjorn(ベース)
BOLTROPE、PETROGRAD、SKATAR(彼の新しいバンド・・・ついでながら素晴らしい)

Pit(2009年の再結成時のギター)
SIXPAX、RISE UP、DROPJAW、REACH FOR STARLIGHT(2009)

Patrick(交代要員としてヘルプしてくれたギター)
DO ANDROIDS DREAM OF ELECTRIC SHEEP、PETROGRAD、DESDEMONIA

Mark(2009年の再結成時のドラム)
SIXPACKS 1991、SKOL、BOLTROPE、SIXPAX、PETROGRAD(2002年〜2004年の間、ヘルプのドラムとして数回のギグに参加)、REACH FOR STARLIGHT(彼は俺の最高の友だちだよ!!!5歳の頃からお互いよく知っている仲なんだ。やつは俺の大好きなドラマーでもあり、2009年の再結成の際に叩いてもらえたのは嬉しかったね!!)

■2004年にも解散したよね。その理由も聞きたいんだけど…。

「2004年の解散はとても簡単なことさ。Steve Differdingがこれ以上バンドをやりたがらなかったからだ。何の説明もなしさ。彼が言うには、もう二度とギターは触らない・・・と。PETROGRADの著作権は彼が全て握っていた。彼がいなければ、PETROGRADとしての価値がないのも同然だったよ。全ての著作権や曲は彼の所有だったし、絶対に俺たちをクレジットするのも嫌がった。彼は"PETROGRADは俺の肉体であり、俺と共にある"というようなことを言っていたな。俺たちにどんな選択肢があった?Nathalieは"新しいランナップにしてスペインでギグをやろう"と頑張ったが、うまくいかなかった。俺はSteveがやめてすぐにバンドを離れたよ。ほとほとうんざりしちまって。他のメンバーも同じだった。予定していたギグは全てキャンセルし、俺たちの評判はどんどん悪くなっていったよ。Steveがギグの直前になって強引に出演をキャンセルしたり、キャンセルを伝えていないギグの会場に俺たちが現れなかったりしたからさ。
人間として振り返ってみると、本当に最低のことをしたと認めないわけにはいかない。俺たちにファンが数人でもいたとしたら、俺たちのことを憎んでいるはずだと嫌ってほど理解しているよ・・・Steveの行動はバンドにとっては大きな失望だったし、1年後にはもうPETROGRADを話題にする者は誰もいなかった。確かにそうだったな。ルクセンブルクのバンドの中じゃ好かれていなかったし、ルクセンブルクは俺たちを排除するほうが幸せだった・・・結局、ルクセンブルクのバンドは若いGREEN DAYやNIRVANAに影響を受け、自分たちの主流を作っていった。すぐに、くたびれた年寄りで耳障りの悪いクソなんかに関心を向けなくなって・・・あ、クソは俺たちのことさ!2004年から2006年まで俺たちはお互いに話もしなかったな・・・。
時間が経ち、俺はNathalieと音楽をプレイし続けていこうと約束した。彼女は俺たちと一番苦しい時期を過ごしてきたし、レコーディングのためバンドに自分の金をつぎ込んでもいたから(それがDIY・・・そうは言っても大変だった)。今でも彼女はその金を戻してもらっていない。Steveは素晴らしいソ



ングライターだが、金の管理や支払いに関してはひどかった・・・。それで、Nathalieと俺は2007年にまた音楽をやり始めたよ。その後俺はPETROGRADのメンバーとSIXPAXのレコーディングをした(www.myspace.com/sixpaxoldieshow)。SIXPAXが生まれたのは、俺たちは音楽をプレイし続けたかったから。俺たちの誰もが自分たちは良いソングライターじゃないことはわかっていた。曲作りは常に他の人に手がけてもらったよ。それで昔の名曲のパンク・カヴァー・ヴァージョンをやることが俺たちの救世主となったってわけだ。SIXPAXで成功を得ることで、俺たちの音楽的な魂は救われた。2007年にNathalieと俺は"MY ENDORPHIN"を作り、このバンドは2009年のPETROGRADの再結成のベースとなっていったんだ」

■それで、2009年に再結成して、再び解散したはずだよね。

「MY ENDORPHINで曲を作り始めたのは、結成してだいぶ経ってからだったな。自分たちの曲を書くというのは全く新しいことで難しかったよ。PETROGRADじゃSteveの書いた曲をアレンジするだけだったからね。Nathalieと俺はPETROGRADと新バンドとを比較され続けたな。それでもPETROGRADに似たサウンドはやりたくなかったし、同じことをやるつもりもなかった。PitとMarkも俺たちがいいバンドを作ったと思ってくれているはずだ・・・。
Steveと俺はまたお互いに会話を交わすようになった。2006年には俺はまだ憤りを感じていたけど、俺たちの間に深い悲しみはなかったよ。なるべく頻繁に会うようにし、昔話をするようになってたね。彼は離婚していて、息子に会うために辛い戦いをしていたんだ。互いに近い関係を取り戻し、俺と妻は彼を助けることもあった。数ヶ月間、一緒に暮らすこともあったね。それに彼が息子と一緒に住むのにぴったりなアパートを借りる手伝いもしたしな。
ある時Diffにこう言った。MY ENDORPHINでPETROGRADの曲をいくつか(「What about me」、「Toys」、「July 20th」・・・など)やってみたいと。そうしたら、彼の口から自分がシンガーとしてPETROGRADを再結成するのはどうかとの申し出があった。俺はとにかく驚いたよ。
俺たちは一人の人間としての彼も知ってるし、自分が作ったものを破壊するような彼も知っている・・・でも俺たちには名声も野心もなかったから、失うものもなかったよ。それに長い間一緒に演奏していた音楽をずっと大事に思ってきたしね。それでDiffがMY ENDORPHINに加わり、必然的にこれがPETROGRADの再結成へとつながっていったんだ・・・。
それは素晴らしかった。新しい曲を書き(過去にやっていた曲よりも素晴らしかったよ)、昔の曲を新しいヴァージョンへと変えた。世界中から俺たちに向けられた反応にも、素晴らしい言葉の数々にも驚かされたね。問題はSteveがこれを真面目に受け止めていなかったことだ。リハーサルに現れなかったり、土壇場でキャンセルしたり。あの男は全く変わっていなかった・・・。
彼は本当にひどい態度を表した。友情を欠いている彼の思考だけが、唯一の真実だったよ。しかし、まだ反応は悪くはなかった。俺たちは新曲をレコーディングしたかったし、またいいバンドであれたらと思ったよ。世界中からたくさんのギグの申し込みもあった。(再結成後)初のギグとなるドイツで、リーダーでありソングライターでもある男は、まともな人間でないことが証明されたよ。ノインキルヒェン(ドイツ)でやる予定だった3回目のギグは、当日の12時にSteveがキャンセルしちまった。病気だなんて明らかな嘘をついて、3回目のギグを土壇場でキャンセルさせたのさ。はらわたが煮えくり返ったよ!!!!リハーサルも何度もキャンセルし、その上またギグまでキャンセルしたんだぜ!!これ以上、彼と一緒にプレイしたくなかったね!だから俺たちバンド・メンバーはもう係わり合いになるのはやめようと決めたんだ。歌詞や曲を作った人間の行動が全く違っている場合、その歌詞や曲を信じるのも難しい!!それでこの時、俺たちバンド・メンバーは、もう二度と彼とはやらないと思ったよ。だがたぶんSteveは、彼と組んでプレイするほどの愚かなやつを見つけてやるかもしれないね。
どうかこれがSteve(Diff)以外の者が答える初のPETROGRADのインタヴューであることをわかっていてほしいんだ。1998年にPETROGRADに加入して以来、Nathalieと俺は決定的な一言を口にできたことを嬉しく思うよ。結局のところ、再結成は自分たちがずっと抱えてきた思いが間違っていなかったと証明するには正しい時間だった」

■反G8に関する歌、「July 20th」という曲もあったけど(2001年にイタリアのジェノヴァで行われたG8サミットへの抗議活動中、デモに参加していたイタリア人青年、Carlo



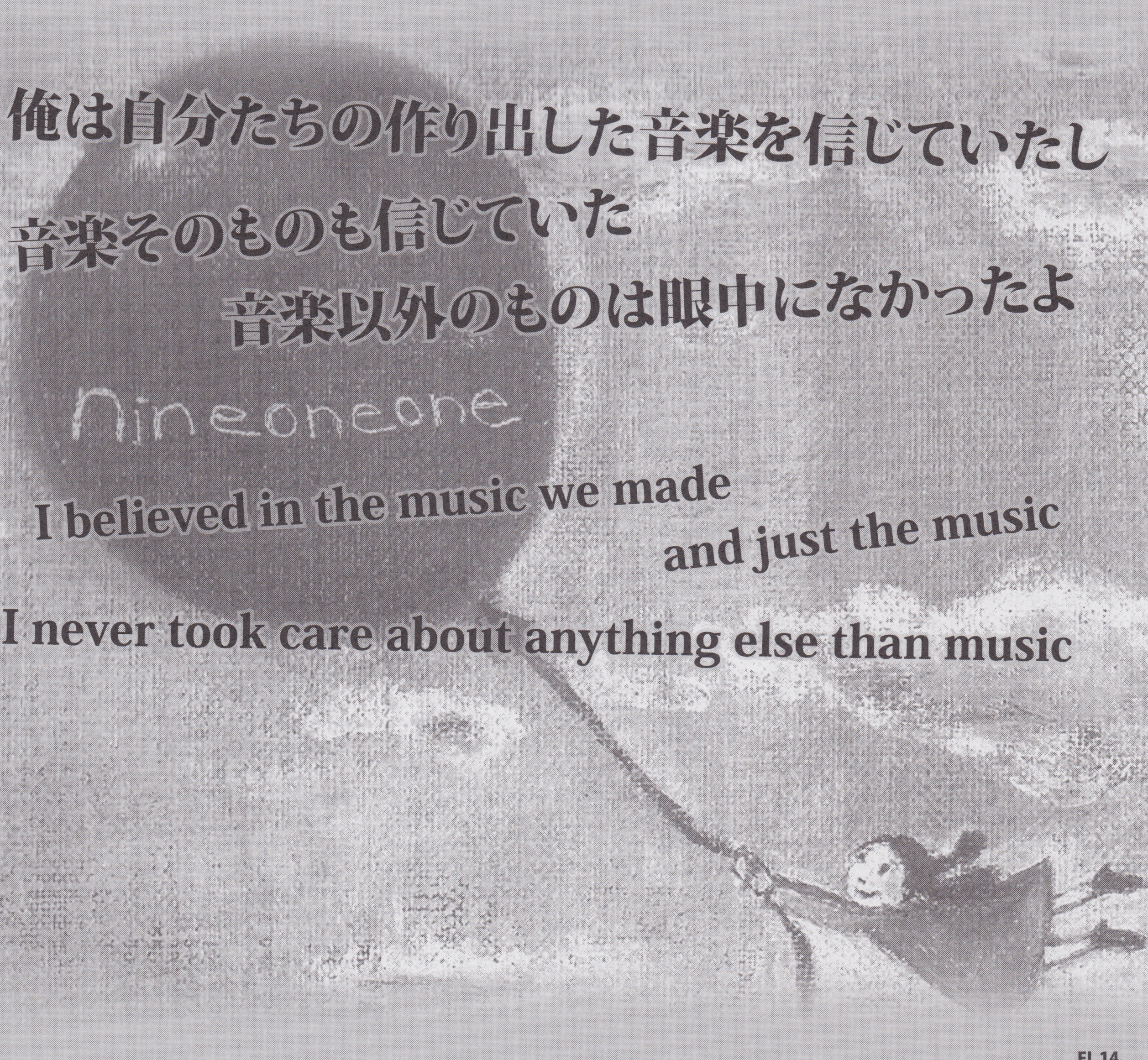
Giulianiが警官に射殺された事件を扱っている)、G8について今はどう考えている？

「G8・・・常に同じだ！俺にとって「July 20th」という曲は、誰かが殺されることじゃない！これは誰かを殺す理由ではないよ!!G8は世界に向けての大きなショーになっていると気がついてほしい!!!今やショーは問題の本質以上に重要さ。実際、援助や改革以上に、画面に顔が登場するほうが重要なんだよ。問題はその両面がどちらも同じだけ優先され、それがパフォーマンスになっていることさ。例えばアメリカの悪夢の大統領のように"愛されている"政治家であってもね。カメラの前に顔が映し出され、世界中に配信される。具体的なことも現実的な改革も提案せず、数分間コメントしたに過ぎなくても、世界には指導者がしっかりと考えているって信じさせる・・・。もう一方じゃ世界は、G8に抗議しに集まったたくさんのグループが混じり合う群集の姿も目にするだろう。警察車両に石を投げている者たちが映し出される素晴らしい画面をね・・・」



■どうして政治に関心を持つようになったのかも教えてもらいたいんだけど。

「ごめんね。政治よりも音楽の話をするほうが好きでね。主要な問題は人間性だよ。望



俺は自分たちの作り出した音楽を信じていたし
音楽そのものも信じていた
音楽以外のものは眼中になかったよ

I believed in the music we made
and just the music
I never took care about anything else than music

めばその度に政治家を変えることができるさ・・・人間性は最悪だ!!!それは長い時間をかけて正しく議論されているよ。俺はパンク・アティチュードを表すために、ここで決まり文句から逃げたくはないな・・・」

■ルクセンブルクという国についての資料をいくつか読んだけど、小さいけど経済的には豊かな国みたいだね。実際はどうなのかな?ルクセンブルクの政治については・・・。

「ルクセンブルクは小さい(かなりだな)国でね。政治・・・・・・・・・・・・・何度もごめんよ・・・政治の話をするのは好きじゃないんだ」

■僕は本当にルクセンブルクのパンク/ハードコアを知らないんだけど、そこには70'sパンク・ロックや80'sハードコアといったシーンはあったの?

「そう、ここは君も"オールドスクール"と呼びたくなるような、小規模なパンク/ハードコア・コミュニティだよ。パンク/ハードコア・バンドの第一世代が登場したのは80's後期から90's初期だった。Steve Differdingのような人たちが、最初にパンク/ハードコア・ショーを企画したんだ。だがあの当時、Steve以外のPETROGRADのメンバーは、その中には入っていなかったよ。あまりにもガキすぎたからね(笑)。でもシーンは成長していき、Steveのような人たちは俺たちみたいな若いバンドにも、ステージでハードコア/パンク・ミュージックを演奏するチャンスを与えてくれるようになった。ここからルクセンブルクの音楽シーンが始まったと言えるんじゃないかな」

■じゃあどんなバンドをずっと聴いてきているの?

「好きで聴いているバンドはたくさんいるよ。ガキの頃は(メンバーのほとんどがそうだと思うけど)、オールドスクールなヘヴィメタルを聴いていたな。AC/DC、IRON MAIDEN、それにX JAPANやJUDAS PRIEST。でも10歳か12歳頃にはスラッシュメタルだったな。TANKARD、SODOM、KREATOR、もちろんSLAYERもね。その後になって、典型的なオールドスクール・ハードコア・バンドや数え切れないほどのスクリーモ・バンドも聴くようになったね。HIATUS、URANUS、ZORN、YUPPISIDE、TURMOIL、IGNITEとか。それからNOFX、BAD RELIGIONなどのメロディック・パンク・バンドも好きになり始めた・・・(今じゃ、誰もがこういうバンドを知っているよね。でも彼らのベスト・アルバムと呼べる作品は90年代の中頃に作られているんだよ・・・)。今はBOY SETS FIRE、JENNIFER ROSTOCK、COBRA STARSHIP、ENTER SHIKARI、APOPTYGMA BERSERK、IGNITE(ついでながらU2のカヴァーは最高!!)、BEATSTEAKS、RISE AGAINST、MILLENCOLIN(ずっとお気に入りのバンドの一つ)、JAWBREAKER、あとオールディーズ(これはSIXPAXには欠かせない)、LES FATALS PICARDSかな」

■BAD RELIGIONやUKのSNUFF、NOFX、GREEN DAYなんかの有名なメロディック・パンクについてはどう思ってる?好き?

「彼らをくだらないとは言えないけど、この7～8年は失望させられっぱなしだ。彼らは自らの音楽で自分たちの音楽帝国を作り上げた。それは問題ないと思う。猛烈な勢いで活動しているし、金を手にする価値があると思うからね!だけど俺には、人々が音楽を買っているのか、それともミュージシャンとしての彼ら自体を買っているのかわからないんだ。はっきり言うよ。俺の考えじゃ、ここ7年間に作られたそういうバンドの全アルバムはどれもこれもクソだ。もう良い曲を作る気がないようにさえ思えるよ。
NOFXが作った最後の素晴らしい作品は『THE DECLINE』だね・・・18分間のメロディック・パンクは見事な傑作だよ!!!!!!だからこれ以上は彼らについて言うことはできないな。NOFXは最高の曲を書いたし、あれはパンク・ソングの歴史においても重要な曲だ。『THE DECLINE』はその後作った駄作の全てを帳消しにしてくれる。
BAD RELIGION。彼らは『Reciepe For Hate』後は良い曲を書くのをやめてしまったね。俺は彼らのライヴは何度も見ているし、90年代中期には彼らのショーを見るのは大好きだったが、少なくともこの5年間は作品を聴いていないな。でも彼らは精力的に活動しているし、バンドの他にも責任ある仕事をしている・・・。
SNUFF(UK)について言うと、彼らのサウンドは少し"薄い"感じがして好きではなかった。でもSNUFFを初めて聴いた時の印象が悪かっただけかもしれないね・・・ただ、彼らの作品はほとんど聴いていないんだ。だからもうコメントはできないな。
GREEN DAY。一番嫌いなバンドかな。今じゃルクセンブルクの10以上のバンドが彼らのようなビッグ・バンドを目指して、同じようなクソみたいなことをやっている。こういう実情に対する彼らの責任は重いよ・・・。うーん、最も失望を感じるバンドかな。彼らの最初にMTVでヒットした曲は最悪だった!『American Idiot』はまあまあ良かったね、素晴らしいとは言えないけど、良い曲が数曲入っていたよね。でもその後リリースされた『21th Century Break Down』は、パンク・ロックの観点から見るとこれまでの中でも最悪だろうな。あらゆるラジオ局で流れている"21 guns"という曲は、俺にしてみたら最低の曲だよ。GREEN DAYは莫大な金を作り出すはずだ!彼らが責められるべきだとは言わないが、そういう作品を買うやつらは最低さ!!
だけど、そういう日のあたる"環境"の外側にもバンドはいて、RISE AGAINST、MILLENCOLIN、NO USE FOR A NAME、BEATSTEAKS・・・こういうバンドには素晴らしい曲があり、見事なアルバムを作っているよ。非常にタイトなサウンドだし、俺は心から好きだな!」

■どんなバンドと一緒にやってきたの?アナーコ・パンク?それとも、もっとポップなバンド?

「もうずっと何年もたくさんの様々なバンドとプレイしているよ。俺たちはただ色々なスタイルでプレイし、自分たちのサウンドを何としてでもやり続けていこうと思っているだけなんだよ・・・」

■リリース作のアートワークは誰が担当していたの?とても幻想的だから、多くのパンク/ハードコア・バンドとは違っていたと思うんだけど。

「『911』以外のアートワークは主にSteve Differdingが手がけたよ。でもほぼ全部、ボス(＝Steve)って言っていいか」

■最近のお気に入りのバンドは何かな?

「BOY SETS FIRE、THE BRONX、RISE AGAINST、COBRA STARSHIP、APOPTYGMA BERSERK、FATALS PICARDS、JENNIFER ROSTOCK、SILBERMOND、CLUSOE、BIFFY CLYRO、ASIAN KUNG-FU GENERATION、MAXIMUM THE HORMONE、NACHL ADER、KANTE、MIA・・・」

■ルクセンブルクでの生活ってどんな感じなの?仕事はしている?

「ああ、みんな働いているよ。音楽で食っていけるようにはなっていないね。音楽が好きだからこうやってやり続けている。でも勉強をしたり、生計を立てるために1日8時間働くことも受け入れなくちゃならない。みんな普通の生活(結婚し、離婚を経験するやつもいたり、子供もいて、家を購入したりとかね)を送っていると思うよ」

■PETROGRADにとって最も重要だった信念て何だったのかな?

「それぞれが別々の信念を持っていたと思うんだ。俺は自分たちの作り出した音楽を信じていたし、音楽そのものも信じていた。音楽以外のものは眼中になかったよ。ギグも企画などにもね。俺は曲を演奏するのが好きで、もちろんギターを弾くのも大好きだったから。そういうのは全て俺にとってのことになるな。でもPETROGRADで一緒だった他のメンバーがどんな信念を持っていたか話すことはできないんだ。本当に何度もメンバー・チェンジを繰り返したし、最後には解散してしまったからね。PETROGRADに対してはみんなそれぞれ違う考え方をしていたよ。再結成の際にも、メンバー全員に合致する一つの信念はなかった。だから残念ながらまた分裂したんだよ」

■日本のバンドやカルチャーで知っていることはある?

「おお、Kenji、俺は日本が大好きなんだよ!!!!!これは俺に一番ぴったりの質問じゃないか(笑)。心底、日本フリークだし"おたく"だしね。マンガ大好き・・・日本には最高のカルチャーがあるよ。史上最高は『幽遊白書』。Togahi(冨樫義博)の作品はどれも傑作だよ・・・『Hunter x Hunter』もだ。『聖闘

今この時を自分の夢に生きてくれ――
何か良いことが起きるだなんて待っていないで・・・自分で事を起こして！

士星矢』もお気に入りの作品だな。フィギュアを集めるのも好きだよ。そういうマンガにある古典的な精神が素晴らしいね。友情、忠誠心、決して諦めず、自分の感情を隠さない・・・俺の考えじゃ、世界の中でも最高の文化の一つだね・・・それが日本で誕生したものなんだよ。2つ目は任天堂・・・完璧な"おたく"みたいに思われるのはわかっているけど、ガキの頃から任天堂のものはほとんどコレクションしているんだ。莫大なコレクションだね。日本のゲームキューブとヴァーチャルボーイだけ欠けている・・・もしPETROGRADの作品とトレードしたい人がいたら、連絡をくれよな!!
日本のバンドも大好きだよ。インターネットにも書いてあったし、Yuki(SP Records)も言ってたけど、MAXIMUM THE HORMONEは日本でもかなり人気のあるバンドなんだってね。ヨーロッパ人の俺にはとてもエキゾチックだし、魅力的なバンドだよ。でも彼らが歌っていたり叫んでいる言葉が一つもわからないんだけどね。ギターとドラムが姉弟だと聞いたけど・・・本当かい？それが本当なら素敵だね！彼らはこれまででも好きなバンドの一つだよ。いつかライヴを見てみたいね。
ASIAN KUNG-FU GENERATIONは『NARUTO』のオープニング曲をやっていたと思うんだけど、あれも素晴らしいね。彼らのアルバムを初めて聴いた時、ソングライティングもレコードで表現されていることも完璧で驚いたよ。でもyoutubeで彼らのギグを見て、さらに仰天したね。ライヴも完璧だった。でもメンバーの顔はやってる音楽と合わない（ジョークだよ）。彼らの音楽が本当に好きだね！」

■最後に、日本の読者にメッセージをお願い！

「俺の大きな夢はPETROGRADか他の自分のバンドで日本ツアーをすることなんだ。そうなったら、音楽、"おたく"に関連すること、日本、と俺の好きなものが全部つながるね。君たちは日本でしか手に入らないファミコンや日本ヴァージョンの『聖闘士星矢』のフィギュアなど、素敵なものを手にできる所にいるから、少し嫉妬しちゃうよ。深刻にならず、俺たちが14年間やってきた曲を楽しんでもらえるといいね。これを可能にしてくれたSP RecordsのYukiやインタヴューしてくれたKenjiに感謝したい。今この時を自分の夢に生きてくれ。何か良いことが起きるだなんて待っていないで・・・自分で事を起こして！日本に愛とハグを」









THE ASSASSINATORS

デンマークの女性ヴォーカル・ハードコア・パンク・バンド、THE ASSASSINATORSの来日ライヴ(2008年)は本当に素晴らしかった。あんなに胸を締めつけられたライヴは記憶にない。ことあるごとに「良かったなぁ～」と思い出しては、デモ・テープからアルバムまでを通して聴いたりしているのだが…、ジャパン・ツアー後の彼らの動向が全く聞こえてこなかったのも事実。
活動しているのか、解散してしまったのか、一体どうなっているのか気になったので、ドラムのAndersにメールしてみたところ返信あり。その流れで現状についてのインタヴューを決行してみました。みんなやっぱりメタルが好きなのね。

■まずは日本ツアー後はどんな活動をしていたの?詳しく教えて。

Anders「思い出せる限りでは、ヨーロッパの多くのフェスティヴァルで演奏することに力を注いでいたよ。ドイツ、スウェーデン、それにフィンランドを廻り、素晴らしい旅になったね。ドイツじゃ、いい友だちのD.S.Bにも会えたし。最高だったな。2008年の夏には新曲を２曲、レコーディングしたんだ。これはAlerta AntifascistaからD.S.Bとの7"として、リリースされるはずだよ。これも嬉しいことだね。その後、StineとLisa、Annaはオーストラリアを旅し、Danielはバンドをやめてしまったんだ。Lisaがベースからギターに代わり、僕たちは新たにベーシストを探すことにした。それがノルウェーのバンド、HEVNのJaniだ。このラインナップがそろい、USAツアーのため練習に取り組んだよ。USに向かう前に４曲ほど新曲もレコーディングした。これは今年の後半に7"でリリースするつもりなんだ。USツアーを終えた後、Lisaがバンドを抜けた。Annaは今頃、オーストラリアで暮らしているよ。Stineは長い旅に出ている。Janiはオスロ(ノルウェーの首都)に戻っている。僕たちはバンドの解散をはっきり決めたわけじゃないけど、しばらくの間、中断というかたちをとっている。また動き出すと思うよ」

■2008年の日本ツアーはどうだった?日本で驚いたことは何かあったかな?君たちのショーは僕の人生の中でも最高の瞬間だったよ!

Anders「Kenji、君がショーを気に入ってくれたと知って感激だよ。それに君に会えたのも嬉しかった。僕らは日本が大好きだ。みんながとてもよくしてくれたし、本当に素晴らしい経験になったよ。またいつか日本に戻れたらいいな。そうできたら最高だ。僕たちは"違い"を期待していたから、驚かされたと言っていいのかわからないんだけど。説明するのは難しいね。日本ではあらゆることが違って感じたよ。でも良い意味での違いだと思う。みんな本当に幸せだよ。集まって演奏して、音楽を味わっていると感じるのは素敵なことだね。それから、行くところどこでも、木の葉が紅く鮮やかに色づいていた。見事だったし、魔法みたいに感じたよ」

■2009年にUSツアーをしたよね。誰がオーガナイズしたの?ツアーは順調にいった?アメリカにはどんな印象を持ったのかな?

Jani「Greg Dalyがツアーを企画してくれたんだ。手を貸してくれた、とにかく凄いやつだよ。US中を引っ張りまわされたのにはびっくりしたね(笑)。でもツアーはポジティヴな驚きだったな。だけど、ヨーロッパと比べると、ショーを企画することに関しては20年前のようだなと思った。でもそれが別の国のやり方だ。僕たちはスクワットや自分たちを取り巻いている文化的なものなんかの、ヨーロッパ標準てやつに駄目にされている」

Anders「USでの体験は面白かったよ。たくさんの素敵な人たちにも出会えたしね。デンマークがどこにあるのかわからないと話しかけてくる人もいて、ドイツの上だと説明しなくちゃならなかった。あれはちょっと妙な気分だったな。車を運転してくれたGregと旅をしたのはクールだった。彼はとびきり素敵なやつだね。全体的に良い旅だった。最悪だったのは、どういうわけか猫のクソの中で眠ってしまって、どうしようもないひどい

匂いで目が覚めたことかな。服は茶色まみれになっていて、最悪だったね。クソったれ！それ以外はクールだったよ」

■K-townのパンク・シーンに変化はある？最近のK-townの状況を教えて。

Anders「僕の知っている限りでは、多くのバンドがプレイすることをやめてしまっている。今、どんな新しいバンドが活動しているのかよくわからないんだ。僕は今、主にデスメタルをやっていて、パンク・シーンで起きていることはあまり知らなくて。ごめんよ」

■Dodsmaskinenのことを教えてほしい。新しいスクワットなのかなと思うんだけど…そうなの？Dodsmaskinenは新しい"Ungdomshuset"なのかな？

Anders「Dodsmaskinenはスクワットではないんだ。合法のスペースだよ。Ungdomshusetが立ち退きを命じられた時にデモをした人たちが手に入れた場所なんだ。でもこの新しいスペースを手に入れるまでには長い時間がかかったし、人々は数多くのデモをやらなければならなかった。以前ならUngdomshusetで行われていたようなコンサートは、今ではこの新しい場所で行われている。他にも練習室や情報交換のカフェ、無料食堂のような活動場所としても使われていて、新しいUngdomshusetと言っていいんじゃないかな」

■D.S.BとスプリットEPをリリースするよね。それはどんな作品になりそう？

Anders「素晴らしいレコードになると思うよ。THE ASSASSINATORSが2曲、D.S.Bが2曲の収録になるんだ。友人でもあるE.A.S.T. PEACEのAkiraがアートワークをやってくれて、素晴らしい出来上がりになっているよ。作品は"LIBERATE!"になるだろう。僕たちは常に自分自身にとっても他の人たちにとっても自由であろうと努力するのが重要だと思っているから。できる限り、自由であるってことが」

■最近のお気に入りのバンドを教えて。ハードコア/パンク・ロック以外でもOKだよ。

Anders「気に入っているバンドが近頃のバンドかどうかわからないんだけど、そうだな、MASTODONかな。自分のことで言っちゃうと、僕は今デスメタルをやっているから、好きで聴いているのはデスメタルになるんだよね。デスメタルをプレイしている素晴らしいと思うバンドをいくつかあげると、CARCASS、BOLT THROWER、MORBID ANGELになるな」

Jani「最近よく聴いているのは、Nick Caveとインストゥルメンタルの映画音楽を作っているWarren Ellisだね。でもTHE BOX TOPSやTHE ANIMALS、KINKS、それとKenny Rogersに限っては『conditions』と『The Gambler』だけになるけど、こういう60'sミュージックも好きだな。あとは、CROSS STITCHED EYES、SANCTUARY IN BLASPHEMY、WORLD BURNS TO DEATH、BASTARDなどのパンクの作品もいいね」

■デンマークの今の政治についてはどう思ってる？君たちが最も気に病んでいるデンマークの社会問題は何かな？

Anders「デンマークの政治状況は最悪だと思う。国は右翼政党に支配されているんだ。政治的亡命志願者や移民に対する扱いはひどいし、デモをする権利のような、人間の権利を奪う法律も作っている。大きな問題のひとつは、左派であると考えられている政党がより多くの票を獲得できるという理由で、右翼政党の真似をしようとしていることさ。結局はほとんどの政党が似たり寄ったりになっている。これは愚かなことだよ。自分たちの政策を形にしていく方に関心が向いていて、国民のことを考えるのは後回し。彼らは権力を手に入れることができるからね。でも政党と政党の間にある違いがほんのわずかな場合、そこに民主主義が存在しているとは思えない。とにかく、政党がなかったら良くなっていくんじゃないかと僕は思うんだ。こう考えるのは、僕がアナーキーの考え方が好きだから。この意味は僕にとっては、他の誰かに何かをやらせようと命令する権力を持つ者、あるいはやりたくないことを無理やり人にやらせようとする者が存在しないってことなんだ。幼稚なのかもしれないけれど、これは僕の理想だよ」



■ところで、デンマークではどんな日常を送っているの?仕事はしている?

Anders「うん、学校で働いているよ。働いているのは特殊学校で、できる限り自分の力で判断していく力を生徒たちに身につけてもらおうとするところなんだ。行われていることは素晴らしいし、ここで働くのは好きだよ。僕は先生ではなくて、掃除を担当している。歴史と哲学を学んでいて、いつか教師になるつもりなんだ。もちろん音楽はいつもプレイしているよ。THE ASSASSINATORSの他にUNDERGANGというバンドもやっている。これはブルータルなオールドスクール・デスメタルだね。仕事や音楽をやらない時には、文章を書くのも好きなんだ。いつか自分の本を出版できたら嬉しいけど、実現は難しいな。自分で出版するとなると、相当な金が必要になるからね」

■じゃあ、THE ASSASSINATORSの今後の予定はどうなっているのかな?

Anders「正直に言うと誰にもわからない。AnnaとStineがコペンハーゲンにいる時に、THE ASSASSINATORSについて話すことになると思う。これからのことを考えていくよ」

■君たちにとってのTHE ASSASSINATORSとは?

Jani「楽しむこと!最高の時間と良い仲間、それからビール」

Anders「世界へ飛び出していくチャンスを与えてくれたよ。行けるなんて思っていなかった土地へも行けたし、出会えるはずのなかった人たちとも出会えた。様々な考え方を知り、そういう歌詞を書くチャンスにもなったし、演奏するのを楽しむ曲を作るチャンスももらえたよ。希望を抱いているんだけど、僕たちの曲にインスパイアされたり楽しんでくれたりと、誰かに影響を与えることができたらいいね」

■曖昧な質問だけど、"パンク"は世界や未来を変えることができると思う?

Jani「それはやっていることや関わっているパンクがどんなものかにもよるんじゃないかな。音楽の面のみで言うなら、自分たちの生活や行動をよく考えさせたり、反映させたりして、人々を変化させることができると思う。もちろん、生活や人生を反映した歌詞を書いている場合だよ。もしかしたら今何もしていない人が、自分を取り巻いている暴力にまみれた世界/社会をサポートするようになるかもしれない。何かを変える力を手に入れることができて、世界中の虐げられた人々のために声をあげるような行動的な人間になるかもしれない」

Anders「イエスでもありノーでもあるな。ノーの理由は、歌うことによって、不正や権力の乱用などのあらゆる悪の面がなくなっていくとは思えない。イエスと言ったのは、パンクは個人個人を変えることができる。1人の人間に変化をもたらした時、ある意味それは世界を変えたことにもなるんじゃないかな。もし多くの人たちが変化していったら、世界は完全に違うものになるだろうね」

■日本の読者にメッセージをお願い。また君たちに会えるのを楽しみにしてるよ!

Jani「High 5!」

Anders「またいつの日か日本に戻れたらと願っているよ。みんな来ることがあったら、僕たちとパーティーしよう!またね」



パンクは個人個人を変えることができる 1人の人間に変化をもたらした時 ある意味それは 世界を変えたことにもなるんじゃないかな







UMEÅ FRONTLINE VOL.2

BROTTSVÅG!

ドウモ、Umeåの時間です。今回は2006年結成のニューカマー(けどメンバーはどう見てもアダルト)、Brottsvåg!のインタヴューをお届けします。現状、「Det kommer en」と「Saker dom gör」という2枚のデモCD-Rをリリースしているだけなのだが(取材後の2010年1月末に新しいCD-R作品をまたもや2枚リリース)、クセのある芯の強い男性ヴォーカルに、艶やかな女性ヴォーカルが絡むそのサウンドは、Masshysteriなどに代表される現行のスウェディッシュ・パンク・ロック好きには間違いのないもの。初々しさこそないが、渋味と素朴さが混在した極上のバンドです。メイン・ヴォーカリストのJonas(無記名の発言は彼のもの)と、ベース・ヴォーカルのKarinが主に答えてくれた。

■Brottsvåg!が結成されたのは2006年だよね。どんな風にして結成されたの?

「音楽をやりたがっている奴らが集まって、Brottsvåg!は結成したんだ。出発点は俺が政治的なスウェディッシュ・オールドスクール・パンク・ミュージックを作りたくなったってところだね。そして、同じ関心を持つ友人たちが参加していったのさ」

■Brottsvåg!て名前は、英語で"Crime Wave(犯罪の急増)"ってこと?

「自分たちに似合う名前を見つけるのに苦労していたんだよ。けど、俺たちはUmeåフィルム・フェスティヴァルが所有しているライブラリーの地下室で練習をはじめた。で、バンド名を求めて本を色々と見ていたら、"Crime Wave"って本を見つけたんだよ。その後で、それをスウェーデン語に翻訳したら…、そいつが俺たちにとって完璧な名前Brottsvåg!だったってわけだ」

■君らが2枚リリースしたCD-Rは凄くイイと思うんだけど、どうしてCD-Rで出したの?クオリティも素晴らしかったから、アナログ盤なりCDでリリースすべきだったんじゃないかな。

「あぁ、何よりもアナログ盤はベストだね!俺たちがアナログ盤でリリースしなかった理由は、多分、俺たちにはBrottsvåg!という名のプロジェクトにかけるだけの必要な時間が、本当になかったんだと思う。もし俺たちがもっと若くてもっと飢えていたのなら、レコードを作ろうと、もっともっと努力をしたんじゃないかな。ただ、いくつかの会社(※レコードのプレス屋のことだと思われる)と話しもしているから、近い将来アナログ盤でシングルを作るつもりではいるよ」

■「Det kommer en」のアートワークで警官の写真を使っていたよね。どうして警官だったの?「Saker dom gör」のアートワークに写っている男性も警官?

「そうだよ、「Saker dom gör」(英訳すると"Things they do")も警官だね。あの警官は3人のティーンエイジャーが1946年に起こした犯罪を調査しているんだ。その少年らはサバス・サボチャーズとメディアから呼ばれていた。なぜなら彼らはいつも土曜日に犯罪を犯していたのさ…。警官をジャケットに使っているのは、もちろん俺たちのバンド

名、Brottsvåg!(Crime Wave)に関連しているよ」

■Jonasのヴォーカル・スタイルから、僕はJello Biafraを連想するんだけど、彼からの影響ってあった?

「うーん、パンク・ロックにおける素晴らしい人物の一人である彼からの影響が"ない"と言うのは難しいね。ただ実際、例えば、P.F. Commando(※スウェーデンのパンク・ロック・バンド)のJanneとか、Kai Martin & Stick!(※同じくスウェーデンのポスト・パンク・バンド)のKai Martinから、俺はもっとインスパイアされているんだ。Biafraからも多少はあるかな…」

■どんなバンドから音楽的な影響を受けたの?Ebba GrönやKMSBといった古いスウェーデンのパンク・ロック・バンド?

「多くの素晴らしいバンドや、パンク、インディー、スウェーデンのプログレ・シーンのスタイルからも影響を受けているよ。俺に関して言えば、例えば初期のヨーテボリ・シーン、BrusetやSlobobans Undergång、それにもっと無名なバンド、Traste & Superstararnaなんかからの影響がより大きいと思っている。けどもちろん、君が挙げた偉大なるバンドからの影響がないと言うのは不可能だけどね」

■じゃあ、好んでずっと聴いてきているバンドを挙げてみて。

「Black Sabbath、Venom、Saxon、Misfits、Twisted Sister、Metallica、P.F. Commando、Bad Religion、Slobobans Undergång、KSMB、Traste & Superstararna、Ramones、PiL、Norrbottens Järn、Knutna nävar、Dead Kennedys、Roky Erickson、Traste Lindens Kvintett、Allan Edwall、Johan Johansson」

Karin「Patti Smith、Talking Heads、Silver bullit、Velvet Underground、PJ Harvey、Yoko Ono、Blondie、Siouxsie & the Banshees、MC5、Nirvana、November、Love、John Lennon、Bob Dylan、Stefan Sundström、Turid、Joe Jackson、Elvis Costello、Undertones、Buzzcocks、X-Ray Spex、Hellacopters、Johnossi、Doors、White Stripes、Clash、John Holm、Freddie Wadling…」

Magnus「Garbochock、Lädernunnan、Stooges、The Social Deviants、Sonic Youth、Ebba Grön、Imperiet、Mattias Alkberg…」

Fredrik「Imperiet、Public Enemy、Ebba Grön、KSMB、Eric B And Rakim、Dead Kennedys、Iggy Pop、Black Sabbath、Ozzy、Pixies、Sonic Youth、Faith No More、Bad Religion、Red Hot Chili Peppers、Nirvana、Hellacopters、Thin Lizzy、Doors、Ramones、Guns n Roses、Bob Marley…」

Eric「みんなの挙げた全てが好きだ」

■気を悪くしたら申し訳ないけど…、Brottsvåg!とMasshysteriはサウンド・スタイルが少し似ているように感じるんだ。彼らにシンパシーを感じたりする?

「いや、Masshysteriと比べられるなんて嬉しいよ。彼らは最高だからね!俺たち(Brottsvåg!とMasshysteri)は、パンクにおけるハードコアの側面よりも、もっとポップなところから同じように影響を受けているんだと思う」

■これと同じ質問をEpidemicsのEmmaにもしたんだけど(前号参照)、UmeåやNy Vågのシーンには格好良い女性ヴォーカルのバンドがたくさんいると思うんだ。その理由って分かる?女性がバンドをしやすい環境がシーンにあるのかな?

Karin「そうね、確かに素晴らしいバンドはいるけど、たくさんいるとは私は思わないわ。出来ることなら、もっとたくさんいるべきよ。それに、バンド個々で存在しているだけではダメね。若い女の子たちがもっとバンドを始めるよう、影響を与えることが重要。Umeåには、私やEmma、それに他の人たちも加わって一緒に活動している音楽組織、"She's got the beat"があるの。この組織は女性ミュージシャンのための環境を改善す



るように働きかけていて、Umeåの様々なジャンルで活動している女性たちにとって"She's got the beat"は重要なものだと私は思っている。とにかく、本当によくサポートしてくれているの!」

■日本でもそうだけど、英語で歌うバンドは数多くいるよね。スウェーデン語で歌うことに拘りはあるの?

「主な理由は、俺はパンクをスウェーデンでやっているからスウェーデン語で歌っている!俺が思うに、スウェーデンのパンクはそれ独自のサウンドを持っていて、それを例えば英語で歌ったら違うものになっちまうよ」

Karin「スウェーデン人のオーディエンスに向けてスウェーデン語で歌えば、メッセージがストレートに伝わるわ。歌詞が政治的だから、それは本当に重要なことなの!」

■じゃあ、歌詞の内容についても聞かせて。

「英語に訳してだよな?うーん、分かった、"Ord"て曲の訳がこれだ。

Class struggle - an old fucking word from a really naive and smokey seventies
Gender struggle - says boring feminist who is hysterical and banal
Reality shows struggle - the height of community on a free advertising channel

Propaganda of today has the sole aim to deceive us
to become self-centered, greedy bourge ois pig

Growth - we who have the most must be wary of inflation
Responsibility - it's up to you to secure your own pension
Fair - talk about fair trade a negros passion is his salary

the propaganda of today has the sole aim to deceive us
to become self-centered, greedy bourge ois pig
fine words are filled with hatred
a fucking nagging about freedom of choise





stupidity is the new philosophy

Freedom - a really important word that lets you choose your electric company
Terror - resistance is soon forbidden by law
Lie - ideological basis of power today

propaganda ...

■メンバーは他にも、Tangled InnとProtestkillenでも活動しているの?どんなバンド?

「Karinは、Tangled Innでベースとヴォーカルを担当していて、それはガレージ・ロック/パンクだよ。残念なことにこの素晴らしいバンドはもう存在しないんだ。Magnusは Protestkillenでベースとギターを弾いている。Velvet UndergroundにSonic Youth、Lee Perryからインスピレーションされたダブ・プロジェクトだ」

■今のUmeåのパンク・シーンをどう捉えている?良いところと悪いところは?

Karin「活気があるのが良いところよね。すごくポジティヴ且つアクティヴだし、バンド同士がお互いサポートし合う地方の雰囲気があって、楽しいわ。Verketっていう場所で私達は練習したりたくさんのギグを企画したりしているんだけど、そこがUmeåのパンク・シーンにとってとびきり大切な場所なのよ。悪いところは、バンドをやる若い人たちがそんなに多くないってことかしら。ミュージシャンは大体25歳を過ぎているし。いいバンドはたくさんいるんでしょうけど、ギグをするのにもちょっと苦労するかもね。時として、新しいバンドがシーンに入ってくるのは少し難しいのかもしれない。同じバンドが週末になる度によくライヴをしていて、それもちょっと退屈ね」



■新しい作品のリリース予定はある?

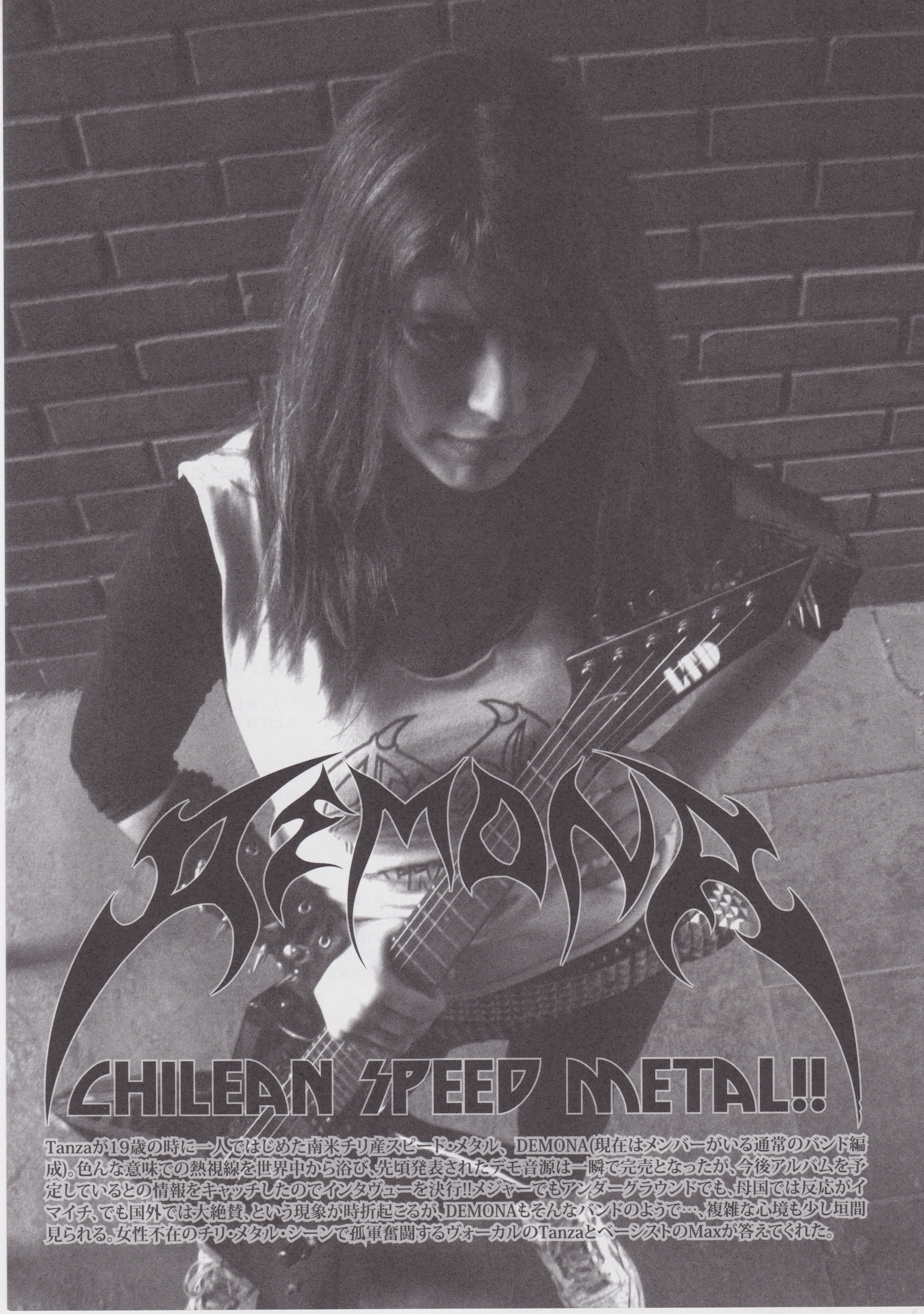
「うん、新しい2枚のデモをもうすぐ出すよ。あとは将来、"本当"のリリースも計画している」

■ところで、JonasはUmeåでホラー・グッズのお店を経営している?お気に入りの映画や小説を聞かせてよ。

「そうだよ、UmeåでBlodrödという小さなホラー・ブティックを経営している(もうすぐウェブのみになるんだけど:www.bloodred.se)。好きなホラー映画は、「Suspiria」、「Santa Sangre」、「The Beyond」、「Night of the Living Dead」、「Devil's Rejects」に「The Cabinet of Dr.Caligari」。あと俺は復讐ノの映画にも夢中なんだ。「Sympathy for Lady Vengeance」とか「Thriller - a cruel picture」もな。ホラーの本だと、「I am Legend(邦題:地球最後の男)」に、Poe(エドガー・アラン・ポー)と、Clive Barkerの書いたものなら何でも好きだ」

■最後に、何かメッセージを。どうもありがとう!

「俺たちは本当に日本に行きたいんだ!もし日本でライヴが出来るような話しがあったら、ゼヒ連絡をくれ!あと日本のパンク・バンドのみんなはMyspaceのフレンドに俺たちを加えてくれ。君たちの音楽を聴くのが大好きなんだ!」



DEMONA

CHILEAN SPEED METAL!!

Tanzaが19歳の時に一人ではじめた南米チリ産スピード・メタル、DEMONA(現在はメンバーがいる通常のバンド編成)。色んな意味での熱視線を世界中から浴び、先頃発表されたデモ音源は一瞬で完売となったが、今後アルバムを予定しているとの情報をキャッチしたのでインタヴューを決行!!メジャーでもアンダーグラウンドでも、母国では反応がイマイチ、でも国外では大絶賛、という現象が時折起こるが、DEMONAもそんなバンドのようで…、複雑な心境も少し垣間見られる。女性不在のチリ・メタル・シーンで孤軍奮闘するヴォーカルのTanzaとベーシストのMaxが答えてくれた。

■君とメタル・ミュージックとの最初の出会いを教えてもらえるかな?第一印象はどうだったの?

Tanza「まず初めに、インタヴューをしてくれてどうもありがとう。あなたと日本の読者、そしてファンをしっかり抱きしめたいな。DEMONAはもう女性1人のプロジェクトじゃないの・・・バンドなのよ。だからこのインタヴューはMax(ベーシスト)と私の2人で答えるね。あなたの質問だけど、チリはメタルに関しては女性不在の国なのよ。だからチリの人たちがDEMONAを聴くとこう言うわ。"おお、これって新しいね。それにそんなにひどくもない!"ってね(笑)・・・。だけど一方じゃ、こんなの好きじゃないと言う人もいる。ここには、私たちの演奏を求めている人なんか誰もいないわよ。ファンジンにもレーベルにもね・・・。悲しいわよ。だって他の国じゃなくて、自分の国で一番最初に好きになってもらいたかったから・・・でも今はどうでもよくなったわ。私は強くなったし、ちっとも気にしてないわよ」

■君のお気に入りのヴォーカリストを教えて。君のヴォーカル・スタイルは本当に魅力的だよ。

Tanza「ハハハハハハ!!そう思ってくれて本当に感謝するわ!!!・・・そうね、私の好きなヴォーカリストはACIDのKate de Lombaert、SENTINEL BEASTのDebbie Gunn、ZNO WHITEのNicole Lee、WARDANCEのSandra Schumacher、Bettina Paschen、DÉTENTEのDawn Crosby(R.I.P.)、SANTAのAzuzena、ORIGINAL SINのDanielle Draconis・・・それに彼らはとても重要な人たちだとも思うの・・・」

■1人でDEMONAを始めたのはなぜなの?DEMONAのヒストリーを紹介して。

Tanza「OK、まず3人のメンバーで"POISONED"ってバンドを作ったの。私とAnimal、Negro・・・私はギターを担当していて、とても幸せだった(以前は自分が歌うなんて考えたこともなかった)。でもこのバンドは解散してしまったの。あの時・・・。そう、私はギターを弾いて曲を作り続けたかったわ・・・。ある日、"自分が歌ってみたらどうなんだろう?"って考えてみた。自分の曲を自分で歌う。素敵だと思ったわ!!!!それで私がヴォーカルをとるバンドを作ろうと考えたんだけど、女性をメンバーにしたがる人たちなんて1人もいなかった・・・。げんなりよ。メタルへの興味は止められなかったから、一人でDEMONAを始めたの・・・」

■バンド名をDEMONAとしたのは?どんな意味を込めているの?

Tanza「わからないのよ!!!他にはないオリジナルの名前を考えただけなの。変わっているけど、女性を表すようなのをね。"Demon"て感じの名前がいいなと思ったけど、スペイン語で"Demon"は"Demonio"。辞書によるとDemonの女性名詞は存在しなくて・・・。それで"Demon"に"A"だけつけて単語を作っちゃった。私のこの説明を理解してもらえるかわからないんだけど。DEMONAは"Demon"を女性を表すように書いて生み出した私の発明かな。ヘヘ・・・」

■君たちのシーンは女性がバンドをやりやすい環境なのかな?それとも厳しい環境?

Tanza「間違いなく厳しいわよ!!!!でも私たちは気になんてしていないわ。自分のやりたいようにプレイし続けてる」



■曲を書き始めた時、こういうサウンドにしたいというアイデアは頭の中にあったの?

Tanza「ううん、ギターを手にして曲を作っただけ。ギターを弾き、アイデアを録っておいて。もしサウンドが良かったら、曲にしていく・・・特別なことなんてしていないわよ。想像力だけ・・・」

■デモのタイトル『Metal is Me』は、君にとってのメタルへの愛情を表したものだと思ったんだけど、どうなのかな?

Tanza「その通りよ!メタル、それが私という意味。なぜならデモの作品は私が作り出したものだからね。メタルが私の全てではないわよ、これは確か。でも、あなたが私のデモ・テープで聴いているこのメタルは、間違いなく私。だからメタルが私ってことね」

■歌詞はどんなことを歌っているの?

Tanza&Max「歌詞は、破壊、ごまかし、(もちろん)メタル、人間性、自分が感じていること、愛、それから人生などについてがほとんど。現実の生活に結びついた内容かな」

■英語とスペイン語の両方で歌っているように思うんだけど・・・そう?2つの言語を用いているのはどうしてなの?

Tanza「そう、あってるわよ。英語とスペイン語で歌っているの。自分の感情を英語の歌詞でどうやって説明したらいいのかわからない時があって、そういう時は母国語であるスペイン語で歌っているのよ」

■VECTOMの曲(「Loudness And Speed」)をカヴァーしているね。なぜこの曲をカヴァーしたの?この曲の歌詞に共感したからかなと思ったんだけど。

Tanza&Max「VECTOMは2人とも大好きなバンドの一つで、曲作りの際にインスピレーションを与えてくれる曲でもあるの。それで、偉大なドイツのバンドのカヴァーをやるのは素敵なアイデアだと考えたわけ」

■フル・アルバムをレコーディングしたと耳にしたよ。レコーディングはどうだった?順調にいったの?

Tanza&Max「そうね、ゆっくりだけど確実に進んでるかな・・・間もなく出るはずだし、『Die in Violence』ってEPも出る予定・・・それは次回のリリースになると思う。心の準備をしておいてね!!」

■現在のチリのメタル・シーンの良い面・悪い面とかは…?

Tanza&Max「シーンなんて知ったことじゃないわ」

■日本のバンドやカルチャーで知っているものはある?日本に興味はあるのかな?

Tanza&Max「バンドなら、SABBAT、META



LUCIFER、ABIGAIL、SACRIFICE、SIGH、BARBATOS、CUT-THROATなんかが好き。カルチャーに関しては、高度なテクノロジー、ヒロシマとナガサキ、ゲイシャ、キモノ(笑)、米(2人とも大好きな食べ物なの)、スシ、アニメ、寺、他にもあげきれないわね(とても基本的なものばかりで本当にごめんね)」

■君たちにとってパンク・ロックやハードコアはどういうものなのかな?パンク/ハードコアも好きなの?

Tanza「大好きよ!!!!!!曲を作るうえでのインスピレーションの一部だと思ってるくらいよ」
Max「俺は好きじゃないな」

■最近のお気に入りのバンドを教えてもらえるかい。メタル以外でもいいよ。

Tanza「もう、たくさんある!!!特にドイツのメタル・バンド、東ヨーロッパのバンドも好きだし、80年代のスペインのパンクもいい。ポーランドのパンクもね。もちろんチリの昔の曲も好き」



Max「俺が好きなのは、VIOLENT FORCE、DARKNESS、VECTOM、VAMPYR、BREAKER、ASSASSINのようなドイツのバンドだね。たくさんあり過ぎる!!東ヨーロッパや南アメリカのバンドも好きだな。メタル以外だとFABIO FRIZZIだね」

■チリではどんな毎日を送っているの?

Tanza「私は学生なの。英語の先生になるために勉強中よ。でもまだ今のところ勉強して2年目なんだけどね。自由な時間はDEMONAの活動とボーイフレンドと過ごすことでいっぱいいっぱいだから、働いてはいないのよ」
Max「俺も学生だよ。他の時間はメタルとTanzaで埋まってる」

■チリの政治についてはどう考えている?最も懸念しているチリの社会問題は何?

Tanza「政治は最悪過ぎて、話す気にもならないわ。ムカムカする」
Max「政治はクソだ。社会的な問題は、そうだな・・・貧困、環境問題、劣悪な教育、性差別、ペルー人の移民・・・第三世界の俺たちは打つ手がない」

■DEMONAのこれからの予定は?

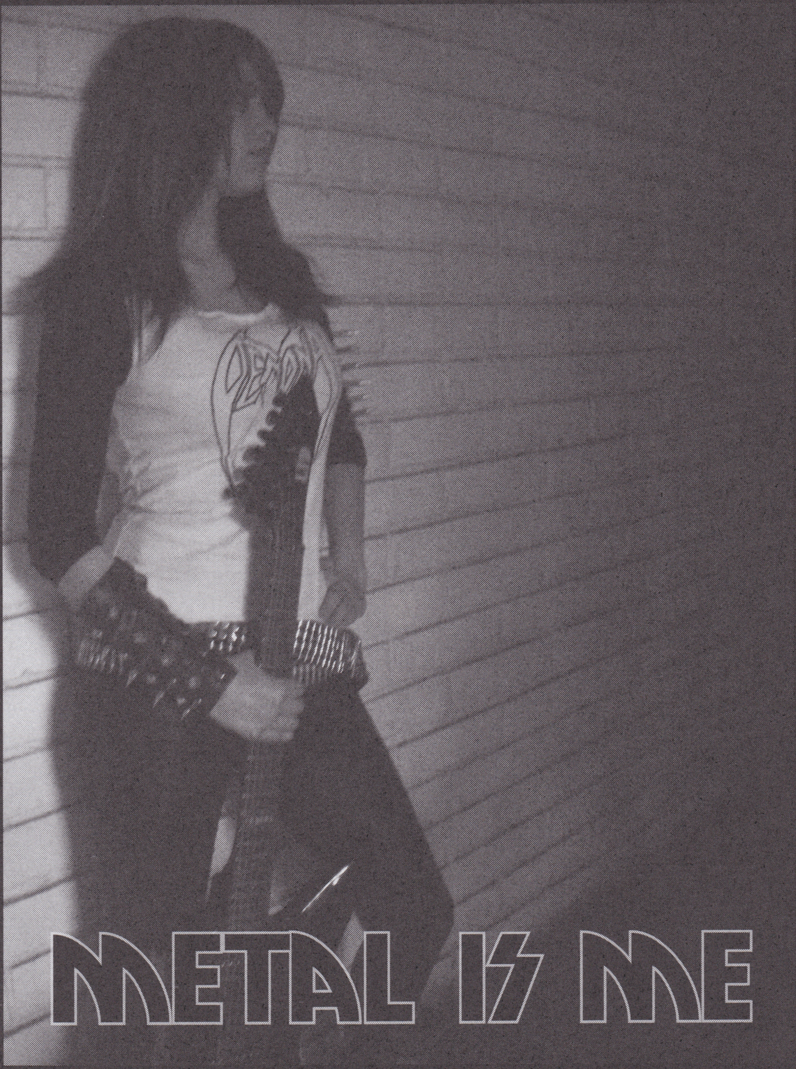
Tanza&Max「最重要課題は日本でプレイしたいってことね、ヘヘヘ。でもまだ誰からもツアーの誘いや何やらの連絡がないんだけど。ちょうど今、ファースト・アルバムとEPのレコーディングをしているところよ」

■君らにとってメタルとは?

Tanza「私の道よ」
Max「致命的な俺の生き方」

■日本の読者にメッセージをお願いします。どうもありがとう!

Tanza&Max「インタヴューをどうもありがとう。インタヴューに答えていて本当に楽しかった。いつか日本に行って、あなたやメタルヘッズ、DEMONAを気に入ってくれてるパンクスの前で、スピード・メタルをプレイしたいな。demonametal@hotmail.comまで絶対にメールして。2人ともコメントや記事を書くのが大好きよ・・・今はDEMONAの作品がない・・・全部売り切れてしまったけど、次のリリースを気に留めておいてね。日本にいる本物のメタルヘッズ、パンキッシュな破壊者たちに感謝を込めて!!!!!!!!!」

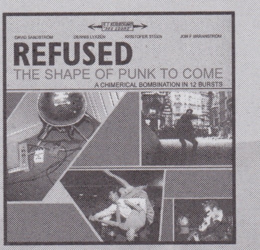


METAL IS ME

INVASIONEN INSTÄNGD REFUSED THE (INTERNATIONAL) NOISE CONSPIRACY INVASIONEN AC4

DISCS OF DENNIS

THE (INTERNATIONAL) NOISE CONSPIRACYなどで活動しているDennisのニュー・バンド、AC4の1st LPがリリースされている。これは取材したい!!と意気込むも、彼らのMyspaceを見ると、「能無しジャーナリストの取材を受けるのはウンザリだ!ファンジンで18歳以下の奴からの取材しか受けない」という主旨の文章が記されていた。私の周囲には10代なんてヤングは皆無…。年齢詐称するわけにもいかないので、インタヴューは断念することに。が、このまま引き下がる(?)のも悔しいので、勝手に彼の関わったバンドで、REFUSED以降の音源を紹介します。スウェーデンの"最もセクシーな男"にもランクインした、彼の鬼才っぷりが少しでも伝われば幸いです。



REFUSED/The Shape Of Punk To Come

Dennisの存在をスウェーデンから世界へと知らしめることとなったバンドと言えば、REFUSED。そして"Refused Are Fuckin Dead"という曲もあるように本作が最後のオリジナル・アルバムとなった(後に映像作品は発表する)。THE (INTERNATIONAL) NOISE CONSPIRACYへと繋がるガレージやジャズなどの要素も濃厚だが、T(I)NCとの決定的な差異は、基盤がNY系も含めたハードコアにあるということ。安易にミクスチャーとは言いたくない、あくまでも複合的なハードコア・サイドからのアプローチだ。

(BURNING HEART BHR 1042)CD

THE (INTERNATIONAL) NOISE CONSPIRACY/The Cross Of My Calling



閉塞感を感じるようになったREFUSEDを解散し、多くの人たちに届く音楽を創るべく結成。以前まであったハードコアという基礎部分を解体に取り去り、ロックそのものに肉薄しつつ、音楽に"愛"と"詩"と"思想"を込めた、Dennisのメイン・バンドの最新作。活動初期から混在していた、数多の要素(ソウル、ガレージ、ジャズ、パンク)が純化して結晶になったかの淀みのない作品で、どの角度から何回見ようとも完璧だ。基本、叫び倒していたREFUSED時代のヴォーカルとは全く違うデリケートな歌唱も当初は驚きだった。

(VAGRANT VR521)CD



INSTÄNGD/Konkret Och Brutal EP

Dennisが唯一フロントに立たずにドラムを叩く、スウェーデン～フィンランドの82、83年くらいに狙いを定めたようなバンドの2ndシングル。T(I)NC作品の高完成度と真逆を行く、しかし、確実に計算済みの初期衝動"風味の"RAWハードコア・パンク。ドッタンバッタン一直線、曲も歌も音質もブレることなく北欧のハードコア黎明期を再現している。T(I)NCではWARPED TOURのような大きいステージにも普通に立っているが、このバンドではどう間違ってもそんなことは起こりえない。地下&混沌!!

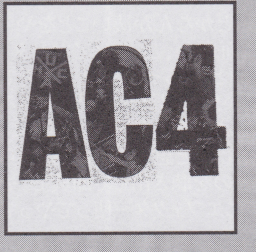
(ADULT CRASH #2)EP

INVASIONEN/Loser



THE LOST PATROL BANDから改名しての一発目となる音源。こちらでは一転して70'sパンク・ロック路線。"Teenage Dream"なんて曲名もズバリで、コーラス・ワークもベタベタのそれ。Dennisのヴォーカル・スタイル含め分かりやすくなり過ぎている感も否めないが、決して悪くはない。バンド毎に、米国大手のVAGRANTからデンマークのアンダーグラウンド・レーベルADULT CRASH等々と発売元まで幅広いが、本作はフランスのアパレル・ブランドのレーベルから。これまたどういう繋がりか、謎だ。

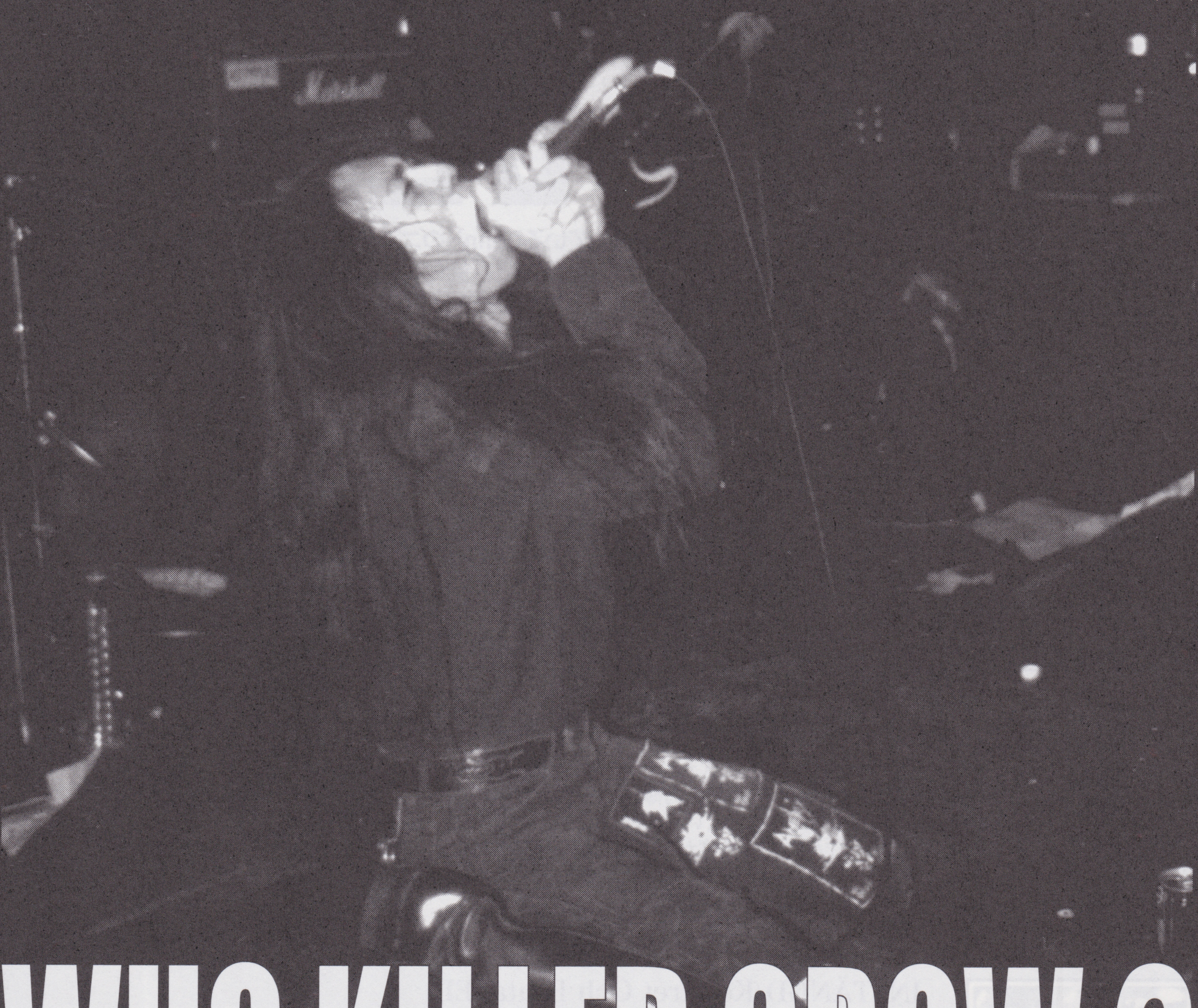
(APRIL 77 A77015)EP



AC4/st

そして今度は80's USハードコア・スタイルで。"何がしたいの?"と問われれば、"新しいことを色々したい"というだけなのだろうが、はじめるバンド全てがバラバラ。T(I)NCやINVASIONENではあり得ない、そしてREFUSED時代ともまた違うアグレッシヴなヴォーカルで一心不乱に突っ走る。音楽性自体は凡庸でよくあるスタイルだが、この上なくシンプルでキャッチーだからこそ、センスが光る。Dennisが主宰するNY VAGからの1st LP。尚、新作はオーストラリアの新興レーベルから、300枚限定のスプリット・シングルになる模様。

(NY VAG #123)LP



WHO KILLED CROW ?

クロウ・ロング・インタヴュー 後編

80年代からCROW［大阪］、GRAVE NEW WORLD、DEATH COMES ALONG、CROW（鴉）［東京］、解剖室といったバンドでフロントに立ってきているクロウ。パンク/ハードコアを中心に、バンドやユニットによってはサイケデリックやノイズもミックスして、"なんじゃこれは!?"という音楽と世界観を提示し続けている。常に思いつきが功を奏するユニークな発想は留まるところを知らない。というわけでクロウに100分を越えるロング・インタヴューを敢行。ほとんどの発言を載せるべく試みたが、一気に読むにはヴォリュームがありすぎだと判断して２回に分けた後編が今回の記事。DEATH COMES ALONG、東京で復活したCROW（鴉）、解剖室、そして彼のセンスとライフスタイルが表れたプライベートなことまでを訊く。

INTERVIEWED:行川和彦 ［2009年11月15日/渋谷ルノアール］

■93〜94年にDEATH COMES ALONGを始めた頃にはジャーマン・ロックに入れ込んでいたそうですが、どういうきっかけで聴くようになったのですか？

「なんやろね…やっぱりASH RA TEMPELとかGURU GURUとかを聴き出して"ああ面白いなぁ"というのが出てきて」

■周りの影響ですかね。もともとは聴いてなかったんですよね？

「うん。『フールズメイト』とか見たのとちゃうかな（注:もともと『フールズメイト』はそういうバンドをメインに掲載する雑誌だった）。で、"こんなサイケデリックがあるんだー、気違いみたいなバンドが"って聴いてみたら、GURU GURUの『UFO』とかノイズみたいで。もちろんCANとかなんか凄いことをやっている。これは面白い、と。ディアマンダ・ギャラスで即興とかあったけど、関西でBOREDOMSとか想い出波止場とかもちろん聴いてるんだけど、"あー（彼らは）こういうのを聴いてるんだ"と思った。FAUSTから何から、そういうのを聴き出して即興で。それもヴォーカルにエフェクター使ってやってたもんね」

■そうでしたね。

「ギターの人はMENSUってバンドやってて、一緒に仕事してたのね。一緒に仕事していた人が札幌系の人に多くて。GOD'S GUTSもおったし、吉野くん(EASTERN YOUTH)もおったし、D.M.B.Q.もおったし、そこらへんみんな根こそぎおった。MENSUのギターの影さん(注:ZOAの森川のユニット等で演奏して現在は魔術の庭のベーシストでもある影山裕之)に"ちょっとそういうのをやってみようか"と、DEATH COMES ALONGに」

■ドラムの人はBLOODSUCKERで叩いていましたよね?

「そう、BLOODSUCKER」

■確かBLOODSUCKERのヴォーカルが…。

「LAST BOMBのドラムやったね」

■GRAVE NEW WORLDもそうでしたが、けっこうLAST BOMBのつながりがありますね。

「うん。で、結局ベースは最初女の子というのがあったけど、変ってきて。後半はタコヤキくんがやったりとか、タコヤキくんがギターで入ってみたりとか、色んなことしてたね。でも、それはそれで、今、全然終わっているつもりはないのね。ただ、名前変えてやってるつもりだから、解剖室って(笑)」

■解剖室はDEATH COMES ALONGの流れにあると。

「だから解剖室のマークはDEATH COMES〜のマークを使っている。解剖室のメンバーで、やってるっていうか。要は、解剖室のベースもDEATH COMES〜でやってた。ジェットね。で、タコヤキくんはギターで。ドラムだけが違うけど、彼も最初DEATH COMES〜でということで話をして、DEATH COMES〜練習入ってたけど、イマイチ合わん。どうしようかなー…DEATH COMES〜でも続けたいなー…って思ったけど、なんかちょっとパンクみたいな感じのを練習でやってみたら、けっこうみんなノリノリになって。じゃあ解剖室ってバンドで、そういう感じのをやってみようか…というのでやり出したのかな。だから(解剖室は)あくまで、DEATH COMES〜の変名なのね。だからいつでもDEATH COMES〜はやるつもりなのね(笑)」

■両バンドは全然違う感じかとも思いますが。解剖室は即興とかではないし。

「うん…CROWとも違うし。でも、根底には流れてるよね、自分の中に」

■精神の面で?

「うん、やっぱり遠藤ミチロウってものが、真ん中には入ってるものがあるからね。それはやっとこそ、43になって、ちょっと出てきたのかな(苦笑)」

■なんで今まで…。

「なんで…今までカヴァーとかもしてないしね(笑)。でもやってみたら楽しいからってやってたら、すぐにレコードを録ったんかな」

■ぼくも解剖室をやるまではミチロウ云々というのは、まったくクロウくんからは思い浮かばなかったです。

「もう次のを考えてんねんけどね。いつレコーディングしようかと。いちおう佐藤さん(注:7"EP『髑髏』とCD『髑髏 髑髏 髑髏』をリリースしたH.G.ファクトの主宰者)から、解剖室出さへんの?ってこの前言われて、ちょっと考えようかなと。俺のイメージとしては(STALINの)「虫」っぽいのがいいなぁと。最近そういう感じの曲やってんねんけどね。でもBAUHAUSもいいなーって。だからまたグチャグチャになってる(笑)」

■まだライヴでは顔を隠してやっているんですか?

「CROWのヴォーカルとは完全に気分的にも分けるために、苦しまぎれにやったら、けっこう意外といいなーと。やっぱり頭の中で"遠藤ミチロウ=丸尾末広"とかがあって。やっぱり包帯ぐるぐる巻いてる。でも包帯ぐるぐる巻くだけじゃなーってことで赤く染めてみて。そうしたら意外とそれが好評で、これで顔を隠しゃいいなと。まったく全然気づかん人も多いからね。一応声の出し方も変えたりとかしてるし。だから、ほとんど俺の人生、思いつきやね。そんな計画性はない。たまたま思いついたことをやってるだけやね。それがつながってるだけやから」

■解剖室があるのもCROWの復活があったからだと思いますが、CROWを再開させようとしたきっかけは、どういうものでした?

「飯嶋さん(マングローヴ・レコード/レコード・ショップ・ベース)と話しとって、"CROWのベストを出した方がいい"と言われて。それで、セルフィッシュのからLPから全部入ったやつでCD(『Anarchy Chaos Destruction』[97年])を作るっていうので、その時に"ライヴやってみようか?"って。それで法政(注:かつて数々の伝説的なライヴが行なわれた法政大学学館大ホール)でやったよね、前田くん(Too Circle Records)とかの企画で。そのために(ライヴ)やった」

■飯嶋さんも絡んだ企画ですね。音源集のCDを出すからまずは一発ライヴをやったと。

「うん。昔の曲をアレンジしてやった」

■ドラムをPAINTBOXのスグルさんが叩いたライヴでしたが、その時のギターとベースって?

「ギターがトミオくん、ベースがバビ(注:後に324で弾く)。だからドラム以外はしばらくそのまま。トミオくんと俺はそのまま現在に至る。ドラムが(今は)3人目に替わっているのかな。ベースが2人目」

■以降もCROWを続けたのは、その法政でのライヴの評判が良かったから?

「(その時の)メンバーがCROWをあまり知らんかった。トミオくんも全然興味なかった。逆に、それが良かったのね。"CROW好きだから!"みたいなメンバーばかり集まっとったら、それで終わってた。だから違う発



DEATH COMES ALONG (東京)



想のがどんどん出てくるのね。だから前のぶり返しだったら一回で終わっていると思う。曲作ったら全然違う雰囲気のものが出てくるから。"これは続けてもいいな"と思ったら、ずっとつながっているから、たまたま」

■ギターのトミオくんはハードコア・パンク・バンドのJUNTESSで弾いていましたが、けっこうメタルの方の人でもありますよね（注：GAUZEのヒコや現DIE YOU BASTARD!のタカと共にスラッシュ・メタル・バンドのSABAZZでも演奏していた）。

「うん。前のCROWとは全然違うんやから。でも、まあいいかーって感じでCROWでやっているから。英語と漢字でロゴは変えて。"大阪CROW""東京鴉"で（分けて）」

■なるほど。

「今でも（"大阪CROW"時代のメンバーと）連絡はしてるよ。たまーに３人と会うこともあるし。俺は７年以上一緒におったりもしてたからね、なんだかんだつながってるよね。今のトミオくんは、もっと長くなっているけどね。"東京鴉"の方が10年以上やっているってことだからね。こんなに続くとは思わへんかったし」

■DEATH COMES ALONGのファーストLPをリリースした人でもありますが、やっぱりCROWの復活も飯嶋さんとの話が大きかったわけですね。

「飯嶋さんとの付き合いっていうのもね、けっこう古いよ。一番最初に顔を覚えたのは、飯嶋さんがVINYL（注：新宿のレコード店）の店員してる時。俺ね、DOLLを見とって"VINYLでAMEBIXの『No Sanctuary』が店に入りました"と（広告に載っていて）。あそこって（店頭放出日の）朝とか行ったら買えると思うてたのね。で、朝一で行った時に、もうないの。"おかしい！"って訊いたら、売れへん思うたから（店頭放出日の前日までに）ある人に売ってしまったと言うのね。それでムカついて（笑）。某バンドの人に売ったらしくて、悪気はなかったんやろうけど、俺はすごい欲しかったから、すんごい根に持って。しばらくしてDOLL（のVINYLの広告）を見たら、また『No Sanctuary』が入った。これは絶対に買う！と思って、徹夜したの。徹夜っていうか、前の日（店が）開いてる時から俺、待ってたの。『ここで待ってるからね』って。それで向こうも顔を覚えたの。それがVINYLの徹夜の始まり。俺が最初やったらしい、徹夜したやつの（笑）。それで『No Sanctuary』をやっと手に入れた」

■（笑）それは東京に来てGRAVE NEW WORLDを始めた頃ですかね。

「うん」

■ところで解剖室は日本語で歌っていますね。

「うん、あくまでも日本の、海外のことまったく考えずにやってる。単に自分のためだけにやってる」

■それまでずっと歌詞が英語だったのに、復活後のCROWの途中から日本語で歌うようになったのも大きかったのではないかと思いますが。

「でかいでかい。（CROWの7"EPの）『混沌神』がたぶん初めて、日本語でやったのは」

■それまでの自分の歴史の中で初めて？

「そうそうそう。適当な日本語を英語に訳してもらって、それいじってやってたけど、日本語でっていうのが頭にあって。インパクトが日本語の方があるよね。それでやってみたら、日本語で歌詞って難しいのよ。DISCHARGEみたいなのだったら、ハマるのよね。でもそうじゃないから、叫びづらいというのはあると思うんやけど、それが意外とできたね。また思いつきやね。それがハマって現在に至る」

■その一線を超えるのが大変だったのではないかと。

「うん、そうやね。その前に何年もやっているけど、片言の英語でやっていてもね、ほとんど文法とかもよくわからんで、単語単語の

叫びだけみたいな」

■それでヴォーカリゼイションも色々変わったところがありそうで。

「まったく変わっているね。一生…一緒のこと(続けるのも)いいけど、俺、飽き性やから、やっぱりそうやって変わっていくんやろなあ。……やっぱりGAUZEは凄いなと。あの姿勢っていうのは凄いんやと思う」

■ちなみにGAUZEと対バンしたことあるんですか?

「あるある。だいぶ前やな。CROWでやってるね。"前後ろでいきなりやっていくやつ"(注:ステージと客席後方で交互にバンドがプレイをしていく方式のライヴ)とか」

■復活後のCROWで?

「そうそうそう」

■そのスタイルのライヴということは"消毒GIG"ですね。あと復活後のCROWでは海外のレーベルからもリリースするようになりましたが、そのきっかけも飯嶋さんですかね。

「うん、やっぱ飯嶋さんやね。飯嶋さんつながりで…最初につながったのは、ARTIMUS PYLE。日本に来た時に。そこで話して『じゃあ今度行くよ』みたいな話になって、そこからプランク(注:サンフランシスコのPrank Records～本誌Vol.1のインタヴュー参照)とのつながりができたのかな。ARTIMUS～のロバートっていうのがすごいいいやつで。この前も一緒にやった、CONQUEST FOR DEATH(のメンバーでもある)。アメリカ行った時にもロバートはすごいよくしてくれてね。全然年下に見えへんけどね」

■特に最近は海外からけっこうリリースしていますよね。

「うん。"なんでアメリカなんやろ"ってみんなに言われるね。"イギリスじゃないの?"って。イギリスからお呼びがかからへんもんね」

■今イギリスからどうこうというのは、なかなか難しいんじゃないですかね。

「うん…。まあヨーロッパとか行きたいんやけどね。行くには金もかかるやろうし」

■わりと最近リリースしたSEE YOU IN HELLとのスプリット盤は、どういう経緯でできたのですか?

「あれは前田くん(Too Circle Records)が、仕切っているやつ(SEE YOU IN HELLが出演した企画ライヴ)に出たからかな。それでつながって」

■さきほど"解剖室は海外のことまったく考えずにやっている"と言っていましたが、CROWに関してはどうです?最近の曲は日本語でやっていますが。

「ライヴでも日本語でやっているけど、アメリカではウケるよね。なぜかわかんないけど。今、日本のハードコアってすごい人気があるから、それにただ便乗してるだけなのかも(笑)」

■いや、すべての日本のハードコアが人気あるとは限らないですから。

「日本のバンドは世界的にね、すごい大人気っていうか。正直言って、昔って俺はDISCHARGEとか好きでDISCHARGEからパクって。でももう今は日本のバンドからパクってるみたいなのが多いような気がするね、逆に」

■"ジャパニーズ・スタイル"っていうのがありますからね。

「うん。WORLD BURNS TO DEATHとかももちろんカッコいいなー、SEE YOU IN HELLももちろんカッコいいなー。どこかやっぱり日本の雰囲気が出ているね」

■月並みな言い方ですが、日本のハードコア独特の気合のパフォーマンスは外国になかなかないんじゃないですか。あと曲作り。アメリカのバンドは演奏が上手いのかもしれないですが、(最近は)曲が単調でつまらないのが多い。

「D-beatでノイズがシャリシャリでっていう…北欧じゃないや…」

■スカンジ?

「スカンジがアメリカは強いよね。結局、なんかみんな一緒に聞こえてしまってね」

■確かに。話が大きく変わりますが、今みたいな長髪に黒ずくめのヴィジュアルは昔からですか?

「そうそう。高校生の時ってけっこう短かったけど、高校卒業するときに坊主にして、それからずっと床屋に行ってない。というのは、顔に腫瘍があって、顔を(髪で)隠してたの、CROWやってた時も。ちょっと変わった血液の病気で、酵酸球性肉芽腫症っていうのがあって、それが顔にあった。それは原因不明やったの、子供の時から。だから、たまたま髪の毛伸ばしていただけ(笑)。それが二十歳越えた時からやっとその病気っていうのがわかって、入院して、放射線で焼きつぶしたのかな。それでもう今は、体のどこにもないと思う、表面的には」

■体の方にも?

「うん…中の方にあったらわからへんからね。顔はすごいわかるから、それで顔を隠し始めた。だからすごい写真が嫌いやったのね。だから(大阪拠点時代の)CROWの写真ってあまりないの。上手く顔が隠れてるような写真以外はない。顔の腫瘍がわかるようなのはない」

■LP『Last Chaos』の頃は今ぐらいに伸ばしていますが、CROWも初期は短めで髪を立てていたのですね。最初のライヴの時のヴィジュアルも凄いです……気張り方が地方のハードコア・バンドみたいで。

「大阪も地方やから(笑)」

■メイクもして。

「がんばってたね(笑)」

■(笑)けどLP『Last Chaos』の頃のCROWのあたりから、クロウくんのヴィジュアルが変わってないですよね。

「あ、でも、太ったよー。この前健康診断行ったけど、62(キロ)…ぐらいかな。服着たままで量ったら64ぐらいやったから。ベストがね、54ぐらい。だから10キロ近くは太ってる」

■太って見えないですよ。身長は何センチ?

「172」

■じゃあ54キロだとしたら、けっこう痩せた方に入るじゃないですか。今がちょうどいいのではないかと。

「うん。一時は40キロ台までいっていたからね。大阪おる時はガリガリやったから。あんまりブクブクにはなってないね。上手くごまかせていると思う(笑)」

■でも髪型だけでなく服の趣味とかも変わってないですね。

「単に金ないだけやから(笑)。これだって高校一年の時に買ったの、そのままましてるからね(といいながら入れ歯みたいに歯が並んだ形のバックルを見せる)。大阪の高島屋で何げなく見つけたやつを、今までしてるから(笑)」

■高島屋ですか(笑)。改造したわけじゃなくてそのまま?

「そのまま。一回折れて、どーしょうかなーと思うてオモチャ工場に見せに行ったら上手くハマって。それでずーっと直して使っている(笑)。これも74年のやつやからね。売れ残ってたやつをたまたま見つけたのかな。同じもの見たことがないけどね」

■それにしても高島屋とは。

「あったの、なぜか。学校で布とかも自分で染色とかもしていたから、クラフト/ホビーのところを漁ったりしていて。何かビスとかいいのがあるかなーみたいな。それでたまたま見つけた。靴とかやったら、なんかんだブーツもまだ家にあって、たまに履くしね。革ジャンも当時のまんま。あんまり服っていうのは…着れればいいよって。まだ若い時の方がビス打ったりしてたけど、(今は)あん

まり。無頓着」

■パッチ付けるのも早かったと思いますが。

「いや、でもけっこうみんなしてたよ、クラスト。俺の方が全然あと。単にボロを着てるだけで。それはホントにボロなだけだから、オシャレじゃなくて(笑)」

■ちなみに最近、CDやレコードを買ったりするんですか?

「うーん…最近は買ってないね。基本的にレコードやね。飯嶋くんの所(レコード・ショップ・ベース)に行って"何かいいのある?"って言って、それ買ってみたりとか。ツアーに来るバンドのやつを買ってみたりとか。情報を俺もそんなに求めてないからね。WORLD BURNS TO DEATHも一緒に向こうでやってから初めて知ったし。あんまりハードコアを積極的には聴いてないね。普段はもう今は歌謡曲ばっかり聴いてるからね」

■どのへんのですか?

「もう60〜70〜80年代の歌謡曲やね」

■マニアックなものではなく誰でも知っているようなの?

「そうそう。仕事中にガンガン携帯鳴らして聴いたりとか。中村中(なかむらあたる)っていう最近のやつ聴いとって、それが歌謡曲とか昭和歌謡みたいな雰囲気。そこから火が点いて色んなのけっこう聴いてるね、今は。なんだかんだ、(子供の頃は音楽に)興味なかったっていうわりには、頭は覚えているよね。テレビで聴いとったやつはね」

■サイケとかは買っています?

「サイケは全然買わへんね。たまーにYAHOWHA 13が出てたら買ったりするけどね」

■サイケはわりとB級ものがけっこう好きなんですか?

「うん、そうそうそう。アメリカのやつとかも、サイコ・レーベルで出てるのでは、俺、一番好きなのは、TERRY R. BROOKS AND STRANGEっていうバンドがあるけど、それはすごいカッコよかったね。あとイギリスのバンドのBODKINっていうのは、けっこう有名かな。それが軍隊調の曲で、なんじゃこりゃ!?っていう。あとは…やっぱりドイツのアンダーグラウンドのやつで、GERMAN OAKっていう。あれ最近レコードで再発したものね。あれは、すごい暗い雰囲気で好きやね」

■GERMAN OAKは昔からよくクロウくんが名前を出していましたね。

「あれはもう、DEATH COMES ALONGの中に一番取り込んでるものでもある。暗ぁ〜い、だらぁ〜っとした、即興みたいな感じの。そういうのが好きやね」

■NEU!とかみたいなクラブっぽいのは聴かない?

「ガサガサしたのは、あまり好きじゃないね」

■しけているというか、しょぼいようなの?

「そうそうそう。SPKのセカンドの『Leichenschrei』とかも、雰囲気がいいしね。WHITEHOUSEとかも初期の暗〜いやつとか、『Buchenwald』とか、すごい名盤やと思うし。どーしょーもないのが、マウリツィオ・ビアンキ(注:Maurizio Bianchi〜イタリアのノイズ・アーティスト〜通称MB)のやってたLeibstandarte SS MB。デビューなんやろね。それも、自分のMBのやつのノイズに勝手にWHITEHOUSEのやつがナチの演説とか入れたのかな。それが、いいねぇ。なんとも言えん味わいがあるよね。まあそれはサイケじゃないけど、あれは名盤やと思うね」


解剖室

■色々とバンドをやってきましたけど、一貫した趣味があるように思えます。

「単に聴かず嫌いなだけで、けっこう聴いてないもの、いっぱいあるよ。自分で買うレコードっていうのも、けっこう少ないしね。ROLLING STONESなんか買ったこともないし。BEATLESは一枚買ったことある。それは「I Want You」って曲が聴きたかったから。暗ぁ〜い変拍子みたいな、のんべんだらりしたあの曲すごいなと思って、『Abbey Road』に入ってて。一枚買ったことがある」

■王道ものを聴いてない感じですね。まあDISCHARGEは王道でしょうけど。

「うん。ツェッペリン(LED ZEPPELIN)も買ったことないしね。ジミヘンは『Band Of Gypsys』のライヴを1枚買ったことがある。DOORSは全部持ってたね。DOORSは、やっぱり「The End」とかいいなーと思って。DOORSを聴きだしたぐらいから、のんべんだらり以外のものも聴けるようになったのかな」

■ということは、DOORSを聴くようになったのもけっこう歳がいってから?

「歳がいってからだね。こっち(東京)来てからやね」

■ちなみに本は読む方ですか?

「いや、読まへん読まへん」

■映画は?

「映画はけっこう見る」

■どのへんのものが好きなのですか?

「いちばん好きなのは…邦画でいえば『薔薇の葬列』かな。ピーターがデビューのATGの映画で。スタンリー・キューブリックがパクってるよ、やっぱり……フランスかどこかで観てるはず、ということがどこかに書いてあった。でも『時計じかけのオレンジ』とか、手法パクってるなってところがあるもんね。全然『薔薇の葬列』の方が早かったからね。なんとも言えん映画やね。すごい映画やなと思って」

■なるほど。

「あとポピュラーなの、アンダーグラウンドなの、やっぱり一番好きなのはゴシックなやつ。ベラ・ルゴシとか、『カリガリ博士』とか、あそこらへんの古いやつが好きやね。でも最近のやつでも何でもけっこう見る。最近"なんじゃこりゃ!?"っていうのは…。ジョニー・デップの今の"嫁さん"…フランスの歌手…ヴァネッサ・パラディの『エイリアンVSヴァネッサ・パラディ』って映画。音楽がカッコよかったりして…のんべんだらりだったりして(笑)…いい感じの曲。"BOREDOMSやってるのちゃうの?"って感じの曲やった。フランス映画とかもけっこう好きだからね」

■ところで、パンクとかハードコアへのこだわりはあったりします?抽象的ですが。

「うーん…こだわりはあるんやろうね、自分の中では。やっぱり、最近の中では、直接的な、政治的な攻撃とかは、まったく歌詞の中にはないけど。やっぱり…体制への不満みたいな感じのはCROWの中にあるよね」

■解剖室はちょっと違う感じですかね。

「うん。解剖室は…なんだろね…………」

■ドロドロした感じ?

「うん。CROWにはないものを補ってやって

るから。たぶんCROWでそこらへんのが生まれたら、もっとパンク、ポップになるかもわからへんし。でも解剖室って決してポップでもないやけどね。CROWとは違うパンクやね」

■日本的といえば日本的な。よく解剖室はADKレコードっぽいという話が出ますが、そのへんは聴いていたりしたのですか？

「うん、聴いてた聴いてた」

■奇形児とかMASTURBATIONとか？

「うん。やっぱり何だかんだ、あの当時出てたもの聴いてたもんね」

■STALINのギタリストだったタムのレーベルだからという流れもありますし。

「やっぱりMASTURBATIONは好きやしね」

■そういえば"大阪CROW"の前から考えると色々なことをやりながらも、クロウくんは音楽活動を休んだことないですよね？

「あぁ…他にすることないからね（笑）。ただそれだけだと。あと、何だかんだ、タイミングよくメンバーと上手く会っていってるんやろね。メンバーが、たとえばドラムがいないとかっていう時は、意外や少なかったり。"もう俺しばらく休む"って今のCROWも1年ぐらい休んだことあるけど、"もうやめる"とかって感じのこともあったけど。でも、何だかんだ、休んでた時でも曲とか考えたりして、またやってるみたいな感じやね。そんなことばっかり。やっぱり頭の中にあるんやろね。ただ"それだけ"じゃなくて、"それとは違うもの"も頭にはあるのね。だから、良くも悪くもいえば切り替えが早いとこもあるよね。たとえば解剖室を今やってるけど、飽きたらどうしようかぁ～、どんなバンド名でバンドしようかなぁ～、とかっていう発想から、違うものを考えてみるとか。"違うもの"がまた原点に戻ってみたりもするんだよ。今ちょっと気になるのは、ギターがすごいCHAOS UKみたいなどーしょーもないようなのをやってみたいなーって、バンド名は何にしようかとか、そういう発想があったりもするんだよね」

■確かにいつも切り替えが早いといえば早いですね。一つのものに執着してないといえば執着してないような。

「うん…あまり執着はないね、そんなには」

■よくメンバーがいないから１年とか２年とか止まったりするバンドがいるじゃないですか。そういうのがないのは切り替えが早いからかなと。

「うん。"このメンバーでしかできないことだろう"っていうのが今はあるからね。たとえば、メンバーを集めて"これをやりたいからやってくれ"じゃなしに、その人が入ってきたらその人のことも踏まえて（曲を作る）。だから当然変わったりもする。別に俺は変わるのは悪くないと思うのね。CROWでも、前のベース、前のドラムの時のとは、明らかに曲が変わっていってる感じがするから。それはもうその人でしか出せないものでやろうとしてるから変わるんであって、それは俺はいいとは思うから。でも昔の大阪のCROWやったら、そういうことはなかったね。俺がやりたい、こういうDISCHARGEみたいなのを、極端に言えば無理やりやらせてたようなものだったからね。それじゃ、まあ、つらいわね、一緒にやってても」

■そういうのがなくなったから、色々できると。

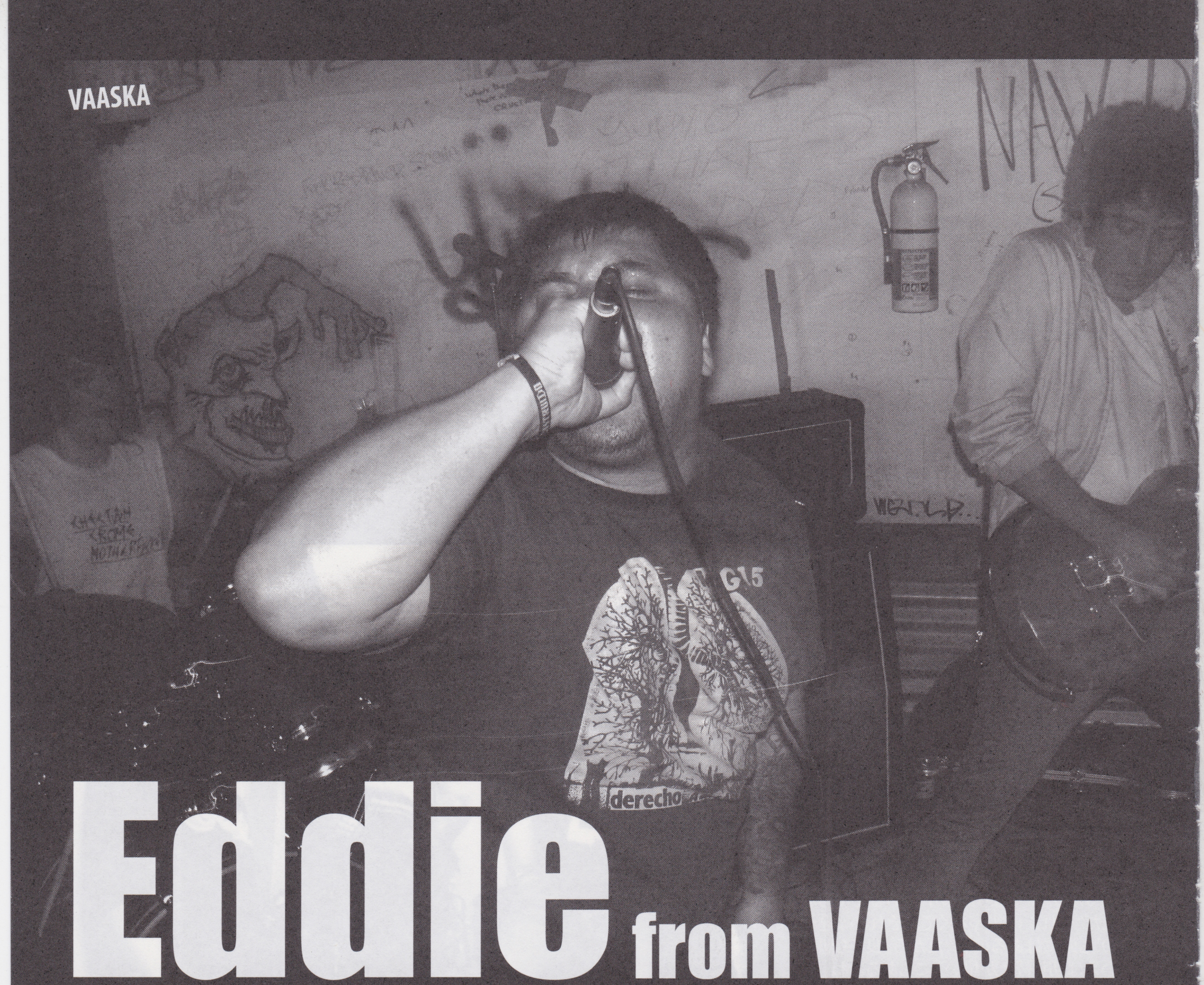
「うん。やっぱり、一緒にやってるっていうのは、すごい大事なことだからね。バンドを、その人とやってるっていうのはね。それを踏まえてバンドをやってるかな、今は。……東京だからメンバーが見つかるのかなぁ…ってもんでもないやろうしね。実はやっぱり東京はメンバーが見つかるんやろうけど。でも、けっこう、色んなバンド、あるしね」

■やっぱりクロウくんは周りに人を引き寄せるものがあるというか。周りに色々な人とパイプを持っているというのも大きいんじゃないですか。一つのシーンだけではなくて。ともあれ今日は長い時間ありがとうございました。

「ありがとうございました」



CROW/鴉（東京）



Eddie from VAASKA
BASTARD SONS OF APOCALYPSE DESKONOCIDOS・CRIATURAS

現在進行形の米国テキサス・ハードコア・パンク・シーンの重要人物、Eddie。
彼の名を地下シーンに知らしめることとなったBastard Sons Of Apocalypseは惜しくも解散してしまったようだが、より自身のバックグラウンドに肉薄し音楽的にも深みが増している、VaaskaとDeskonocidosはもちろん活動中で今年のCHAOS IN TEJASにも出演する予定だ(更にCriaturasという新バンドもはじめた模様)。彼が主宰しているレーベル、TODO DESTRUIDOのことも含めメールでのインタヴューを敢行した!!

PHOTO:Jack Barfield

■パンクとの出会いを教えてもらえるかな。パンクの印象って最初はどうだったの?

「パンクに夢中になる前はヘヴィ・メタルを聴いていたよ。アニキとおじさんの影響でね。IRON MAIDENやSLAYERなんかを聴いたな。12歳まではパンクになんてちっとも興味がなかった。パンクを聴くようになったのは、スケボーのビデオを見たり、いとこが録ってくれたカセットテープを通してだね。とっかかりは、MISFITS、DEAD MILK MEN、それからBAD RELIGION。15か16になるまで、ハードコア/アンダーグラウンド・パンクに夢中になることはなかったな。それくらいの歳になって、DISCHARGE、MASS ACRE 68、LOS CRUDOS、(日本の)CONFUSEなんかを聴くようになったんだ。そういうバンドは聴いた瞬間にガツンときたね」

■どんな子供だった?子供時代をどんなふうに過ごしたのか聞かせて。

「俺には2人の姉妹とアニキがいて、母親が育ててくれたんだ。ひどく貧しかったけど、母親はできるだけのことをやってくれたよ。青春時代はスケボーとパンクにとにかく夢中だった。膝に大怪我して、もうスケボーができなくなっちまうまでは、バンドをやろうとも音楽を演奏したいとも考えたことなんてなかったよ。20歳頃までは音楽をやっていなかったんだ」

■音楽のキャリアも教えてもらいたいんだ

けど、BASTARD SONS OF APOCALYPSEの前にバンドはやっていたの？

「BASTARD SONS OF APOCALYPSEの前にFILTHY FUCKERSってバンドにいたよ。タイプで言えば、90's アメリカン・アナーコ・パンク・バンドかな・・・ポリティカル、それとビール！」

■BASTARD SONS OF APOCALYPSEはスウェーデンのD-beatハードコアから直接的な影響を受けているように思うんだけど、BASTARD SONS OF APOCALYPSEが結成されたいきさつはどうだったの？

「BASTARD SONS OF APOCALYPSEはFILTHY FUCKERSにいた３人のメンバーで結成したんだよ。俺、Migas、Ericの３人。そこに親友のOmarがドラムで入った。俺たち全員とも、DISCHARGE、ANTI CIMEX、TOTALITAR、AVSKUM、SKITSLICKERSのような素晴らしいバンドに影響されてたし、本気で好きだった。それで、BASTARD SONS OF APOCALYPSEを結成しようぜってことになったんだよ。それにFILTHY FUCKERSのメンバーには、ツアーもだけど、他の街で頻繁にプレイすることもできないやつもいてね。俺たちはそういうこともやりたかったんだ。そう、君の言う通り、スウェーデンのハードコアにもかなり影響を受けているぜ」

■VAASKAとDESKONOCIDOSも紹介してもらいたい。DESKONOCIDOSにはロウなパンク・ロックの要素を感じるよ。それに、VAASKAは様々なハードコアの要素（フィンランド・ハードコア、スウェディッシュ・ハードコア、ブラジル・ハードコア、etc）も含んでいるように思うんだけど。

「DESKONOCIDOSは初期のLAパンクにヒントを得た、80'sスタイルのスパニッシュ・パンクかな。最新LPはポスト・パンク/デスロックの感覚も入ってるよ。俺がオースティンに移った年にこのバンドを始めたんだ。前からメンバーのやつらのことは知っていたから、ばらばらにやってたやつらが集まって新しいバンドを組むのもスムーズにいったよ。自分たちがバンドでやっていきたい方向性も持っていたしね。VAASKAのほうはロウ・パンクだね。こっちは１年ちょっと前に、DESKONOCIDOSのドラムが別の自分のバンドでツアーに出てる時に始めたんだ。俺が曲を書き、DESKONOCIDOSのギター（Vampiro）がギター、DESKONOCIDOSのベース（Matt）がドラムを担当し、友達のLoganをベースで誘ってね。みんな別のバンドもやっていてとても忙しいから、それほどプレイはしてないけど。でも時間をみつけてはプレイしてるし、ツアーもやりたいんだよな」

■スペイン語で歌うのは君にとっては重要なことだよね？

「DESKONOCIDOSとVAASKAにはとても重要だよ。VAASKAでやりたいことはスパニッシュ・スタイルのパンクだから、スペイン語で歌うのは必須だったんだ。VAASKAで出したかったのはとことん強烈で獰猛なサウンドさ。だから、スペイン語で歌うほうがしっくりくるんだよ。個人的にも、英語以外の言葉で歌うほうが好きだしね。たぶん、俺がここに住んでいることにも理由はあるんだろうな」

■なるほど。歌詞ではどんなことを歌っているの？

「DESKONOCIDOSでは社会の問題やアンチ宗教、政府、それから俺たちに直に影響する世界の問題について。でも一番大事にしているのは、その時に歌いたいことを歌うってことかな。VAASKAでは、戦争、言論の自由、人権などについて書いているよ。でも新曲には、もう少し個人的な歌詞もあるんだ。自分で経験して感じたことだけを書いているよ」

■君はDISCLOSEのような日本のハードコア・パンクも好きなんじゃないかなと思ってる。君にとって日本のハードコア・パンクの最大の魅力って何？

BASTARD SONS OF APOCALYPSE

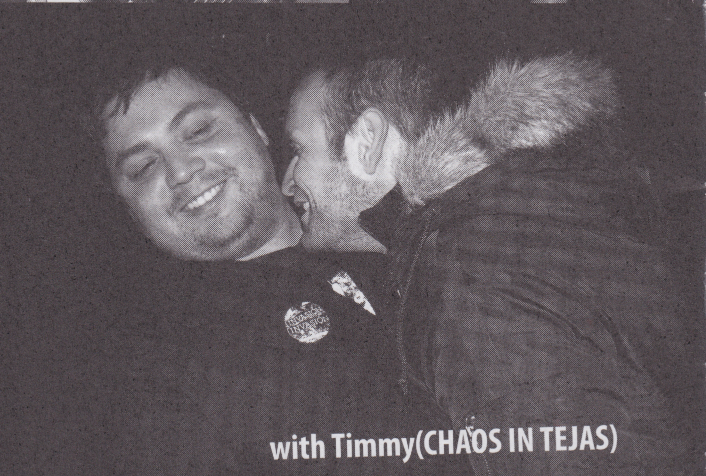




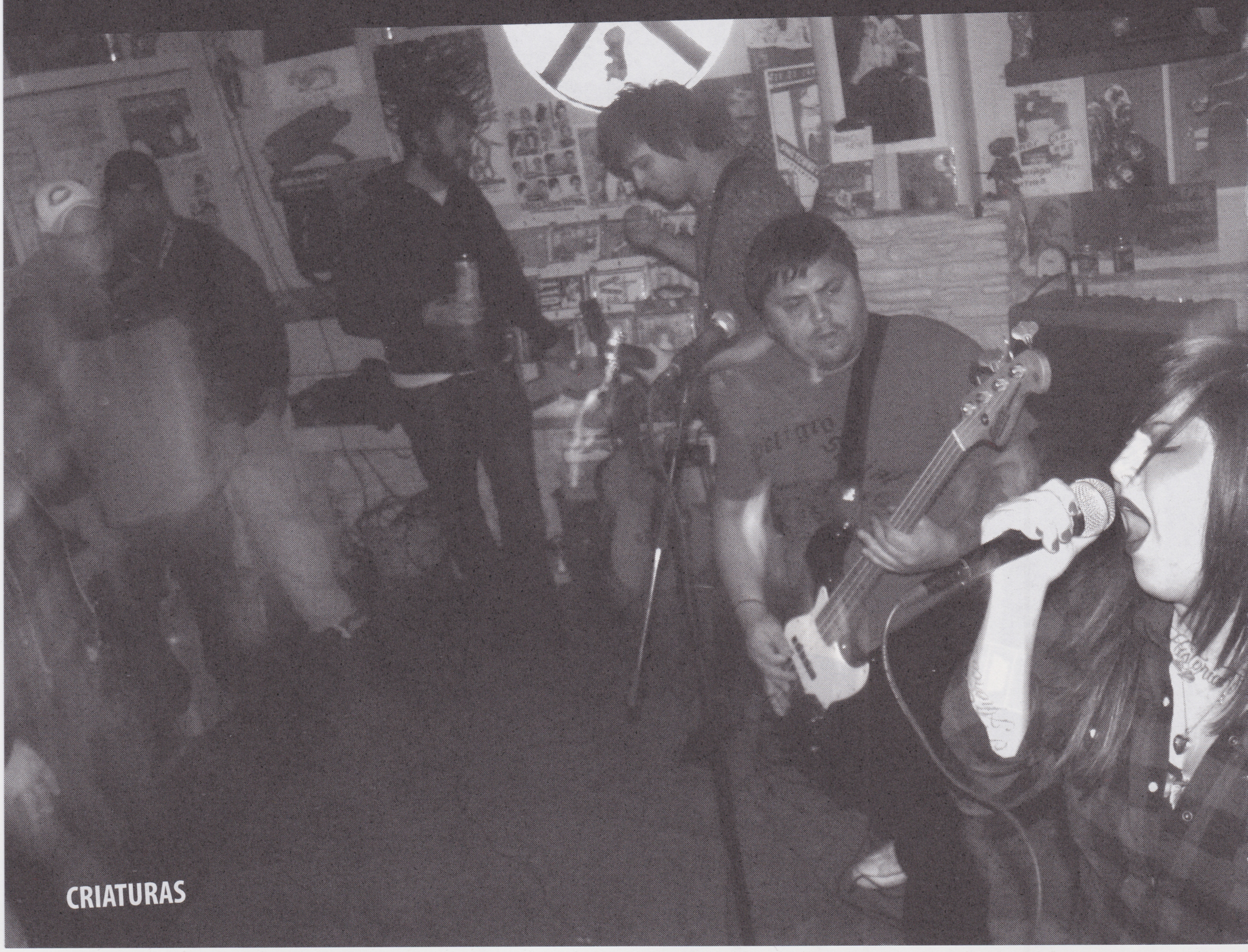
DESKONOCIDOS



VAASKA



with Timmy(CHAOS IN TEJAS)



CRIATURAS

「DISCLOSEやFRAMTIDのようなバンドも大好きだし、日本の"Burning Spirits"スタイルにもかなり興味があるんだ。JUDGEMENT、DEATH SIDE、FORWARD、PAINTBOX、NIGHTMARE、CRUDE、他にもたくさん好きなバンドがいるよ。こういうバンドの演奏技術が本気で好きだな。特にギター・プレイが・・・とてつもないほど素晴らし過ぎる」

■レーベルの"TODO DESTRUIDO"を始めたのはどうして?日本の読者にレーベルについても紹介してもらえるかい。

「TODO DESTRUIDOは2007年の後半にガールフレンドのDruと始めたんだ。自分たちがリリースしたいと思うバンドの手助けをするためにレーベルを始めることにしたんだよ。主にスパニッシュ系、南米、ラティーノ・パンク、D-beatバンドに比重を置いているけど、他のタイプのものもリリースしている。2010年にはいろいろと計画があるんだ。スペイン、ブラジル、クロアチア、他にも様々な国のバンドの作品を作るつもりなんだよね」

■それじゃ、バンドをリリースする際に、一番重要視している部分は何なのかな?

「最重要視しているのは、自分たちが好きなバンドってことさ。音楽のスタイルがどうあれ、どんな言葉で歌っていようが、そんなことは気にしちゃいないよ。そのバンドが好きならリリースするよ。確かに、スペイン語で歌っているバンドは大好きだから、リリースするうえでプラスの要素にはなるけど、それが全てじゃない。あとは、リリースしている作品のほとんどは、友達のバンドでもあるね。これはいつも欠かせないな」

■現在のテキサス・パンク/ハードコア・シーンをどう思う?テキサスの良い面と悪い面をあげるとすると?

「テキサスは大都市で、それぞれの小さな街にはパンク・バンドがいくつか活動している。悪い面を言うと、テキサスは巨大過ぎるから、自分たちが望んでいるほどには、他のバンドと一緒にプレイしていないってことかな。オースティンに関しては、ハードコア・バンドよりもパンク・バンドのほうが多い。良い面をあげると、誰もがみんな友達だし、共演もしていることだね。少なくとも、俺が思い出せる限りじゃ、常にこういう感じだと思うよ」

■これは漠然とした質問になるよ。これらのことについてどう考える?自由に答えてみて。"ハードコア・パンクの未来"、"アメリカの政治"、"フェミニズム"、"インターネット"。

「ハードコア・パンクの未来はますます成長していくと思う。将来考えられる悪い部分は、流行、イメージ。それに人生にとってパンクが大事だと考えている人間に対立する局面が出てくるんじゃないかと思うんだ。アメリカの政治については、汚職は続いているし、秘密主義も常に存在したままさ。フェミニズム。誰もが同じ権利を受けて当然だ。インターネットは良い面もあれば悪い面もあるな。連絡を取り合ったり、レコードを買ったりできるのは良いとは思うが、音楽をダウンロードしたりするやつがいるっていうのや、インターネット・パンクスになっちまうっていうのは悪い面だ」

■最近のお気に入りのバンドは?

「よく聴いているのは、DISCHARGE、ESKORBUTO、RIP、ANTI CIMEX、MG-15、LAMA、APPENDIX、MASSACRE 68、BASTARD、JUDGEMENTなんかの昔からのバンドなんだ。でも現在活動している、LEBENDEN TOTEN、MUNDO MUERTO、HEX DISPENSERS、MANIKIN、COMPLICATIONS、PUTAS MIERDAS、LOS MONJO、LA URRS、FRAMTID、DESTINO FINALなどもいいね。たくさんあり過ぎて、あげきれないくらいだ」

■ところで、今のDISCHARGE(Ratがヴォーカル)はどう?

「DISCHARGEは俺のお気に入りのバンドではあるんだけど、正直なことを言うと、Ratがヴォーカルをやってるのは聴いていないんだよ。Ratが歌うとは予期していなくて。誤解しないでくれよ。俺は1ヶ月前にVARUKERSを見ているし、彼らは素晴らしかった。でもCalのいないDISCHARGEは俺にとってはDISCHARGEではないんだ。もしDISCHARGEがオースティンに来ることがあれば、ステージを見には行くけど、今のDISCHARGEのレコードを買う自分の姿は目に浮かばないな」

■これからの予定や目標は?

「俺がベースを弾く、CRIATURASって新しいバンドを始めたんだ。女性がフロントに立つ、ロウ・パンクだよ。ちょうどレコーディングしたところで、間もなくデモ・テープを出すつもりだ。VAASKAのほうは1月には新しい作品用に1、2曲レコーディングするつもりだよ。DESKONOCIDOSは2010年の頭に出す予定で、新作のLPを作っているところなんだ。BASTARD SONS OF APOCALYPSEは終わった。TODO DESTRUIDOは2010年には作品をたくさん出そうってプランがある。それを考えると興奮するよ」

■日本の読者にメッセージをお願い。ありがとう!

「Stay Punk, Be Free!Ruido No Musika!」

E-MAIL : tododestruido@gmail.com

Stay Punk, Be Free! Ruido No Musika!



サカタルイードの「とびっきり静岡対談」

SAKATA-RUIDE (SR) VEKTOR x O-TA (O) 8000 x SAWA (SW) ZONE

1月8日(金)某所・・・・・・・・・・・・・・「曲がったコトはキライだぜ!」と思ってはいても、周りの先輩や仲間がほぼ全員曲がっている場合はどうしたら良いのですか?…というワケで全国の眠れない皆さん、こんにちは!静岡県代表サカタルイードです。ガキの頃からいつかはやってみたいと(恐る恐る)願っていた企画だぜ!静岡シティは清水の金筋ハードコアこと8000太田クン、浜松シティのカイザーソゼこと(笑)ZONE(&SO-WHAT)澤さんにハナシを聞きました。クレーム…はぁ?んなモンとんじゃか無えぜ!そんじゃ行ってみるでね～。

SR「8000は自分たちの企画ってあるんスか?」

O「8000はウケセン(受ける専門)だね。ツアーが来た時にね。富士(アニマルハウス)がなくなった今、今年どうするかみんなで考えてる」

SR「清水方面はお客さんは多いですか?」

O「浜松に比べるとやっぱ「半分」なカンジだね。ここのところデカいライヴが多かったじゃん」

SR「イベント自体が?」

O「そう、イベント自体がでかいからぼっかんぼっかん入ってるカンジ。SAWA君見てても、SAWA君出てる時わりかし客いるよね?清水・富士でも。あの～ほら、SO-WHAT出る時でもさ」

SW「なんか珍しいメンツだったもんね」

O「そういうのばっか続いたっけじゃん、ここんとこ。ほら、アニマルがツルさん(富士アニマルハウスのオーナー、先日亡くなってしまい追悼ギグが行われた)のだったり。だから普通のライヴってやっぱ50～60人って…」

SR「じゃあSAWAさんに質問です。浜松で定期的にやってる企画は何ですか?」

SW「"HP(キャットアグリー、ディルドス)"と"CALL UP!(ドレックス)"がしっかりやってるカンジだね。ホンガシ(P.R.C.J)とシンヤ(パラダイスミキサー)と…。あとは、あんまわからんもんね」

SR「お客さんはどうですか?東京と比べてみて」

SW「どうなのかね～(笑)」

O「浜松はハードコア自体多い気がするよ」

SW「酔っぱらいと○○○○○がね(笑)」

O・SR「(笑)」

O「静岡はさー、演者だったりするんだよね、客が。浜松はわりかし派手な客いるじゃん。見たカンジで」

SR「東京との違いっていうと、東京にそんな詳しくないんですけど、浜松って例えばZONEが出るライヴでも、DREXとかスキンズが来たりサイコビリーが来たりとか。8000のライヴでもそうじゃないですか」

O「でも、サイコビリーとハードコアは距離異常に近いよね。だから、よそみたいにサイコとハードコアを分けて考えるのは違うね」

SW「だって田舎だもんでしょうがないじゃん」

SR「静岡の方って、スキンズ系のバンドはいないです?」

O「"パンク"って言ってる人っちはいるけど、

全然そこからまないから」

SR「あとあのちょっと話変わるスけど、パンクに入っていったキッカケってなんですか？」

O「キッカケ…最初はスターリンとか普通にあーゆうなんての？アナーキーとスターリンからだったんだけど、スターリンでなんか足りない気がしてそのまま時差なくMOBS・G.I.S.M.・ZOUOでそれからだね」

SR「で、すぐバンド始めたんスか？」

O「ライヴハウスに見に行っていてお客さんだった時期が17～8くらい。あ、だけん、モリモト（ex RUSTLERギタリストであり、現7D mangoesギタリスト）とバンド始めたのが17の時だから」

SR「それもうRUSTLER（ラスラー）ですか？」

O「それがもうRUSTLERの初期。高1の時にライヴハウス行って」

SR「その時出てたのは誰ですか？」

O「その頃は、SO-WHATとデッドレスマス。んで、ちょっとたったらディスパッドかな」

SR「その頃行ってたレコード屋は？」

O「静岡の洋盤屋。あと…東京？」

SR「（東京まで）行ってってことですか？」

O「けどライヴ来た時に買ってたね」

SR「あぁ、物販で？」

O「うん、物販で。洋盤屋はモリカワ（ex SO-WHATヴォーカル、ex IDEA OF A JOKEヴォーカルで現younG Soundsヴォーカル&ギター）が店員で」

SW「"レジの金よこせや"つって（笑）」

O・SR「（笑）」

SR「SAWAさんがパンクに入っていった"これだぜ！"っていうのは？」

SW「周りのコワイ人たちがみんなやっていたので（笑）やらなきゃいかんようなカンジで」

SR「その時に周りのみんなで"このバンドいいぜ！"って流行ったのとかは？」

SW「YMOでストレイキャッツ、アナーキー、スターリンでG.I.S.M.ってカンジかな」

SR「だってSAWAさん、SEX PISTOLSのLP部屋に飾ってたらおかあちゃんに怒られて"SEXってなんなの？"つって（笑）」

SW「ドキドキしてたもん（笑）隠してたもんね」

O・SR「（笑）」

SR「で、レコード屋だって磐田にいたら無いスもんね？」

SW「浜松にはDISC36あったもんでね。オールディーズ系のとか扱ってる。そこだと入るのかたよってるもんで、自分行く前に売り切れちゃうもんでさ」

O「そうだね。DOLLの後ろ（ページ）眺めてたよね」

SW「先輩で仲いい連中とか、お兄さんがいるやつとか情報が早いわけじゃん。ヤバイと思うだよ。EPとか幼心に歌詞とか絵（ジャケット）とか」

SR「パソコンとか情報がこんなんなる前の方が、楽しかったこともあると」

O「あ～あ～。だってレコードって聴いてみるまでわかんねーじゃん。ジャケットでちょっとハードコアっぽいと思って聴いてみたら全然ねぇ、化粧系のハシリみたいな。なんての？」

SR「ポジティヴ・パンク？」

O「そう。ポジパンてさぁ、鐘が鳴ってるだけのようなのでもさ、なんかMOBSと変わんないようなジャケットとかでさぁ」

SR「あ～あ～」

O「ソドムぐらいだったらまだ聴けたんだけど、そのへんで聴けないのが結構あってさ。ジャケットね！」

SR「ジャケ買いしてみたら全然ハズレみたいな？」

SW「そんなんバリバリだよ」

O・SR「（笑）」

SW「そういう（音源）の後で聴いて、面白かったりするだけどね」

O「オートモッドまだやってるでしょ？」

SW「みたいだね」

SR「今回ウチらアルバムでオートモッドのカヴァーやって」

O「マジで？どれ？」

SR「"FRIEND"って曲があるんスけど、ボク筋通したかったもんで挨拶に行って"今回カヴァーさせてもらいますVEKTORです"って言ったら、"ウナギ持ってきたか？"って言われて"ウナギ…パイですけど"って言ったら、"オッケーオッケー！"って言ってくれてやっぱりコワ・カッコよかったです」

O「ほ～、ホントぉ」

SR「SAWAさん例えば自分以外の企画とか行くじゃないスか。それでなんか感じることとかないス？例えば、"CALL UP!"だと女のお客さん多いとか」

SW「みんなオシャレだし」

SR「オシャレっスね」

SW「バンドもお客さんも」

O「"CALL UP!"はたまに清水でやったりもするよ。例えばCOBRAの時だとさ、"CALL UP!"ってタイトルうってるよ」

SR「"HP（ハマママツ・サイコビリー）"は？」

SW「サイコビリーはスゴイと思います」

SR「（笑）ビッとしてますもんね」

O「カッコつけてていいよね、なんか真面目にやってるよね」

SW「あんまなんか乱れちゃってる人いない（笑）。どうなんだろうな。最近は、メスカリン（浜松メスカリンドライブ）でもやるようになった」

SR「あそこめちゃめちゃ（演奏）やりやすくないスか？」

O・SW「やりやすい！！」

O「あ～あと、902がやってるじゃん」

SW「ゼキさん（902ベーシスト）ら、やってるじゃん」

SR「あ、"GO. PUNK BODIES"？」

O「やっぱハコがありゃあね。アニマル（ハウス）と同じだけのハコがあればやるんだけどさ、結局ツアーも自分で受けんだけどさ。ただ8000で言わせてもらえば、シリーズギグはないけどツアーは受けてる自信はあんだよ。常に。で、こっちきたツアーはオレやってるからさ。ただそれにタイトル打つか打たないかって。だけど（呼んでもらったのを）断った方が頭に残るよね」

SR「太田君とかは目指しているところというか、着地点とかあるんスか？こうなりたい、とか」

O「あ～、ないね～。じゃあウチの衆らが全員辞めるっつったら、辞める。…辞めるけどただ誰かがやるっつったら最後までつきあう」

SW「ウチらとかもそうだけど"意地の張り合い"じゃない？」

O「そう、引くのはイヤだね」

SW「ここまでこういう所でこういうふうに残っちゃうと、バンド自体より人間関係が面白

いじゃんね、要は。たまに会って呑んでしゃべってもさ」

O「もちろんそう!だからそれっちがやってるからやってる」

SW「それキープみたいなカンジでしょウチらは」

O「終わりはないってことでしょ、要は」

SR「SAWAさんがSO-WHATをやろうと思ったのは、なぜ?」

SW「"やろうと思った"わけじゃないだよ。チェルシーの追悼で、条件が、ヨシ(SO-WHAT前ベーシスト)が弾けないから"オメーがベースをやれ"と、言われたもんで"だったらイイよ"つーことでやっただよ」

SR「ああ」

SW「それがなんか良くてね」

SR「気分的に?」

SW「うん、運動部みたいな体育会系のノリだけどさ。お互いにね」

SR「それを感じていると?」

SW「だったらこれをきっかけにね、ライヴやるとかどーのこーの考えずに練習、練習が張り合いにできたのがよくてさ」

SR「ああ」

SW「それを続けていこうと思ったんだよね」

SR「それはメンバーみんなで?」

SW「そうそうそう」

O「でもオレ静岡県内の誰がベース弾くよりも、SAWAくんでよかったと思うよ。オレもほらSO-WHATずーっと見てるし、ツアーも一緒にやってるじゃん、だからSAWAくんでよかったと思うよ」

SR「なかなか難しいんだよね、 だってSO-WHATのベースは。オレらから見ても変なやつだったら…」

O「でしょ!?SO-WHATとかってやっぱ静岡の名門だからさ、そこを弾けるだけの人じゃねーとオレら納得いかないわけじゃん」

SR「客観的にね」

O「そうそうそう、客としてね」

SR「ふたりともリリース予定ってありますか?」

O「今年はちょっとライヴ休んで4月くらいまでレコーディングするもんで」

SR「ライヴ休んで?」

O「ウチらライヴ入れちゃうとスタジオでも"ライヴの練習"になっちゃうだよ～(笑)だもんで"休んで"!」

SR「レーベルは決まってるスか?」

O「一応ねセンスレス(アポカリプス)のやってるBLURREDからミニ・アルバムを予定してまーす」

SW「んじゃオレも。ZONEが今まで(シングル等)のをまとめたやつを、DVD付きCDでね」

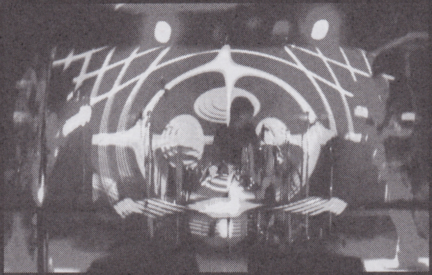
SR「HG(ファクト)ですか」

SW「うん」

SR「ベクターは新譜(TTTN)がマングローブからリリースしてまーす。んじゃ…こんなカンジですかね?」

O・SW「お疲れさまでーす(笑)」

いかがでしたでしょうか?自分自身インタヴューを受けたコトは何度かありますがインタヴュアーに挑戦するのは今回が初めての経験でかなり苦労しました。ただボクを含めた3人が「静岡CITY」を楽しく話す事で他の土地で暮らすパンクスはもとよりお客さんやリスナーの方に少しでも興味を持って頂けたら幸いです。インタヴュー最中に太田クンが「ほとんど使えないハナシだろ～」と言っていた通り、2時間の対談で使えたのは実質20分弱です(笑)。しかし大先輩ふたりの照れくさそうに笑いあう姿を見てボク自身何かモヤモヤしていたモノが吹っ飛んだのも事実。静岡方面のバンドに関しては太田クンの協力的な部分に思い切り甘えてしまいましたが最後にボクが感じている浜松シティとは…東京と大阪のほぼ真ん中に位置する関係でだいたいのツアー・バンドは寄って演奏して(遊んで?)いってくれます。ライヴハウス「Gサイド」「浜松メスカリンドライブ」ともに仲間が経営しておりどちらもツレん家感覚で温かいムード(笑)。バンドやってる人間なんてほとんどが不良だから個人レベルでの対立はあれど仲間外れも大した派閥も無い。現状程度なら個々の精神と行動で何とでも出来る、ロックが根付くべき自由な土地です。今回はライヴハウスとバンドしか紹介しておりませんが陰ながら努力、協力を惜しまない素晴らしいイベンターやDJも存在します。この原稿を作るにあたり日夜問わずチカラを貸してくれた太田クンと澤さんにこの場を借りてお礼をいわさせて頂きます。ありがとうございました。 サカタルイード(VEKTOR)



❶ 7D mangoes



❷ 902

❶ 7D mangoes

スペーシー+サイケデリック+ラウド+レベル・ミュージック=Mangoes Rock!! Vo&Ba/MASAKI Gu/MORIMOTO Dr/YAMA-Chan
企画=Electric Soap Land 不定期ながらも自主企画エレクトリックソープランドは31回を越え、2009年9月には新宿ロフトでMOUNT SYSTEMと合同企画を行ったり、静岡内にとどまらず、企画運営を行っている。 http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=mangoes7d

僕のラスラー時代からの盟友モリモトと僕のショクバー(職場)の盟友マサキが一緒に組むバンド、マンゴーズ。ハードコアとかとはカテゴリーが違うけど、ライヴは一緒にやるし、一緒に遊んでる気心の知れた仲間。
音の方は、スペーシーでグルービー!…と、その意味が分かるはずなんで、是非一度、体感してみて～!(O)

❷ 902
Vo&Gu/マサ　Ba/オゼ　Dr/カサマツ　　企画=Go.PUNKBODIES
BLOOD SUCKER RECORDより1st Album「犯される洗脳BANG」をリリース。

いまこの辺で「ジャパコア」って言ったら彼らのコトかもね！イケイケ！全員アホ（笑）。（SR）

❸ AGONY A.D.
富士、静岡を中心に活動。静岡では珍しいアメリカン・ハードコア的な音作りで、ノリが良く、疾走感があるライヴを行う。
Vo/眼鏡男　Gu/NIKKI　Ba/WATARU　Dr/HIRO-take　　企画=ETERNAL DANCE ORGASM
ホームページ　http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=mxsx

ヴォーカルのイワッサン（眼鏡男っていうの？）の必死は伝わってくるよ！曲でリズムのブレイクが多いのにビシバシ演奏が合って、小気味がイイ！難を言えば、僕がライヴに誘っても中々、出演してくんないのよーこいつら（笑）！ちなみにカマラーダ、Stupid Babies Go Madでドラムを叩くヒロタケがココもドラムを叩いております。（O）

❹ BEYOND HATE
Vo/TOK　Gu/GASHI　Ba/YOUKI　Dr/NAOLOW　　企画=HARDCORE STRIKES BACK 浜松G-SIDE
音源=「BEGINNING OF REVENGE」(1stアルバム)　「TRUE 2 THE GAME」(2ndアルバム)
2010年春頃にJUKE BOXXXレコードより3rdアルバム「反逆の狼煙」をリリースします。それにともなうツアーも行います。
NEVER SURRENDER！

ここもオレ達とは少し違うタイプだけど見事に全員アホです（笑）！ホンガシ（浜松Gサイドオーナー）、いつもサンキュ。（SR）

❺ BOUND
Vo/NARU　Gu/KEN　Ba/KAZU　Dr/RYO

ライヴが少ない！もっと観たいな〜。（SR）

❻ DILDOS
Gu/CHIKO　Ba/SHINGO　Dr/CHO　Vo&Gu/KEITA　企画=HAMAMATSU PSYCHOBILLY NIGHT
音源=BATTLE OF NINJAMANZ VS DILDOS PSYCHO MANIAX split single　　WET DREAM

ちなみに全員オトコです。キ○ガイロカビリー＝サイコビリーとは奴らのコトだぜ！ライヴは圧巻。（SR）

❼ DREX
Vo&Gu/TAKUMiX　Vo&Ba/TAKe　Dr&Cho/FAT　　企画=THE CALL UP!
音源=「Dregs and Rex」(1st)　「VOICE OF A NEW ERA」(2nd)　「10th Sense」(maxi)
浜松が世界に誇る"Street Rock Beat"DREX。芯がありながら幅の広い、かつルーツを感じさせる音楽性、類をみない独特のライヴ感。今後もツアー、リリースも予定しているので活動に注目してほしい！

素晴らしい行動力！集客力もあるし。タクミはメールでち○この話ばっかしてる（笑）。（SR）

❸ AGONY A.D.



❹ BEYOND HATE


❺ BOUND


❻ DILDOS


❼ DREX

❽ FAILURES



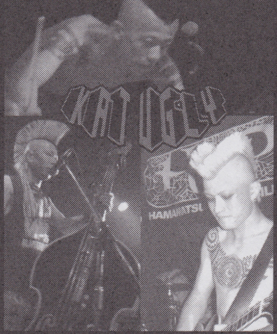
❾ GIPSY LIPLY



❿ H,K,



⓫ KAT UGLY



⓬ SENSELESS APOCALYPSE





⓭ ShadyGlimpse

❽ FAILURES

メンバー　Vo&Gu/HIROYUKI　Gu&Vo/MASAYUKI　Ba&Cho/TERA　Dr&Cho/JUNYA
音源=VA「THE CALL UP!」(Sounds Operation収録)
浜松を中心に活動中のstreet PUNKバンド！精力的にライヴ活動中！ライヴ・パフォーマンスには定評があり一見の価値あり！要チェック!!

ドレックスとよく一緒に演ってる若手パンクス。ヴォーカルはめちゃめちゃ歌ウマイっ！ヤバいよサカタルイード（涙）。(SR)

❾ GIPSY LIPLY

女の子3ピース。ジャンルにとらわれず、静岡の様々なライヴ・シーンでライヴをやっている。最近は、ハードコアやサイコビリーとの対バンも多くて、ムサクルシイ、野郎だらけのライヴに花をそえてくれる。
Gu&Vo/ミカ　Ba&Vo/イズミ　Dr&Vo/マイ　http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=gipsyliply

僕が最初に見た頃は漠然と、一緒にヤルコタァないなーと思っていたんですが、アレから何年？幾年月？お嬢ちゃん達がレイディーに成長して、音の方もカッコヨク！最近はウチの仕切りの企画にも出て貰っていて、今後にナニかと期待しているバンドです。(O)

❿ H,K,

言わずと知れた静岡ハードコアの御大キリ率いる、H,K,。去年には活動20周年を迎え、ますますの円熟！熱いライヴは必見！
Vo/KILI　Gu/TAKEDA　Dr/LARRY　http://hkcolor.nobody.jp/

H,K,のライヴは熱い！地元では盛り上がりがNo.1じゃーないかな。去年で結成20年だったけど、20年前の曲がまだ色あせなく、ライヴで聴けた…スゲー！スゲー！と言えば、ドラムのラリーは泥酔でドラムを叩き、叩きながら寝る？寝ながら叩く？という荒業を時々見せてくれるぜ！(O)

⓫ KAT UGLY

member=Double Bass&Vo/KI¥O$HI　Gu&Cho/K-SKE　Dr&Cho/ZOO　企画=HP night～HAMAMATSU PSYCHOBILLY～
音源=1st ALBUM「Foolish Fellow」　V.A「BIG RUMBLE WRECKIN CREW」vol.5＆vol.6
Message=「Does PSYCHOBILLY know music? A fast slap drives a brain mad!!」

地元が誇るNo.1サイコビリー！リーダーキヨシは常にビシッとサイコ刈りの木村カエラファン。(SR)

⓬ SENSELESS APOCALYPSE

海外にも知れ渡った静岡GRIND HARDCOREの雄!速く、重く、楽しい(マナブのMC)ライヴは必見!
Vo/Manabu　Gu/Haruhiko　Ba/Takashi　Dr/Kuniyuki　企画=Same Attiude
現在、15回を越えた企画は静岡サナッシュで不定期で行っている　http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=senapo666

ヴォーカルのマナブさんは8000や僕の前のバンド、RUSTLERのリリースのレーベル、blurred recordsの社長サンでもありまして、若い頃からお世話になってる1コ上の先輩でもあります。で、ウチのベースのテイチが以前、センスレスでギターを弾いてたりとバンド単位で縁もあります。新作もブラードから出るんで、マナブ社長！今後とも8000を何とぞヨロシクお願い致します！(O)

⓭ ShadyGlimpse

Vo/Takei　Gu/Shinya　Ba/Masashi　Dr/Suzuki　自主企画=ParadiseMixer
音源=2005「Fear of the Thrash Box」 2006「Thrashing Japs」 2008「ear thrash earth rush」 2010「Thrash Refrain Splash RefRain」

ギターのシンヤは「浜松メスカリンドライブ」のオーナーだぜ！スラッシュなのかな？曲も凝ってるけどオレは特に歌詞が好き。(SR)

⑭ SO-WHAT
Vo/NARU　Ba/SAWA　Gu/KEI　Dr/KURITA

静岡ハードコアの象徴のバンド。結成、何年なんだろう？若い頃から大好きなバンドでラスラーでツアーも一緒にやらせて貰って、殆どの曲、歌えるかなー。チョット前までアンマリ、ライヴをやってなかったんだけど、サワ君やナルが加入して、ライヴをバンバンやる様になって、1ファンとしては、嬉しい限り！今年も是非、絡まして貰いたいです。（O）

⑮ Stupid Babies Go Mad
「暴力、裸の女、札束!」を呼称にダーティーでスカムなロックンロードをひた走る。コアなファンも多く、ライヴはダイブ!ダイブ!ダイブ!
Vo/IMA　Gu/CHOH-BRAIN　Ba/MATSUI　Dr/HIROTAKE　　http://sbgm.y7.net/
企画=STUPID SCUM FUK　不定期で行っているがかなりの回数をやってる長寿企画。暴走反逆者STUPIDに見出されたバンド達が出演。

8000にとっての盟友的バンドのStupid Babies Go Mad。ヴォーカルのイマヤンがウチのイナバやテイヂと古いツレで、アニマルハウスの店長、僕もイツモお世話になっておりました。去年もそうだったけど、幾度となくメンバー・チェンジを繰り返すも、軸であるイマヤン、チョーサンにブレはなく、イツモのあのステージを見せてくれる。狂気を叩き付けて、狂気に至る！
…ちなみにヘルプドラムのヒロタケはAGONY A.D.とカマラーダでも、ドラムを叩いているよ！（O）

⑯ TAKUMiX and THE TRASH VOX
Vo/TAKUMiX　Gu&Cho/WONDER　Dr/KENTACHICKEN FUCKER　Acc/LOBOTOMY　Ts/LYOH　Wb&Cho/KiNG　Tb&Tw&Cho/CHiE-CHiE
音源=「SKA BEET FEET」(1st 7inch)　　企画=NaNaNaNaNaNaNa...Doo!
スカ、レゲエ、パンク、アイリッシュ、ビリーなどを取り入れたサウンド、ダンシング・キラーチューン！エンターテイメント・パーティー・バンド！

ドレックスとはまた全然違うんだよな。ライヴはとにかく楽しい雰囲気！タクミのMCにオレひとりだけ笑ってるトキもあったけど（笑）。（SR）

⑰ THE Qo'noS
去年は韓国ツアーと、とうとう清水発、世界に発進したクロノス、国内もアチコチでライヴをやっていて、精力的に活動してますよ～。
Vo/AICHO　Gu/IKE　WB/NAOYA　Dr/YU-YA　　企画=AMAZING STOMP!!
アメージング・ストンプは45回を越える清水サイコビリーの名物企画で、最近はサイコビリーだけにこだわらず、多種多様のカッコイイバンドをブッキングしてライヴを見せてくれている。　　http://theqonos.com/

イケ以外は地元清水の後輩で（イケは勤務先が清水JamJamJamなんでショッチュー清水にいる）、しかも、僕が運営しているレーベルから1stアルバムをリリースしたクロノス。アイチョは僕の職場にバイトに来てるし、公私ともにお世話をしてます！（エヘン！）と、威張ってはみたものの、ライヴはコイツラの方が全然、頑張ってて、しかも、実績も！まだ、クロノスを見た事ない人、一度見てみて！そーして、1stも買ってー！（O）

⑱ thescooterZ
Vo&Dr/RYO-scooter　Ba/ゴマ　Gu/コウキ　　企画=ACTION(不定期)　　音源=無しです　　ヴォーカル大募集です

最近ギターとベースが入って調子がいいスクーターズ。リーダーでドラムのリョウは今回の対談で「ドリンクバー係」として働いてくれました。浜松のムードメーカー、通称「キャプテン」（笑）。（SR）

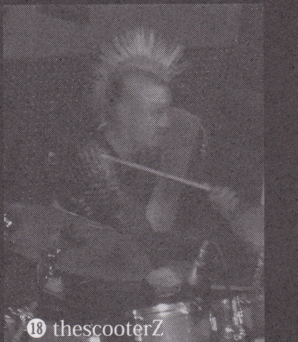
⑲ カマラーダ
元SUGARのモリ、元セメントのアキラがいて、静岡色の強いハードコア！最近はライヴの本数も多く精力的に活動。
Vo/モリ　Gu/アキラ　Ba/ジュンイチ　Dr/ヒロタケ　　http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=comeundo

静岡でも古い顔になってきた、モリやアジャ（アキラ）がヤリテー事をヤリテー様にヤル為に始めたカマラーダ。音はモリやアジャを知ってる人ァ、想像通りのSUGARであり、セメントの延長線上で攻撃的で面白いよ！ちなみにAGONY A.D.、Stupid Babies Go Madでドラムを叩くヒロタケがココもドラムを叩いております。（O）

⑮ Stupid Babies Go Mad


⑭ SO-WHAT


⑰ THE Qo'noS


⑱ thescooterZ


⑯ TAKUMiX and THE TRASH VOX


⑲ カマラーダ

WORLD MELODIC POP PUNK TRAVELLING Vol.3 Finland

TEXT:
Yuki SP(Y)/NAOKIDZ☆(N)/WSオニギリ(O)

BLITZKRIEG BOYS/20th ANNIVERSARY ALBUM



80年代後半に活動していたB-BOYSが「活動20周年♪」と誰に言われるまでもなく言い出して突如リリースしたディスコグラフィー盤。シングルやアルバム、デモ・テープなども突っ込んだ全35曲入り。気を抜くと全て同じ曲に聴こえちゃうほどの投げやりでローテンションなラモパンクの連続でゲシュタルト崩壊寸前。(Y)

(WOIMASOINTU/WS038CD)CD 2006年

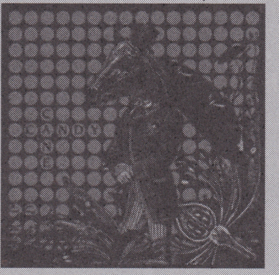
HYBRID CHILDREN/REVEAL YOUR CHARMS



後に大ブレイクして来日もするようなロック・バンドになったので、今回紹介しているバンドの中では世間一般で一番名前が知られているのでは。UNBORN-SFのメンバー運営のALTERNATIVE ACTIONからリリースしていた初期の7"シングル3作とGAGA GOODIESからリリースの1stアルバムまでは、もろにFIENDZサウンドで再結成後のMISFITSなんかより断然かっこいい。個人的に一番好きなのは2ndシングルだけどジャケのインパクトで1stを紹介。(O)

(ALTERNATIVE ACTION/AA)7" 1991年

CANDY CANE/FAY-RA-DOOWRA



1996年にTampereで結成された4人組の2ndアルバム！前作までのサウンドを微塵も感じさせない奇妙奇天烈な実験的変態ハードコア。絶叫、発狂にシンセが踊りまくり、かと思うとメリーゴーランドを思わせる不思議な郷愁的アレンジが飛び出てきたり。かと思うと恐ろしくヘヴィな展開を見せたりと相当なひねくれっぷり(笑)。しかし、全編メロディックでもありポップ。女性ヴォーカルがメインをとる曲は初期JINGO DE LUNCHを彷彿させてくれたりと面白い。(O)

(JUKEBOSS/JUKE010)CD 2007年

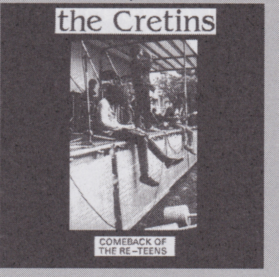
JALLA JALLA/MINNESOTA PLATES



フィンランドの匂いを全く感じさせない4人組POWER POPバンドの4thシングル。POP PUNK/POWER POPに片田舎カントリー風味をトッピングしたサウンドのハイクオリティー度は現行シーンでも十分通用するほど古臭さを感じさせません。スカンジナビア半島からUSミネソタ州に向けて歌っている理由は謎。後にUSのNKVDから編集盤がリリースされるも世間一般に認知されることはありませんでした。(Y)

(HILJAISET LEVYT/SIKS-026)EP 1991年

CRETINS/COMEBACK OF THE RE-TEENS



BLITZKRIEG BOYS、PUNK LUREX OK、KILL ME GENTLYのメンバーを含む4人組の1stシングル。ドイツの老舗レーベルからのリリース。ラモーンズを基調としながらイギリスのTHE SECTやIDENTITYなどに通じる青臭い胸キュン・メロディックの連発で終始涙が止まることはありません。この後にリリースされる2ndシングルと共になぜかBLITZKRIEG BOYSのアルバム(CD盤)に全て収録されてます。(Y)

(TEENAGE REBEL/09)EP 1990年

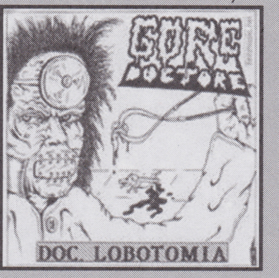
JAMES PUHTO-REN/ROAD



ジャケットでSUOMI Tシャツを着てるだけでなぜここまで期待が膨らむのでしょうか。冴えない3人組によるラモパンク・バンドの1stフルレングス。KLAMYDIAの影響をモロに受けながら、情けないヴォーカルと哀愁てんこもりなメロディー、無駄にキャッチーな展開は一度聴いたら病みつきに。この後の全てのリリースにROADという単語を入れるという一貫性もグッド。2009年にひょっこり復活しましたが即刻闇に消えました。(Y)

(KRÅKLUND/KRÅLP3)CD/LP 1993年

GOREDOCTORE/DOC.LOBOTOMIA



2枚のシングルとコンピに2曲を提供しただけで行方不明になってしまった短命のバンドの1stシングル。しかも10曲収録。ここで聴ける楽曲でのキラーっぷりはフィンランド・マニアの間では、スウェーデンのASTA KASKに迫る勢いを見せていると評判なのも納得の、勢いと攻撃力はトップランクに入る素晴らしさ。2ndシングル以降はドランクになりすぎてこのバンドの魅力がなくなってしまうのが残念。だから解散したのか？！(O)

(AUTO-SLEEPER/SLEEP-1)7" 1992年

KARKKIAUTOMAATTI/Trallalalla



1993年から5年間活動していてこの国では珍しいギターポップ的なサウンドもやっているパンク・バンドの3rdシングル。どんな音でもメンバーには長髪のやつが当然のようにいるのがこの国(笑)。パンクとギタポを曲によって使い分けていてどっちがやりたいのかわからないんだ。そこが魅力。ギタポの曲はバックの演奏が凄いオシャレなのに当然のことながらSUOMI語をメロディーに乗せているので、民謡になっている。2曲目がめちゃくちゃ好き。(O)

(HILSE-LEVYT/YÄK197)7"/CDep 1995年

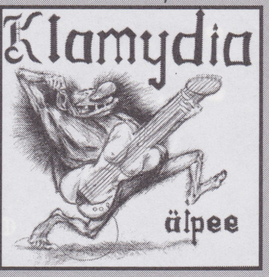
HÄIRIKÖT/iskee kuin miljoona volttia



「ワシらSUOMI版BADTOWN BOYSじゃ〜！」と言わんばかりの2ビート&3コード革ジャンRAMO PUNK 1stアルバム！フィンランド語の巻き舌がPOPな楽曲と絡みまくり、よりスピード感を増しバックのレンガまで崩し去りそうなあっという間の20曲。サビがシンプルなフレーズなので一緒にフィンランド語で歌えるのも嬉しい！ぜひ巻き舌を体感せよ！シングルも多数有り！(N)

(SONIC RECORDS/SONIC 8)LP 1992年

KLAMYDIA/ALPEE



3枚のsingleを経て記念すべき1stアルバム〜！のジャケがこれかい！？で有名な！？現役FINNISH RAMO PUNKの雄KLAMYDIA。RAMONES＋昭和歌謡的な北欧トラディショナル・メロディーに乗っかる一人二役のツイン・ヴォーカルがフィンランド語で捲くし立てる！RAMO PUNKというわりに、FINLAND民謡色が強いのも特色。全曲鼻血大放出！一家に一枚ですな！R指定で…(笑)。(N)

(FREE ANIMALS/FREE ANIMAL 003)LP 1990年

やってきましたこのコーナー。今回は芬蘭国の珍パンク紹介。この国を国民はスオミと呼び、他国の人はフィンランドと呼ぶヘルシンキを首都にもつ北欧の国です。極寒の地ですが音楽シーンは熱く、様々なバンドを産出しています。このジンの読者の方に最も有名なのはやっぱりハードコア・シーンで、KAAOS、TERVEET KÄDET、RIISTETYT、APPENDIX等ではないでしょうか。この国には本当に紹介したいバンドがたくさんいるんですよ。今回は3コードよりのパンク・ロック・バンドに焦点をあててみました。が、やはりこのコーナーで紹介するのは日本人にとってはちょっと変わったように聴こえる珍バンド達です。メロディック・パンク・バンドのみを取り上げた第2弾も機会があればやりたいです。

KLAMYDIA/LOS CELIBATOS



あれ!?全曲一緒では!?1stと曲かぶってない!?いやいや…、我慢して(笑)何回も聴けば聴くほどSUOMI(FINLAND)節POP PUNKウイルスがじわじわ脳に繁殖してくる超名作2ndアルバム！POPでシンプルなのになぜか哀愁漂う曲、そしてタモリ声と疾走感がそれを助長する。アルバム1枚を通してトータルでKLAMY節と晩秋!?を感じられる味のある名盤！って普通スナップ写真をジャケに使うか!?それも含めてKLAMY節で(笑)。(N)
(STUPIDO TWINS/TWIN 7)LP 1991年

RAIVOPÄÄT/TOINEN UUSI-AALTO EP



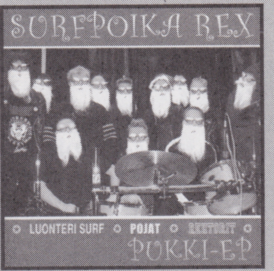
KLAMYDIAフォロワー！1stシングル。やはりSUOMALAINEN(フィンランド人)がRAMO PUNKをやると、どうしてもこうなるのか～！まった～りした8ビートPOP PUNKの中に要所要所現れる、例のトラディショナル・メロディー。日本民謡に節回しがあるように、SUOMI特有の節回しを実感！そしてどうしようも無いジャケット…。これぞ90's SUOMI PUNK STYLE！？(N)
(FACE RECORDS/FACE 001)EP 1994年

NE LUUMÄET/ST



1985年から活動していた4人組、日本語名「梅」の1stアルバム。ジャケット見てもらえれば一目瞭然。全曲ラモーンズのカヴァーで、しかもフィンランド語で歌っているというど真ん中ストライクでありながら超変化球な1枚。一般的なラモーンズ・カヴァー・アルバムにこれがリストアップされないのは誠に遺憾であります。この後着実にリリースを重ね、KLAMYDIAがスターへの道を歩んだのとは裏腹に、ずっとこのスタイルを突き進んだまさにラモパンク・レジェンド。(Y)
(EURO/SIN 1033)LP 1986年

SURFPOIKA REX(POJAT,LUONTERI SURF,REHTRIT)/PUKKI-EP



フィンランドRAMO PUNKレーベルより名目上は3バンド共同バンド?によるサンタ本場のクリスマスSONG EP！PUKKIって雄ヤギの事みたいだけど、髭のスラングとかなのか？ベテランPOJATはおっさんのドロドロROCKを、REHTRIT、LUONTERI SURFはRAMONES Tシャツ着ながら完全SUOMI演歌PUNK爆発!!カッコイイ！フィンランドRAMO PUNKってRAMONESの単なる焼きまわしではなく、お国柄が出る所が素晴らしい。ほいで皆歌ウマすぎ！！3バンド共リリース多数有り！(N)
(WOIMASOINTU/WS-016)EP 2002年

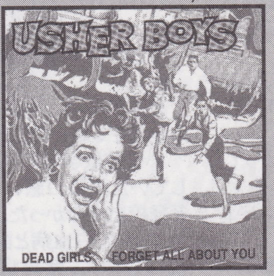
NE LUUPOJAT SURF/KAIKKI USKOI JOULUPUKKIIN 90-92



NE LUUMÄET、POJAT、LUONTERI SURFが合体して出来上がったラモーンズ・バカ12人組スーパーユニット。90年と92年にリリースされたシングルを集めた嬉しい編集盤。12人乗りのチャリンコで坂道を全員合唱しながらノーブレーキで突っ走るような無茶苦茶で最高な1枚。(Y)

(POKO/XMAS07)CD 2007年

USHER BOYS/DEAD GIRLS



このロゴにビビビっときたら要注意。フィニッシュ・オブスキュア・パンク・バンドMOPOTのヴォーカルTeyo率いる4人組の1stシングル。サーフやカントリーの風味を匂わせつつ、爽快感を飛び散らせながらTeyoの圧倒的ソングライティング能力によって生み出された極上メロディーに乗せてくる様は完璧としか言いようがありません。この他に2ndシングルとミニ・アルバムあり。(Y)
(DIESEL/DR005)EP 1992年

POJAT/IRTI



80年代後半から活動し、今現在も元気に頑張っているベテランPOJATの2ndアルバム。同時期のラモパンク・バンドよりもショボさやヴォーカルのクセがなく、やけに録音状態も良いのでラモパンク入門編としても非常にオススメできます。歌詞の意味はわかりませんが気が付けば一緒に合唱してしまっているという人懐っこいメロディーが、聴く人を手当たり次第無差別に虜にしてくれます。(Y)
(POKO/PÄLP 132/POKOCD 84)CD/LP 1991年

SPLIT/TARJAS+CHROMOSOMES



コレクターの間では有名なレーベルKILLER所属の現行バンドTARJAS。フィンランドのバンドも母国語でカヴァーをするのが多いんだけど、このスプリットでもそう。確実にわかるのは2曲目のRAMONESの"KKK TOOK MAY BABY AWAY"、そして3曲目でSCREECHING WEASELの"COOL KIDS"のSUOMI語カヴァーを披露。原曲まんまにやってるんだけど、母国語がのったらあら不思議？！恐ろしく泥臭くなってオリジナルのようになりました(笑)。これ、もしかすると気づかないだけで1、4曲目もカヴァーなのかも。(O)
(KILLER/KILL016)7" 2008年

PUNK LUREX OK/VELJET,SISKOT!



ドイツのTEENAGE REBEL RECより2nd single！北欧トラディショナル・フォーク・メロディーを優しい声色の女性Voで包み込む8ビートPOP PUNK！～SSA、～STAで終わるフィンランド語独特の語尾変化の歌い回しが可愛らしく、まるでムーミンとピクニックにでも行ってるようなほのぼの感を味わえる1枚。(N)

(TEENAGE REBEL RECORDS/TR 039)EP 1996年

VARIOUS ARTISTS/ÄLKÄÄ VÄLITTÄKÖ PASKA PUHEISTA!!!



フィンランド老舗中の老舗レーベルAA Recの定番＆名盤PUNKオムニバス！UNBORN-SF、TERVEET KÄDETの大御所からSUOMIメロディック・ヒーローGNDまでメンツも曲も文句無し！個人的には極一部で噂の！？CRUZ直系サウンドHYBRID CHILDREN、SUOMI演歌メロディックでコブシを回しまくるGOREDOCTERがその筋の方にお勧めです～！！(N)
(ALTERNATIVE ACTION RECORDS/AA 022)LP 1994年

GIVE THE ANARCHIST A CIGARETTE



TEXT:PAINTBOX 宗

どうも。EL ZINE初登場、活動らしい活動も出来ず、シーンから離れ気味で忘れられるのも寂しいのでせめて雑誌にでも載りたいなと、なんのプランもなく編集長に「いつか何か書かせて下さい」とコンタクトを取ったら、快く「いいですよ」と言われ、何となく書く事になりましたPAINTBOXの生き残り、バンド浪人、ムネです(しかも連載!)。

DOLLという大きい媒体が消滅し、裸一貫、立ち上げた山路編集長の魂が篭っているであろうEL ZINEに気の抜けた連載は失礼だと、がんばってみようと思った今日この頃。どうしよう。なるべく真面目に書きます(笑)。さて、第一回は何について語りましょうか。

いつ打ち切られるか分らないこの連載、やはり最初はしつこいようですが宣伝しときます!!

アルバム「Trip,trance & travelling」(2009/HG Fact/HG143)、なかなかの好セールスとは言え、まだまだ聴かせ足りないです!この程度の売り上げでOKな作品じゃないんです!

CD自体が売れないこのネット時代、どんなアーティストも売れ行きは一時期の半分以下らしい。

なんでも、CDのプラケースがかさばって邪魔なんだってよ(笑)。

だから紙ジャケの薄いのがいいらしい!デジパックじゃないよ。ホント薄い紙。

CDすら邪魔なんだって。そんな時代にアナログは豪華Wジャケット2枚組!!なんて不利な条件をアピールしまくっているだけで逆効果である。そして16曲入り70分越えの大作!

もはやそれを得に感じる世代は気が狂っているのか?どちらが狂っているかはさて置き、喜ぶキチガイが多いのを祈りますが。Praying・・・。

正直、このアルバム、魂こもってるどころか、命かけてます。マジで。だから軽々しくCD-Rに焼いてくれたりしちゃ困るのである。2700円の価値は十分あるから。パンクにしちゃ高いけど・・・しょうがない。製作サイドも金持ちじゃないから、パンクと言えども元ぐらい取りたいと思うのが人情。3000円の大台だけは乗せたくない・・と社長に頼みました。ホントは2000円で売りたいよ。今まで通り。まあとにかく、買って聴いてください!

こんなハードコア聴いた事ないはず!悪いけどぶっちぎりだよ。ハードコアの枠を超えた・・なんて言って貰えるのも嬉しいけど、あくまでもハードコアパンク!!

HARDCORE PSYCHEDELIA!!!!

で、寝る時間も削ってHG佐藤君が命がけで作ったブックレットですが、5曲目「雪解け」で痛恨のミスプリント!!ここで訂正させてください。一番のサビの2行目が抜けてました・・・。

行くぜ、着く所には　兆し、溢れる
雲を超えたその瞬間の　広がる世界、
目に焼き付けろ
渡り鳥が嘆く、空になり行く
涙が枯れ行くその訳は　秤にかけ切れぬ物ばかりか

これが正解。な感じで、アルバム買ってチェルシーの凄さ、PAINTBOXの底力を体感して下さい!サイケデリックで、メロディアスで、ハードでサタニックでディーモニックなメタルパンク!

ではありませんが(二ツ木君に要注意・笑)、ハイクオリティで真似出来ない唯一無二、ご意見無用の歴史的ハードコア・アルバム!自画自賛。ヨロシク!!!

で、やっと本題。何を書こうか・・・。

ヒストリーオブ俺、的な?読みたい人がいるかはさて置き(笑)、書きます。

小学校低学年時、病気で入退院を繰り返していた顔色の悪い俺は1、2年はほとんど登校出来なかった。

誤診で、白血病と診断された時の親の心境はいかに。紫斑病性腎炎でヤマイでした。

体育は常に見学(笑)、この頃は体弱いクセに目立ちたい、って変なガキだった。

年を追うごとに引っ込み思案と人見知りは激しくなり、何を考えてるか分らない奴と言われるようになる。勉強は出来ました!

タイガーマスク世代で(小林邦昭LOVE)プロレス好きな私がまず、音楽に興味を持ったきっかけは・・・モンキーズかな。小5かね、親にせがんでテープを買ってもらった。モンキーズ・ザ・ベスト!TVシリーズのドラマが好きだった。映画のサントラも好きでした。

高学年になり「うる星やつら」のテーマ・ソングに使われていたVIRGIN VS(あがた森魚がどうした事かおかしくなって始めたテクノポップ・バンド)の、その他の収録曲が気に入り、当時はベストヒットUSA全盛の時代なので、その時一位に輝いたEURYTHMICSのLPを初めて自腹で購入。そんなちょっとテクノポップで、UK84な子供でした。

そして、初のパンク遭遇は中学に入学して友人に聴かされたSTALIN「STOP JAP」。

すなおに過激さが驚きだった。デパートで盗んだSTALIN Tシャツまだ持ってます。

知ってすぐ解散ライヴだったけど。

時代はジャパメタ・ムーブメントの為、パンクとメタルを交互にレンタルしてた。44MAGNUM!!

新作のメタル・バンドをガンガン薦めてくる貸しレコ屋のお兄さんが、俺がANARCHYを借りた時にがっかりしてたのを覚えてる(笑)。その貸しレコ屋で発見した、GBH「City babys revenge」とCHAOS UKのLP。当時VAPから国内盤が出てましたね。Punk's not deadシリーズだっけ?

良く分らないが衝撃!CHAOS UKなんて何やってんだか分らない(笑)。

そんな俺の目に付いたのは、やはりDOLLでした。貴重な情報源でした。

初めて買ったDOLLの表紙はCONFLICT(1985/no.27)。COMESチトセさんがビューティフル。

24、5歳の時、一緒にバンドやってた人の家に遊びに行ったら彼女がチトセさんでビックリした思い出あり。そのDOLLの広告にPUNK ON WAVEというライヴがあり、有名なバンドばかりで、見たい!と思ったが行けず残念に思っていた所、後にその日のG.I.S.M.のビデオを見て中学生が行ってはいけなかったんだな♡、と胸を撫で下ろしました。

STALINを探しつつモヒカンやスパイキーな写真に衝撃を受け、雑誌の後半の広告ページにある、インディーズ、自主制作という文字。そしてお店。ソノシートという異常に安く、沢山曲が入っているレコード。そして「GREAT PUNK HITS」の存在!日本の創成期のハードコアが「オムニバス」ってやつで沢山入ってる!!

買いましたよ俺は。おこづかいを貯めて。1曲目、G.I.S.M.。イントロから最初の激シャウトで良く分らないがス、スゲー・・・となったわけです。それからまだ13、4歳の俺は恐る恐る東京のレコード屋へ通い、自主制作盤にはまっていくのでした。

たまにバンドメンバーの人が店員やってたりすんのよ!怖い!「いらっしゃい」も無い。

客に何だ、その態度は!面接したのか!

本人がいると知らずにそのバンド買ったら、「今時買ってんじゃねえよ」・・・あのさ・・・買ってもらったら、まずお礼でしょ!?なんで買ってんのに文句?

右も左も分らないから、イマイチなのも買うさ。したら、「こんなの買うやついるんだな(半笑)」・・・・・ってそーゆう事を言うなよ!可哀相だろ!!恥ずかしいし。

どこかで入手した情報で、代々木公園でタダで見れて沢山バンドが出るロードサイドロッカーズというライヴがあると聞き、行ってみた。ラフィンノーズ以外行ったことが無かった俺の、初めてのインディーズ・バンドのライヴである。覚えてるバンドはSHUFFLE、LAST BOMB、極め付けがMASAMI & ACT Session・・・・。とにかく怖くて緊張。

客がのり始めると、子供の俺はグチャグチャ。でもなんかワクワクしました。

居場所も無く、はじのほうに立っていると「おい、スピーカーの前に立ってたら聴こえねえからどけよ」・・・・だから子供だっての俺は！そんな言い方ないじゃん!!

まったく初心者にやさしくありません。俺は違うけど、その風潮は今も変わってないかも。

だから若いのが増えないんだよ～。昔からのベテランがい続けてるだけだもんな・・・。

もうすぐ30代すらいなくなるからね（笑）、若者よ立ち上がれ！by DARS GEVIL。

その頃からかな、演奏にも興味を持ち、姉のギターを奪い練習を始めました。

最初のコピーはロマンチスト!!アーンド、44MAGNUM!(笑)踊り続けろBaby,baby。

友人とコピー・バンドを始めました。ゲットザグローリーから白（kuro）まで。ノールール。

ディストーションの存在に感動しまくりました！あの音が出た！って（笑）。

そして俺ら世代にはリアルタイムなVA「THE　PUNX」カセット・ブックがリリースされ、宝島からだったので、近くのレコード屋にも置いてあったので２つ万引きしました!!

LIPの「Bandit」!!名曲！！これのCOBRAもめちゃめちゃ格好良かった！のちのCOBRAはショックで泣いたね。メジャーって取引の世界なんだなあ・・・とジャパンク（メジャーの、何に影響受けたのか、パンクかどうかも分んないバンド達）にbabyひとめ惚～れ！♡サーンクス！！

この頃買いあさったレコードで気に入ってたのは・・・
○MOBS「Diabolism」○白「Who the helpless」○VID-SEX○LIP CREAM「Kill ugly pop!」○CHAOS UK「Short sharp shock」○G.I.S.M.「Detestation」○B.G.K.「Nothing can go wrogn!」○OUTO「Half wit life」○LAST BOMB○EXECUTE「Hardcore temptation」○CLAY○GAI○CONFUSE○SAMURAI「Turning　point」○あぶらだこ「木盤」（メジャー・デビュー盤）

キリが無い。オムニバスが盛んだったから沢山買ったなあ。ありきたりですが、永遠のマスト、DISCHARGE「Hear nothing～」に出会ったのも確かこの頃。

そろそろバンドでも寒いオリジナルを作り始める。だいたい何かに似てる（笑）。

そのメンバーで高校卒業までバンドを続ける。活動拠点は本八幡ジャガーカフェ！（笑）

話はそれますが、高校時代、BOMBS AT BLAZEという企画のオールナイトに行った時、たまたま友人の友人が当時POISON ARTSのローディーをやっていて、新宿を歩いていたら遭遇し、「みんな飲んでるからくれば？」とお気楽に誘ってくれましたが、「みんな」・・・ってとこが気になっている俺をよそに、そんなにハードコアに詳しくない連れは皆、何の疑いも無く居酒屋へ。そしたら嫌な予感的中・・・。

１部を終えたPOISON ARTSのVo、鉄アレイのDr、大阪RAPESのVoと、Gu・・・そしてそんなメンツが敬語を使う方が・・・・BAD LOTSやORANGEのベースの方・・・・。助けて!!!!

恐怖の一夜でした・・・・。

で、自分のバンドですが、なめた感じのバンドだったので、真面目にハードコアやってる友人がうらやましく見えてきて解散。

19歳位の時、初めて真剣にハードコア・バンドを結成。千葉を中心に東京でもちらほら活動し始める。

まだまだアンティノックは遠い存在でした。

当時の千葉ハードコアは完全に閉鎖的で、東京嫌いで嫌いでしょーがなかった。意味無く東京上等！

俺は東京に出たい派だったから、軽いもめごともちらほら。

代表バンドは狂人病。ちょっと違う畑でスラッシュのGENOA。

双方ともヤンキーで誤解されていますが、GENOAはマジで格好良かった！リスペクト！！

未だにあのベースを越えるものは見かけません。

当時の千葉はヤンキーまみれで、族のパンク狩りはあるは、狩られてるパンクも結局ヤンキーと、何処を見てもエリートヤンキー徳丸状態でサバイバルでした・・・。

そんな千葉ハードコア・シーンにイマイチ馴染めなかった俺は、東京でスラッシュの企画を行っていたGENOAに接触。企画に出させてもらう様になる。スラッシュ企画と言っても出演バンドは多彩でNUKEY PIKES、SCAMP、VIETNUM、666、HELLCHILD、GRAVEYARD、DES-POZ等。パイルやBASTARDが出た日もありました。

平行して当時無名の同世代のハードコア・バンドたちとライヴしたり、オムニバス出したりした。

その中には現在RYDEENのKYCや、SLIGHT　SLAPPERSの久保田君、元VEIHAIZのマックス君、現LIFE/当時NUKEY PIKESのノリ君などがおりました。当時の人が生き残っていると何だか嬉しいものです。

とにかくこの頃はあらゆるジャンル（当時流行ったミクスチャー等を除く）を聴きまくり自分の情報量を増やして行った。ビートルズからNAPALM DEATHみたいな。

ストーンしたり、曲がったり、走ったり忙しかった（笑）。

ミクスチャーってのが出てきて、ハードコアって言葉が氾濫し輪郭が分りづらくなって来る。

また、彼らが自分でハードコアじゃないと分っていながら否定をしないから始末が悪い。

メロコアもそう。本人達が違うって言えよ！分ってるくせに。分かってないのかな??

メジャー行って路線が変わったイースタンユースが「パンクと思わないで欲しい」と言っていたのは潔かった。いいね！正しい。

ジャパコアっていう、ジャパメタみたいな変な言葉もこういう経緯から出てきたのでは。

細かいジャンルわけ。ハードコアって何？っつったらDISCHARGEとBAD　BRAINSとLIP CREAM聴いて答えだせばいいんじゃない??最近のハードコアって呼ばれる物の元凶はパンテラとか、HIPでHOPなの取り入れちゃってるバンドじゃねえの？

LIP CREAMが解散したころ、しばらくハードコアの界隈を離れて活動していたが、やはりハードコアに魅力を感じ企画をはじめハードコア・バンドを呼んだりしはじめた。当時のハードコア・シーンに「知り合いじゃないといいライヴに出れない」「急に新バンド作ってもシーンに入れないし、上には行けない」という勘違いをしていた俺はちょっと違うジャンルでハードコア・シーンと絡んでいこうと思っていた。

当時はBASTARD、DEATH SIDEも解散、関東は鉄アレイを中心に、GESHPENST、ACCOMPLICE等次の世代を中心にしていた。

全国にはCRUDE、BLOWBACK、NIGHTMARE、ZONE、WARHEAD、悪意、等、いいバンドは頑張っていた。東京も古株連が新バンドを次々結成し、シーンは盛り返した。

FORWARD、JUDGEMENT、PAINT BOX・・・・。しかし、もうその界隈に入って行くことを考えていなかった俺が、まさか中枢の中枢に引きずり込まれるとは思ってもみなかった・・。

よりによって面倒くささNo.1とうわさのチェルシー先生のバンド・・・・・。しかもヴォーカル！?

楽器持って歌った事あるけど、ほぼ素人の俺を何故？当時やっていたバンドのデモを聴いたHG佐藤君が「好きそうなヴォーカルじゃない？」とチェルシーに薦めやがったらしく、メンバー勢ぞろいで何も知らない俺をアクマが迎えに来たのでした。断ったよ勿論！「まあダメ元でよ！」なんつって、逃がしてくれない大先生・・・。俺がペイントに入った時、周りは「いつまで持つかね・笑」なんて話題になっていたそうです。い、イヤだ・・・・・。

それから予想を越えた修羅の道が俺をまっていたのです・・・。　つづく???

THE THUNDERBOLT! VOL.2

TEXT:TAKAYAMA（NIGHTMARE/PUNK AND DESTROY/FRAMTID）

こんにちは！このEL ZINE誌上では、皆様、あけましてよろしくお願いします！今年もおめでとうございます！さて、毎度の如く、「あっ！」と言う間に、気がついたら2010年に突入している訳でして、正月気分もどこへやら、既に一月が過ぎ去ろうとしている訳で、「今年こそはゆっくりするぞ！」なんて年末に計画してた2010年の抱負的な目標も、早くもどこかへぶっ飛んでしまっているそんな新年早々、案の定的にいきなり例年を軽く上回るすったもんだのどったんばたん！そうこうしている内に、この「The THUNDERBOLT!!!」も、順調に、締切ギリギリになってから、「あ、ヤバいぞ！」と気がつき、慌てて取り掛かって締め切り待ってもらってなんとか入稿セーフ！(汗)こうして今回も無事に、連載を飛ばしてしまう事無く皆様方に、第2話を、お送りできています！さて、前回では、僕自身、いかにしてThe BLUE HEARTSすなわちPUNK ROCKを知ったのか?的な自叙伝、言うならば「出会い編」をお届けしましたが、今回も自叙伝で引っ張る展開です、「熟成、発酵、発狂編」です、よろしくどーぞ！

さてさて、前号でたっぷり書かせていただいた通り、The BLUE HEARTSに面白い位ガッツリやられてしまった僕なのですが、そうです時はまさにバンドブーム！中学生へとさしかかろうとする頃の僕の毎日の楽しみと言えば、下校してから家のTVで見るMUSIC TOMATO JAPANでした！マイケル富岡のナレーションで、次々に当時デビューしたてホヤホヤのバンド達のビデオクリップが延々と流れるのだが、本当にどのバンドもそれぞれ個性的なカラーがあり、いくら見ても飽きなかった。この時代、気合の入ったのから、ブームに乗っかろうとでっちあげられたペラペラの似非ビートパンク等、様々入り乱れ、しのぎを削りつつかくも色とりどりにキャラ立ちしたパンキッシュなバンド達がメジャーの世界でブイブイ言わし、世間を派手に騒がしていたのでした！街も、ROCKやPUNK一色と言う感じで、B-BOYなんて言葉さえ無い頃。とっぽい兄ちゃん姉ちゃん連中もかっこよかったし、今、思い返しても、刺激的で面白い、良い時代だったのではないかと思います！The BLUE HEARTSと平行して既に他にも色々と聴き漁っていたが、デビューしたてのNEWEST MODEL、BLANKY JET CITY、Theビーズ等は、当時、すでに若干飽和状態気味だったであろうバンドブームの最中でも、特に気に入っていた記憶があります。あと割と最初の頃からRC SUCCESSIONは大好きでした、そしてThe TIMERS！子供心に本当にシビれましたよね、「FM東京事件」で有名な「夜のヒットスタジオ」もリアルタイムで夜更かしして見ていた！録画もしていた！事の経緯などいまいちわかっていなかったが、The TIMERSがアドリブで曲を差し替えた事は一目瞭然だったし、「おまんこ野郎FM東京！！」と、盛り上がりまくる永井真理子をはじめ出演者サイドの映像だけで十分理解できる事！ほんま、パンクななぁ〜！！

で、話をThe BLUE HEARTSに戻しますと、件の、大阪城ホールで初体験した生ブルハに、完全に心を奪われてしまった僕は、大興奮の茫然自失状態のままコンサート会場を後にしようとしていた所、会場出口にて手撒き配布されていた一枚のビラを受け取った。このビラこそが、もちろんそう、そうです、あの伝説の(などと言うと大袈裟かもしれませんが!)、唯一のThe BLUE HEARTSオフィシャル・ファンクラブであった、「ファンみんなで事をおこそうとするブルーハーツ集団」の入団勧誘チラシだったのです！いやしかし…、やっぱり僕は、大阪城ホールで初体験する頃には、この、「ファンみんなで事をおこそうとするブルーハーツ集団」に入団を済ませていた気がするが、記憶が曖昧なのですが、この際この話の流れ的には全然どうでもいいので話を進めさせていただくが、まぁ、とにかく！急激なスピードで彼等に夢中になっていった僕はもちろん、この、今思うと、何だかとても青臭くて可愛らしいファンクラブに、迷う事無く入会した！もちろん、母親にお金を出してもらって！(笑)今でもあるのかどうか?わかりませんが、ほら、あの、変な郵便振替みたいな用紙で申し込み、通信欄みたいな所にも何か書かなくてはいけなくて、それを手に、母に付き添ってもらって、近所の鶴見橋商店街のとても小さい郵便局でガキながらにちょっと勇みつつ入会手続きを済ませた時の事をとても鮮明に憶えています！

程なくして、表彰状みたいな、入団証明書と、金メッキ製の小さい団員バッジが、年に数回発行されるファンクラブ会報、「ブルーパーツ」と共に鮮やかな青い封筒に入れられ届いた時の、あの感激ったら無かったです！以後、定期的に届く会報や、団員だけが参加できるイベントなど諸々、もちろん楽しいし嬉しかったのだが、今の時代から思うと、とても考えられないような素人仕事・素人運営だった気がするのだが、しかし、この時代、何時でも何処でも何にでも、手作り手探りの創意工夫とアイデア、個性と温かみがあったと思います、本当に、なんてラブリーな時代だったのでしょうか!?余談ですが、数多く発行された、この、団員しか読めない面白い記事がてんこ盛りだった会報の、とある号に、僕が投稿した梶くんのイラストが掲載されています。今も昔もヒロト一直線の大ファンだった筈の僕が、何故に梶君のイラストを!?(汗)実際に掲載された号をはじめて手にした時、幼心にも、何だかとても恥ずかしくなってしまって、激しく後悔した思い出があります。

この時期と平行して、中学校一年生の頃位でしょうか?兄貴が、The BLUE HEARTSが連載を持っていた古い「宝島」を読ませてくれてたのは前号で書いた通り。基本的には、The BLUE HEARTS連載コーナーを貪るようにガン読みしつつ、ませてみたい盛りの色気づき始めの僕は、同誌に掲載されていた「CYBER PUNK」だの「LONDON」だのなんて見出し・特集の数々にも大いに気を取られつつも、日々のそんなごくごく自然な流れの中で「PUNK」と言うモノにグイングインと惹かれていっていた筈で、そこへきてまさに好タイミング！「The BLUE HEARTSメンバーが選ぶ生涯のBEST 5レコード！」みたいな記事があって、ヒロトはそこで、MUDDY WATERSやSUNNY BOY WILLIAMSONとかの、渋いBLUESのLPに混じって、確か何か邦楽の、ふざけたようなやつの中にSEX PISTOLSがあった筈ですし、マーシーはBOB DYLANとかBOB MARLEYに混じってThe CLASH 1stを挙げていたし、河ちゃんはCAROLとかRAMONESとかだった、そして梶君は、なんだったけか?(汗)確か、XTCとか…、なにしろ、そこではっきりと、SEX PISTOLSやThe CLASH、RAMONESと言った、所謂、基本中の基本なPUNKバンドのレコードの存在を知ったのでした！レコードプレイヤーは家にあったが、僕にはまだ使い方が解らなかったし、時代はCD。今でこそ絶滅寸前な感じだが、この頃はまだ、レンタルCD屋と言うのが結構ポピュラーな時代で、ご近所、花園町駅近くの小さな2階建てレンタルCD屋で探してみると、すぐにあった、SEX PISTOLS、「勝手にしやがれ」CDが！それはもう、下の毛も生え揃わないガキが、そこはほら、「性の機関銃」ですから、別にアダルトビデオ借りる訳でもあるまいし、なのですが、アレがアレなので、いけない事やっている感ばりばりに、ドキドキして、このCDを借りました。確かカモフラージュにと久保田利伸なんかと複数枚一緒にレンタルしたのだ！まぁ、かくして、この一枚のCDが、中学一年そこらの若造にど

れ程のディープインパクト与えたかなんて事は、何を今更、言わずもがな、皆様にも想像に易い訳でして、「メタルポジション」だったかの何だか高級風なカセットTAPEにダビングして、親の目を盗んでは繰り返し繰り返し聴き込んだ、こうして僕のUK PUNK筆おろしは無事完了だった訳です！

自分的には、「GOD SAVE the QUEEN」や「ANARCHY in the UK」よりも、「Liar」や「BODIES」だった、なんて話もどうでもいい程に、捨て曲無し、今聴いても全く色褪せる事の無い、非の打ち所が無さすぎる、言わずと知れたROCK史に輝く名盤！それはもう聴いて聴いて聴きまくって、惚れ狂いしていたもんだ！とにかく、ジャケがまずいい。まっ黄色のスリーブに、黒文字で、「BOLLOCKS」が指す所の意味なんて解ってた訳じゃないが、そこに確かに得体の知れない下品さを感じたし、そして蛍光ピンクで無造作に切り貼りされたSEX PISTOLSのロゴがもうどうしようもなくパンク過ぎて凄まじくSHOCK！今でこそ、この様な大胆に切り貼り配置されたパンキッシュなデザインなど珍しくも何ともないが、この時、自分にとって初めて手にし、CDサイズでも、この目で見る本物のPUNKなジャケットもマジで鳥肌モンでした！

そんなPUNK初期体験の頃と時を同じくしてだったか、森脇美貴夫氏による、「イギリスのパンク/ニューウェーブ史」なる、ちょっと前で言う所の「パンク天国」みたいな文庫サイズの小さな本が出ていた筈で、それを、BEARS近所の本屋さんでたまたま見つけ、迷わず万引きし、(懐かしのPUNKROCKの逆襲、なんかもこの頃に発刊されていた筈)それから毎日毎晩、穴が開くほど読みたおした日々！最初の方はDR.FEELGOODやEDDIE & THE HOTRODS、ELVIS COSTELLO等、PUBROCKなのが続くが、いまいち興味が沸かず、この頃はまだこの辺の良さが解らないケツの青い少年でした！んで、いよいよSEX PISTOLS登場〜The CLASH等へ続き、DAMNEDやらVIBRATORSやらEATERやら、刺激的なバンド紹介〜アルバム・レヴューが続き、それはもう読んでるだけで妄想が止まらないし、ただひたすら燃える燃える！こうして、毎日が新鮮な存在と出会い、惹かれ続ける日々、心斎橋はアメリカ村までちゃりんこを走らせれば、まだ出来て間もない小さなTIMEBOMBや、WOODSTOCKがあって、こんなバンドやあんなバンドのレコードの実物が目の前に山ほどあって、眺めてるだけで幸せでした！中坊なもんで、お金もさほどある筈も無く、レコードはあまり買えないが、時々、近所の酒屋でバイトしたり、時々、親の財布からお札を抜き取ったりしたりしながら、コツコツと買い集め聴き漁りまくり！近所のレンタルビデオ屋さんには何故か音楽ビデオソフトが豊富で、「GREAT R&R SWINDLE」、「D.O.A」、「PUNK IN LONDON」なんかの基本モノはもちろん、RAMONESドキュメント映画やIGGY POP映画やGBHや他にもたくさん豊富に揃っており、視覚面でも爆発させられまくっていた。若き頃、「D.O.A.」に出てくるPUNK自慰ねーちゃんは見る度に本当に発情したもんでした！！あと、自宅から、難波〜心斎橋方面とはまた逆の方向、長居公園のそのまた奥までちゃりんこで30分ほど、そこには、あのFOREVER RECORDSの一号店があり、PUNKの中古盤が豊富だったし、よく通った、ここで、3枚同時に帯付で再発された、DEAD BOYS、REZILLOS、RICHARD HELLのblank generationを全部買った事とか、なぜかずっと忘れないでいるし、この頃聴いたレコードはどれも思い出も深く、聴くもの全てが斬新で素晴らしく、今でもそれこそ全曲歌える位に心に焼きついている。この頃のダントツ・フェイバリットは、ベタベタに、RAMONES、The CLASH、SHAM 69、BLITZあたりだった。

そして同時期には、当然PUNK FASHIONにも目覚める訳である。DR.MARTENSや皮のライダースジャケットは高くて買えないので、兄から奪い取ったボロボロの安全靴に、青のGジャン、アメリカ村サンヴィレッジ(R.I.P)で買った、超お気に入りだった、ヒロトの穿いているのと全く同じ、赤のスリムジーンズに、白TEEにマジックで手書きしたRAMONES-pin headシャツがお決まりのスタイルで、ジェルで逆立てた短髪に、無造作にクシャッとさせた紙袋をぶら下げ、財布は持たずポケットの中にグシャグシャにお金を突っ込み、グレた風を装いながら暇さえあれば心斎橋のレコ屋や天王寺のBLACKなんかに通う日々、友達は居なかったが、冒険と探究心に満ち溢れたこの頃は今思うと本当に楽しい時でした！

しかし、兄が早々にグレ、姉が産まれた後、待望の次男坊として誕生し、かなり可愛がられ甘やかされて育った僕の、この反逆児風転身は、ずいぶんと母親を悲しませてしまったようで、お気に入りの鋲リストバンドやセッズのぱちもんT-SHIRTなど、勝手に捨てられるわ、ある時なんて、がんばって買ったボンデージパンツを見せしめに鋏で切り刻まれ、学習机上に置かれてあったりして、いやー、あん時はかなり発狂したもんです、「てめえこのクソババア！(泣)」なんつって。お母さんゴメンネ！学校帰りにThe BLUE HEARTSのコンサートに行くので、冬服の学ランの下に、2連鋲ベルト、鋲リストバンドを仕込ませ登校するも、抜き打ち風紀チェックにやられ、なんと、これらPUNKギアはもちろん、あろうことか当日のコンサートのTICKETまで没収されると言う事件もあり、大泣きしてFUCK THE WORLDな気分で落ち込んだもんです。同級生からは気違い扱いされたりもして、まさに「チューインガムを噛みながら」を地で行くような青春時代だったな！こうして、特にこの時期に、僕の、今でも続く、「クソッタレ！」的なPUNK的基本姿勢がしっかりと形成されていったのでした。

4thアルバム「Bust waste hip」発売の少し前、書籍「The BLUE HEARTS1000の証拠」を入手、かっこよくて貴重な写真の数々に目を釘付けに、心を鷲掴みにされていた頃と時を同じくして、遂に、あの「UK/DK」日本版字幕付を、VHSで鑑賞！そうです、多くの人がそうであった様に、あの、シビれるオープニング〜The EXPLOITED、ワッティーのマイクさばき、The BUSINESSのライヴ映像(での観衆！)、CHAOS UKの「Aaaarrrgggghhhh!!!!!!!!」、DISORDERハウス、等など、AMAZINGな映像の数々全てからモーレツな衝撃を受ける俺、断然、ハードコアパンクと言う存在が気にかかる日々、上述の、森脇美貴夫氏のPUNK本から、GBHやThe EXPLOITED、等をチョイスして聴き漁る頃には、DISCHARGEとの衝撃の出会いの時まであと僅か、The BLUE HEARTSに続き僕を大きく変えてしまう事となるセカンドインパクトがJUST AROUND THE CORNERだったのでした！

最初に手に入れたのは、アルバム、「Hear nothing,see nothing,say nothing」だった。森脇氏の本には、「Why」も載っていたんだっけか？とにかく、ジャケからして衝撃だった。当時、中学2年生になったばかりの自分には、散りばめられたモノクロームの死体写真の数々だけでエグくてショッキング過ぎたし、第一、バンド名とタイトルがどっちがどっちなのかもよく分からなかった。例の、有名な、「〜もしDISCHARGEに触れていないROCK史があるなら、それはとんでもなくでたらめなROCK史だ〜」と言う、森脇氏の名台詞もインパクト大だったし、ハードコアパンクとは言っても、かっこよくポーズきめて撮影したメンバー写真なんかが多い中、写真自体が極端に少なく、あっても怒りの表情で叫んでいるLIVE写真、徹底的に黒で統一されたアートワーク、タイプライター文字で羅列された、見た事も聞いた事も無いような英単語の数々。そして一聴した直後の正直な感想、「何だこれは！よくわからない！(汗)だけど何だか凄い！」でした。それまでに自分の知っていた音楽というものからは、あまりにもかけ離れて聴こえた地獄の断末魔の様な音の渦、ひたすら繰り返される拷問の様な咆哮、とにかくその強烈に禍々しい迫力に圧倒され、なんだか怖くなり、聴いた直後から熱っぽくなり、その日の夜など、夢に出て魘されてしまいそうな気がした程だ！とにかく、なんだか知ってはいけない真実を知ってしまった！みたいな！？そんな気持ちに陥り、そして良さが理解できていないのに何故か聴くのを止められない！それはもう、どんハマりで聴きまくっていた。そんな折、これまた凄いタイミングで、DOLLが「パンク・ルネッサンス」なる企画を立ち上げ、1991年、UKハードコア・パンク有名バンドが一挙に来日、その中にはDISCHARGEの名前もあり、「行かいでか！！」と、こうして、あの、死ぬまで忘れもしない夜、ぶち切れて狂いまくってて凶悪で最高に刺激的だった、伝説のDISCHARGE初来日、大阪公演を体感する5秒前…！

と、この辺で、文字数が尽きました、2回に渡り、自叙伝的に書かせていただいた「The THUNDERBOLT!!!」、まだまだ続いていきます！これからもよろしくです。ありがとうございました！

SATANIC OCCULT DEATH III

TEXT:二ツ木正康

いつの時からか年越しは自宅待機になりました。そして今年はDISCHARGE、JUDAS PRIEST、ANGEL WITCHで年越ししました。最高でした!ところで山路ちゃんの出版ペースが早すぎて、20枚もレヴュー書けないのでその半分を使って色々やって行きます。どうぞ宜しく。レヴュー中にも書きましたがTOXIC HOLOCAUSTがMUNICIPAL WASTEとWARBRINGERと共に5月に来日します。日程は以下。5/12(水)渋谷Club Quattro、5/13(木)名古屋Club Quattro、5/14(金)心斎橋Club Quattroです。1stと2ndの国内盤もリリースされてます。解説を書かせて頂きました。

DEATH SS/Heavy Demons



イタリア・ホラーメタル3rd PIC LP再発。僕はどうもDEATH SSが理解できない。あっ好きだよ!とポーズを気取りたいのに。しかーしこれ聴いてびっくり!このアルバムはウルトラ正統派ヘヴィーメタルじゃないですか!!ところが正統派でありながら初心者には全くお勧めできないこの胡散臭さは何なんだ!すげ、カッコいいけど僕が理解したいDEATH SSではないかなー。最高!

(HORROR/HOR022PD)PIC LP

MERCYFUL FATE/Early Sabbath



素晴らしい!MERCYFUL FATEはホントに素晴らしい。SLAYERと同様にMF BOOTLEGのコレクターが世界中にわんさかいるので毎月続々とブートがリリースされていますがコレは買いのヤツです。82年オランダでのライヴ収録で音質も良好。この初期のMFのマジックモーメントたるやさすがAMEBIXが影響を受けたバンドと言える強大なモノ。こういうライヴ盤はリアルタイムを知らない一キッズの僕には堪らないです。とにかくコレでなくても良いのでAMEBIXファンはMFを聴いてください。

(Bootleg)2LPS

DISHAMMER+WARWOLVES/Split



スペインのモーホーという日本人にはまずありえないであろうバンド名バンドの超直球バンド名METALPUNKバンド、DISHAMMER Split EP。しかし前回のアルバムに続きサウンドは単にDISとHAMMERと言うわけでは無く確信犯的にプリミティヴで現代の"METALPUNK"を引き寄せるサウンドながらも"ROCK"を理解した曲作りを感じます。相手のWARWOLVESは日本にはあまり馴染み無い方のUSポートランド・シーン出身ですがDEATH CRUSTを地で行く、音楽的には馴染みのポートランド勢よりDEATHネティヴな音で素晴らしいです。

(Parastic/品番なし)7"

AVENGER/Minster Of Madness//The Black Zone



まずジャケひど過ぎ!チェコ・デモ・シリーズと銘打って地味にリリースされて来た第三弾!!90年代初期に結成され現在も活動を続けるブラックデスメタルの、94年に発表した1stと2ndデモLPです。いやーチェコ人METALHEADSって凄い!1+1=2はなぜそうなるのか?!などと常に考えていそうな全くストレートでないアーリーDoom Deathに痺れます! 情報社会、日本ではまず出せない音!!ブックレットの写真も素晴らしいです。

(Doomentia/Doom007)LP

PANZERBASTARD/2006-2009



通常、METALPUNKとはこういうバンドを指すと常々思います。USボストンWRECKING CREWメンバー率いるバンドの音源集。何の作為性も無い、メンバーの素のPUNK、METALが正に終結された音でオールドスクールではないオールドスクールが正に"極悪"という表現がピタリときます。DISCHARGEもCELTIC FROSTも当たり前のバンドですが二週間で網羅できるバンドでは無く、何年も自分の中で暖めて行くバンドだと思います。先輩のその息吹に拳を握りましょう。

(Patac/PATAC6)CD

TOXIC HOLOCAUST/Gravelord



「An Overdose Of Death」からのシングル・カットとそれの日本盤にボーナスとして付けられた"666"と新曲"Suicide Eye"の3曲入り。最早内容は良いでしょう(笑)。そして買いそびれても良いでしょう(笑)。成長していますが何時ものトキシック・スラッシュです。THを知らない人はコレよりも再発された1st、2ndの国内盤CDを買いましょう。そして何時までも変わらないJOELは5月に日本に来るので、皆で応援に行きましょう!METALPUNKS NOT DEAD。

(Relapse/#086)7"

VULGA/Mayhem With Mercy



人生はコレだから楽しい。小さい事でもソレを"楽しみ"に変えることで色々変わるんだと思います。んで、出して/出されて嬉しいリリースが登場!カルトメタル・マニアの間で話題になったマレーシア最古ブラックメタルの音源アナログ再発。崩壊METALなのですが昨今の耳慣れでそこまではDESTROYとは感じません。崩壊してますが(笑)。キーワードはVENOM、BATHORY、CELTIC FROSTです。Ltd 250枚あれば十分なGREAT VINYL!!

(Deathrash Armageddon/DA13-027)LP

EXCORIATE/On Pestilent Winds...



恐らく、DEATH METALにも偏見を持つハードコア・ファンは多数いると思いますが、そういう人はコレを聴いてください!ドイツ、現行DEATH METAL 1stアルバム。ソリッドでもっさくもあり突進していくタイプの良いとこどりで正にB級のA級ポジションど真ん中!!流通が悪く新品ながらに余り見かけませんが見つけたら即いって下さい。アナログ・ヴァージョンも出ました。

(Sepulchral Voice/SVR CD02)CD

N.M.E./Unholy Death



マニアックなMETALバンドと言われて真っ先に思いつくバンドがこれN.M.E.!サウンドは正にVENOM。しかしメンバーの強烈な逸話に象徴されるべくしてVENOM以上にVENOMと言っても良いぐらいですが、それをもう少し説明するのならVENOMがアメリカで生まれていたのならこうであったであろうと言えるサウンドということです。正直、初心者には向かないあっち側METALですが、そろそろかなってタイミングで音が聴けるようになりましたね。

(Bootleg)PIC LP

MAYHEM/Of Lord Satans Mysteries



もうイヤだ!だまされた!けど激渋!!なんじゃソリャ!!ブート。アメリカに未だ"Dead在籍時89年のリハーサルで、Deadが数人に送るために11本だけダビングしたうちの1本から直接起こした音源。正真正銘の初公開音源"と言い張っている人がいますが、違います。"Out From The Dark"とおんなじ音源。けどホント内容、写真渋い!もうやんなるけど買いました。クソカッコイイから。

(Bootleg)PRO-CDR

Making Some Cool Noise 非音楽を作るための音楽談義

NOISE NOT MUSIC!!と言いつつもそのNOISEを作る為にMUSICをやる位の時間と頭とお金を費やしているのだ!!という様なワケで今回からこのページを使い、普通の音楽誌では絶対にありえない結果を出す為の方法を、ミュージシャンシップな方向から検証するという企画を思いついたので、さらに思いつきで色々やって行きたいと思います。妄想膨らみ中!!

さて、第一回目は自分ごとですが、なんと私、MY GUITARをオーダーしてしまいました!

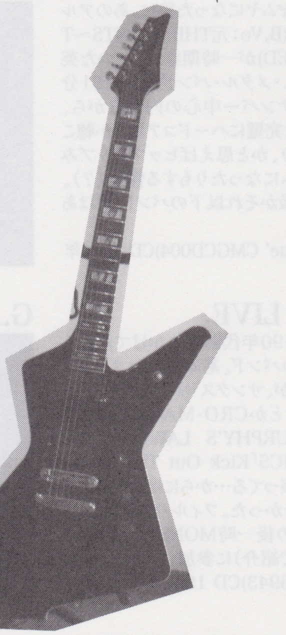
イヤー悩みましたよ。やはり、何がって材では無くて資金にね(笑)。しかし、一生モノ&この先もう楽器は買わないであろうという決心の元、製作に踏み切りました!ギター作っちゃおうかなーなんて思っている人は参考にしてください!(なるかな?!)今回、オーダーを依頼したのはオーダー楽器の老舗、渋谷のE店。なぜそこをチョイスしたのかというと、個人的に伝手があったということもありますが、私たち、80's日本METALをモロに被っている身としてやはりこのメーカーは特別なものという観念があったから。時代は変われど、やはりそういう気持ちは大事にしたいモノなのですよ。

2009/12 初旬

私の理想の音というのは、ずばりレスポール(以下LP)にマーシャルっていう典型的な音なのですが、オーダーって事もあり、当然、見た目ボディシェイプに拘りたいですよね?私も勿論そう考えました。正直に言うと音は二の次って位ですよ(笑)。なのでまずはボーとした構想(さして何も考えずに)以下を持ってとりあえずお店に相談に行きました。

※ボディシェイプ、ネック握り、
　コントロール系統/DESTROYER
※カラー/Gold topである
※材等/一般的なLP Stdと同じ
※PU/フロントダンカン59 リアダンカンJB

私、ギターを初めて持ってから20年近く経ちますが殆どギターのことを解らないと日々感じていました。が、ホントに何も解ってなかった(笑)!そして、最初から解ってはいましたが、他社のオリジナル・シェイプをコピーすることは権利上不可能との事。まぁ当然ですね。しかし逃げ道もあって多少シェイプ角度を変えるとかして近づけることは出来るらしい。そんなこんな、親切なアドバイザー(店員さん)と話すこと数時間、とりあえずの形をオーダーシートに起こし出て来た金額にぶっ飛び!!た、高い!もうすぐ桁が変わるじゃないですか!!??む、無理っす。中学時代に先輩からとんでもない注文を下されたときの事がフラッシュバックしました。私はオーダーシートのコピーと最新カタログを平静装いながら貰うも、いきなりの挫折に動揺しながらこの日は店を後にしました。



写真①

ABIGAIL JERO氏所有のDESTROYER。有名どころだとIRON MAIDENやVAN HALEN、FLATBACKERが使っていましたね。

2009/12 中旬

考えました、勉強しました、ギターについて。先日の説明で特殊ボディが高いと言われたので形はエクスプローラー(以下EX)タイプで妥協。そして幾ら考えても細かい所までは良くわからないので、既製品のEXを元に以下の変更箇所で再度見積りをかけました。

※ボディメイプルTOP張り
※バインディング(LPに見られる、ボディなどに淵をつけること)ネックまで有り
※ピックガードなし(コントロール系のボディのザグリが裏側からになる)
※ポジションマークをドットからLP Stdタイプに

そして、オリジナル・シェイプを止めたので額がガクッと下がりましたが、出てきた額に、う～んまだ高い。その出てきた見積りについて尋ねると、今の段階ではボディのBACK材マホガニーがホンマホ(ホンジュラスマホガニー、オールドモデルのリイシューなどに使われている簡単に言えばブランドものマホガニー)、そしてポジションマークを何タラ真珠で見積もったとの事。う～んそれらは要らないです、という事で、またまた再度見積もり依頼。う～むそれでも高いがまぁ納得な価格まで近づいてきた。あと削るとすればボディのTOP張りを止めるかどうか(コレの工賃が高かったし…)。しかしソレを止めてしまうと最早最初のコンセプトが全く無くなってオーダーする意味がないことに5秒で気づく。

今回、感覚ではわかっていたがボディがTOP張りしてあるモノと無いモノとの音の違いをはっきりと理解した。簡単に言うとTOP張りされていると音が尖がる、されてないと丸いってこと。なのでノイズ・ハードコア的にいうとヒャーっていうNOISEを出したいのならTOP張りされたギターを使うと良いと思う。

2009/12 下旬

俺にはオーダーの資格が無いな。など色々考えましたがYAMAHA SR400の中古価格ぐらいで納得。前金を手を震わせながら払いました。完成は来年5月頃になるとの事。次回は図面確認、材選びだ! つづく



写真②

私のメインギター80年代のGibson Lp-Std。PUはフロント/ダンカン59、リア/JBに交換。材はメイプル/マホガニー。この2つ(写真①と②)を足して2で割ったのを作ろうと思ったのです。

LASHING SPEED DEMONS VOL.4

TEXT:大越よしはる

前回のサイケ特集はいかがでしたでしょうか。今回は満を持して（？）メタル行ってみましょう。…と思ったら前号から本誌に二ツ木さんが参加していて、「喧嘩売っとんのかい！」と言われそうだが…いえいえ最初から勝負になりません（←ヘタレ）。ともあれ、80年代後半のクロスオーヴァーのムーヴメント以降…どころかGBHが登場したあたりから、やはりハードコアとヘヴィ・メタルの関係は無視出来ないものがあるワケで。本誌前号もメタル・パンク/パンク・メタル山盛りだったし。とにかく「LASHING SPEED DEMONS」的メタル特集ということで、行ってみよう。

ATOMGOD/HISTORY RE-WRITTEN



TANKがウヤムヤになった後に、あのアルジー・ワード（B,Vo：元THE SAINTS～THE DAMNED）が一時期参加していた英国スラッシュ・メタル・バンド。7曲で51分という長尺ナンバー中心の内容ながら、曲によっては完璧にハードコアにしか聴こえなかったり、かと思えばヒップホップみたいなリズムになったりもする怪盤（？）。基本的にB級かそれ以下のバンド、ではあるが。

(communique' CMGCD004)CD 1991年

ENTOMBED/ENTOMBED



スウェーデンを代表するデスメタラーの、ニッケ・アンダーソン（後にHELLACOPTERS）在籍時のシングルやEPを集めた編集盤。代表する…といいつつやたらR&R色の強いデス・メタル、というのもなかなかに異例だが、それにしてもKISSはともかくロッキー・エリクソン（前号で紹介）のカヴァーなんて演ってる点で、やはりただのデスメタル・バンドではなかった。すべてはつながっている…。

(EARACHE MOSH125)CD 1997年（91～95年録音）

BLITZSPEER/BLITZSPEER LIVE



80年代末～90年代前半にかけて活動していたNYのバンド。基本的にはスラッシュ・メタルだが、サンクス・リストにはジョーイ・ラモーンとかCRO-MAGSとかLEEWAYとかMURPHY'S LAWとかの名がズラリ。で、MC5「Kick Out The Jams」のカヴァー演ってる…からにはただのスラッシュじゃなかった。フィル・カイヴァーノ（Vo,G）はその後一時MONSTER MAGNET（前号で紹介）に参加。

(EPIC EK46943)CD 1990年

G.A.T.E.S/TOTAL DEATH



Metal Punk Rules!!…ってなワケでコレを紹介しない訳にはいかない（ヨイショじゃない）。300枚限定の12inchと77本限定のデモを改めてCD化してMOTORHEADのカヴァーを突っ込んだ。その「Overkill」もかなりカッコいいんだが、メタル・パンクでパンク・メタルなオリジナルこそ評価すべきだろう（まんま「No Class」な6曲目はちょっと笑っちゃうけど）。CHURCH OF MISERYファンも必携。

(DIWPHALANX PX-123)CD 2005年

BURNING WITCH/CRIPPLED LUCIFER



スティーヴン・オマリーとグレッグ・アンダーソンが一緒にいた時期もあり、SUNN O)))の前身バンドと言える存在。カテゴライズするとやはりスラッジ/ドゥームということになるんだろうが、SUNN O)))に較べると遙かにメタルっぽく聴こえる音。NEUROSISあたりもそうだけど、90年代以降はハードコアとメタルを吸収してまた一味違った異形のロックを吐き出す連中が続々と出ている。

(DAYMARE DYMC-052)3CD 2008年（96～97年録音）

HIGH ON FIRE/SNAKES FOR THE DIVINE



ドゥーム/ストーナーの伝説、SLEEP。解散後、リズム隊の二人はOM（前号で紹介）を結成した。一方のマット・パイク（G,Vo）が絶賛邁進中なのがこのバンド。ライヴ盤ではVENOMをカヴァーしてたりして、アルバム毎に腐れメタル色（MOTORHEAD風味も）を強めている頼もしい存在（現在のベースは元ZEKEのジェフ・マッツ）。コレは2月24日リリースの最新5thアルバム。

（ビクター VICP-64800）CD 2010年

DOOM/KILLING FIELD…



80年代後半の日本スラッシュ勢の中でも、JURASSIC JADEと並んで突出した個性を発揮していたトリオのメジャー・デビュー作。当時は期待ほどの音圧を感じず、物足りなく思ったりもしたが、改めて聴くと十分に凄いことをやっている。少し後のVOIVODがやろうとしていたことを先にやっていた感も。インディーズ・ブームの中で、メタル・シーンだけでなくパンク勢ともよく対バンして、印象は濃かった。

（ビクター VICL-62213）CD 1988年

MANOWAR/KINGS OF METAL



NYパンクの中でもパティ・スミスと並んで早い時期（75年）にアルバム・デビューしていたTHE DICTATORS…のメンバーだったロス・ザ・ボス（G）が、その後コレですか。耳をつんざくシャウト、空間を埋め尽くすギターとベース、あまりの暑苦しさに思わず笑ってしまう（しかし奴らはマジなのだ…）、ある種メタルの中のメタル。その後ロスは脱退、コレは彼が参加した最後のアルバム。

(ATLANTIC 7 81930-2)CD 1988年

EMPEROR/ENSLAVED/"HORDANES LAND"



ノルウェイを代表するブラック・メタル・バンドのひとつと、俺にはどう聴いてもブラック・メタルにしか聴こえない"ヴァイキング・メタル"のバンドがスプリットで出していた初期音源。特にEMPERORは凄い。この時点で既にキーボードを大フィーチュアしてシンフォニックなことをやろうとしつつ音質極悪でぐちゃぐちゃ、その上に乗っかる悪鬼の咆哮。メンバーはその後続々と逮捕（…）。

(CENTURY BLACK 7774-2)CD 1994年

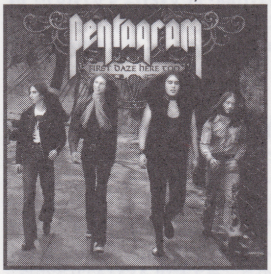
NASTY SAVAGE/INDULGENCE



フロリダがデス・メタルのメッカと化す以前、有名な「モリサウンド・スタジオ」で80年代半ばに録音していたのは、もちろんスラッシュ/パワー・メタル勢だ。その中でも忘れ難いのがこのバンド。ツイン・ギターの変則的なリフに、プロレスラーでもあった乱暴者ナスティ・ロニー（ぽっちゃり…）のヒステリックなシャウト。裏ジャケでドラマーが火を吹いてるのも凄い（BATHORYかい）。

(RESTLESS/METAL BLADE 72186-2)CD 1987年

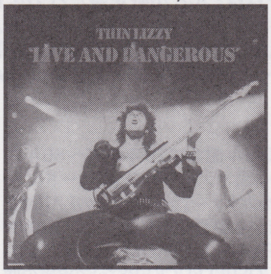
PENTAGRAM/FIRST DAZE HERE TOO



いわゆるドゥーム・メタルの元祖として、伝説的に語られるバンドの初期音源2枚組。THE ROLLING STONESのカヴァーなんか演ってたりして、今改めて聴くとわりとフツーのアメリカン・ハード・ロックに聴こえるんだが、随所に顔を出すマイナー調の陰鬱なメロディやホラーな歌詞。その後80年代に再編して、TROUBLEとかCATHEDRALあたりに絶対的な影響を及ぼしたというワケだ。

(RELAPSE/PRYAID YSCY1934～1035)2CD 2006年(72～76年録音)

THIN LIZZY/LIVE AND DANGEROUS



メタルというかハード・ロックだが…。近年はパンク/ハードコアでも流麗なツイン・リードとか聴かせるバンドが出てきてるけど、"流麗なツイン・リード"というと真っ先に思い出すのがこの人たち。実際SEX PISTOLSとかのパンク/ニューウェイヴ勢とも親交あったし、アイリッシュ・パンクやってる人とかは大抵好きだよねこのバンド。コレはライヴ・アルバムの名盤のひとつに数えられる一作。

(ユニバーサル UICY-9235)CD 1978年

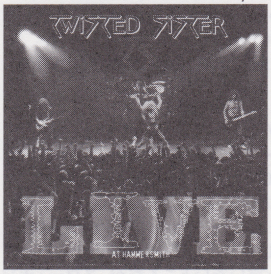
PLASMATICS/BEYOND THE VALLEY OF 1984



1stアルバムが80年だから、いわゆるヘヴィ・メタルというジャンルが確立しつつあった頃、既にメタル・パンクだったオリジネイター。1stはもうちょっとハードコアっぽくて、3rdはほぼ完全にメタル、この2ndはいい塩梅にメタル・パンクというか。ヘルプだったドラマー(なんと元ALICE COOPERのニール・スミス!)を除くメンバー4人のうち3人がモヒカン、というのからして凄過ぎる。

(PLASMATICS MEDIA WOW102)CD 1981年

TWISTED SISTER/LIVE AT HAMMERSMITH



メタルというかハードR&Rだが…。初期のライヴ音源を聴くとほとんどが50～60年代R&Rのカヴァーで、一種のパブ・ロックだったのだこのバンドは。その分パンクとの親和性は高く、代表曲「We're Not Gonna Take It」はポップ・パンクやガレージ勢によくカヴァーされている(一方で初期のオリジナル曲はけっこうダーク)。THE DICTATORSのメンバーだったマーク・メンドーサ(B)も在籍。

(CMC INTERNATIONAL CMC7003)2CD ?年(79/84年録音)

PROBOT/PROBOT



NIRVANA～FOO FIGHTERSのデイヴ・グロールがそんなにメタル好きだったなんて、このアルバム聴くまで知らなかったんです。ほとんどデイヴ一人で演奏して、80年代メタルとクロスオーヴァーの錚々たるメンツに歌わせた珍盤。クロノス(VENOM)にレミーにマイク・ディーン(C.O.C.)にカート・ブレヒト(D.R.I)にトム・G・ウォリアー(HELLHAMMER～CELTIC FROST)に(以下延々と続く)。

(BMGファンハウス BVCP-21369)CD 2004年

ZADKIEL/ZADKIEL



DOOMとG.A.T.E.Sを紹介したら、当然コレも紹介しなければ。DOOMの諸田(B)が在籍した、日本で最も初期のスラッシュ・メタル・バンド…というか日本メタル・パンク/パンク・メタルの源流。当時のスタジオ録音、全6曲に映像も4曲(画質はアレだが)。全体に過剰な"MOTORHEAD愛"が溢れた結果、また全然別のモノになってるのが凄い。TANKあたりと並び称されて然るべき存在。

(BxTxHx BTH-005)CD 2006年

SLAYER/UNDISPUTED ATTITUDE



今回、今更METALLICAやVENOMは取り上げない方向で臨んだが、コレばかりは無視出来ない。スラッシュの帝王が古今のパンク/ハードコアの名曲をカヴァーしまくった1枚。3曲はオリジナルだが、ジェフ・ハンネマン(G)がSLAYER初期に書いていた2曲がスラッシュじゃなくてまんまハードコアなのが、このバンドの出自をよく表わしている。オリジナル・アルバムより音が薄いのも却ってナイス。

(AMERICAN 74321 38325 2)CD 1996年

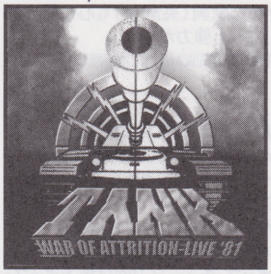
V.A./METAL MASSACRE V



METALLICAを世に出した、80年代前半の若手メタル・バンド・オムニバスの代表格、第5弾。VOI VODにOVERKILLにMETAL CHURCHにHELLHAMMERにMACE…と、メンツが完璧過ぎる。どれもその後のオリジナル・アルバムより音質が悪いところが、また最高。それにしてもHELLHAMMERの壊れっぷりは何度聴いても凄いな(ギター・リフが何弾いてんだかわからない!)。

(METAL BLADE 3984-14045-2)CD 1984年

TANK/WAR OF ATTRITION-LIVE 1981



ATOMGODだけじゃアレなんでやっぱりTANKも載せておく。80年代も再結成後も、TANKはライヴ音源が素晴しい。THE SAINTS～THE DAMNEDと渡り歩いた男が作り上げた、MOTORHEADの弟分と呼ばれるメタリックR&R。このCDには更に代表曲「Shellshock」他のデモが入っていて、コレがアルバム・ヴァージョンより荒くてカッコいい。ところで再編TANK、アルジー脱退って…。

(ZOOM CLUB ZCRCD58)CD 2001年(81年録音)

V.A./NEW WAVE OF BRITISH HEAVY METAL '79 REVISITED



DOLLとかあちこちで何度か書いたが、NWOBHMってのはハード・ロック/ヘヴィ・メタル版のパンク・ムーヴメントだったと思う。その荒い音質と洗練されない演奏は、パンクのリスナーにもアピールするところが大。そんなあれこれを堪能出来る2枚組。後にメジャー化した連中もここではスッカスカの音で好ましい。SAMSONの覆面ドラマー、サンダースティックをフィーチュアしたジャケもナイス。

(METAL BLADE 3984-14030-2)2CD 1990年(79～82年録音)

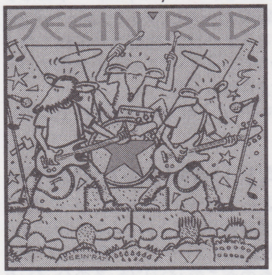
前号の記事に間違いがあったので、訂正します。THE DEAD PAN SPEAKERSのアルバムは、1998年じゃなくて2009年のリリース(すいません)。
ともあれ、今回も偏ったチョイスでお届けしました。DOLLがなくなってからパンクよりもハード・ロック/ヘヴィ・メタルを聴いていることの方が多いような気がする今日この頃。ANGEL WITCHも観に行ったしな。

KISS THE DISC

TEXT:行川和彦

採算等の現実的な問題で7"のレコードはほとんどが限定盤だろうが、確認できている限り世界中で300枚以上は出回っているはずのものを取り上げた。例によってコレクターのためだけみたいなブツは外してある。といっても大半はパンク/ハードコアの専門店でしか買えないと思うが、すべて日本のレコード店でも購入可能だったもの。少なくてもこれを書いている2010年1月19日の段階だと、リリースしたレーベル側で売り切れになってないものばかりだから、ちょっとがんばってチャレンジしてみていただきたい。

SEEIN RED/Seein Red



結成20周年記念で70年代末〜80年代初頭の自国オランダのパンク/ハードコア・バンドをカヴァー。前身バンドのLARMを組む前から影響を受け続けているRONDOS、PANDEMONIUM、JESUS AND THE GOSPELFUCKERSなどの8組の曲を、砂嵐の中で演奏しているみたいな音で次々とプレイしていく。こういうカヴァー集だからこそ思い入れの強さでサウンドの熱さも倍増だ。セルフ・ライナー付。
(WAY BACK WHEN WBW17)7"EP

CHILDREN OF TECHNOLOGY/Chaos Mutant Hordes



コレクター以外は敷居が高いブツもリリースするイタリアのトリオだが、これは入手しやすい。標榜している"MotorCHARGED""スピード・クラスト"どおりながらもロックンロールとして良し。モヒカン女性ドラマーのコーラスがPLASMATICSのウェンディっぽいのも心憎いA面が、70年代のMOTORHEAD風で特に好きだ。英語で歌う詞のお馬鹿なセンスも憎めない。現在は4人編成で活動中。
(IRON BONEHEAD Prod. I.B.P.063)7"

REGULATIONS/To Be Me



スウェーデンのウーメアを拠点とするバンドで、80年前後の米国西海岸パンク・スタイル。2枚目のフル・アルバムだが、さすがの出来だ。ヴォーカルも含めてGERMSと初期BLACK FLAGと初期CIRCLE JERKS…と言いたいところだが、スロー・ナンバーやメロディアスな曲も含むフック十分で幅広くセンス良く、ZERO BOYSやD.O.A.あたりの色も。ナチュラル&美味な歌詞英語の約22分12曲入り。
(DERANGED DY159)CD

STRAIGHT EDGE KEGGER/Hurt



女性ヴォーカルを擁して精力的なリリースを続けるカリフォルニアのスラッシュ・パンク・バンドのセカンド・フル。全編つんのめるスラッシュ・サウンドだが、いい意味で練れてきてリバイバル系とは一線を画したフリーキーな疾走で、ハジけたフリー・フォームのシャウトは何気にメロディアスで切なくてそそられる。郵便で請求しないと歌詞カード入手不可なのも、アナログにこだわる姿勢ゆえか。
(ROTTEN TO THE CORE RTTCR-003)LP

REPAIR/Aloha Sakhalin



東京のハードコア・パンク・バンドの9年ぶりのサード・フル。COLORED RICE MENや後期NUKEY PIKESにMOTORHEADのグルーヴが息づいたようで、日本語ならではのいい意味での泥臭さも滲みロック感十分だ。何しろ音のひとつひとつが強い。こんなに彫りが深くて音が生き生きしている日本のバンドの盤は久々だ。歌詞を掲載したファンジン『PINHOLE』のVol.3も封入。グレイト!
(No Label, No Number)LP

DETRITUS/Detrtius



ツイン女性ヴォーカルを擁したベルギーのハードコア・パンク・バンドの、活動末期の2005年に録ったアルバムの2009年末発表作。ほのかにメロディアスでドラマチックな曲のヘヴィ・スラッシュ・サウンドにうならされる。腹から感情を出す気合の入った女声も歌詞の政治的な切り口も好きだ。RUDIMENTARY PENIの「Flame Of Insanity」のカヴァーも含み、16ページのブックレット付。素晴らしい。
(RUIN NATION BOLLOX 014)LP

BLACK BREATH/Razor To Oblivion



SUNN O)))のメンバーのレーベルが放ったシアトルの5人組による4曲入りのデビュー盤。HELLHAMMER〜初期CELTIC FROST、初期BATHORY、スウェーデンのデス・メタルに、DISCHARGEと後期POISON IDEAが噛みついた如しである。金属質の響きが容赦なくレッド・ゾーンを振り切り、ブラック・メタルがかったヴォーカルも気合十分だ。緩急織り交ぜた楽曲クオリティも高くてオススメ!
(SOUTHERN LORD LORD 111)CD

EDELWEISS PIRATEN/Blizna



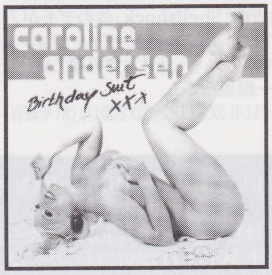
本誌Vol.0の表紙にもなったポーランドのUTOPIAのベーシストがドラムを叩くバンドのファースト・アルバム。こちらも女性ヴォーカルとはいえ噛みつくような発声でぐいぐい押し、バッキング・ヴォーカルも追い討ち。いわゆるスカンジ・スタイルのビートにメロディが絡むハードコア・パンク・ロックの音は切なくも熱い。ポーランド語の社会的な歌詞(英訳付)も心に響き思慮深い。これも強力だ。
(KICK ROCK/ANGRY VOICE/TRUJACA FALA/EDELWEISS PIRATEN No Number)LP

DOOMRIDERS/Darkness Come Alive



CONVERGEではベーシストのネイト(g, vo)、CAVE INのJR(ds)らによるバンドのセカンド。ENTOMBED、THIN LIZZY、BOLT THROWER、METALLICAといったツイン・ギターのバンドを独自パンク解釈したような、哀愁のメロディがこぼれ落ちるヘヴィ・サウンドだ。粗いヴォーカルも含めてプレイはラフ&ダイナミックだから非様式美系の"メタル・パンク"と言い切りたい。クール!
(DEATHWISH DWI95)CD

CAROLINE ANDERSEN/Birthday Suit



ノルウェーのYUM YUMSのフロントマンのモルテンが、恋人のキャロライン主演のアダルト・ムーヴィーのサントラをプロデュースしたシングル。彼女が大好きなニッキー・コルヴェットを思わせ、A面はふわふわ夢見るポップ・チューン、B面は極上ポップ・パンクで、問答無用である。心あたたまるミニ・ポストカードが5枚付き、サーモン・ピンク色のビニール盤(+匂い付き)で至れり尽くせり。
(L'EDONISTA HEDON-1)7"

MYELIN SHEATHS/Stackticon



カナダの4人組(vo/gとb/voが女性、gとdsが男性)による4曲入りのデビュー盤。斉唱も気持ちいいまっすぐなパンク・ロック・ナンバーでカマしたかと思えば、シュゲイザーっぽい曲やガレージ・サーフ・ロックンロールっぽい曲も披露する。ダブに関わる前のSLITS、最近のバンドだとETTESやVIVIAN GIRLSも頭をよぎり、女男混成ならではのとても面白いバンドだ。硬い紙のジャケも良し。
(BACHELOR BR-36)7"EP

RATAS DEL VATICANO/Chido



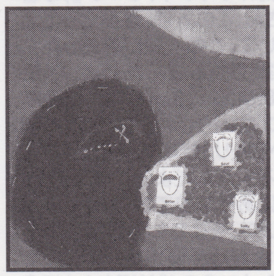
米国のイベントSXSW 2009にも出演したメキシコの新鋭パンク・バンドの4曲入り。ライオット・シティ・レコードのUKパンクのスピード感だが、鼻を突く匂いが聞こえてくる臭気漂うサウンドがたまらない。子供声が混ざり二人で歌っているようにも聞こえるスペイン語のヴォーカルにも胸騒ぎがする。あぶらだこのメンバーらによるKITO MIZUKUMI ROUBERにも通じるヤバさに痺れるばかりだ。
(VOLAR VOLAR03)7"EP

BEATERS/White Hate



元SESSのジェレミー(プロデュースやアートワークも担当)とドラマー在籍の、南カリフォルニアのパンク・バンドのセカンド・シングル。不気味なジャケそのまんまの妖しいサウンドで、曲もシンガロングなんか知ったこっちゃない勝手ぶりだ。執拗なミニマル・ビートは耳痛だし、行方知らずのギターやオルガンも挙動不審のヴォーカルも危険な香りプンプンである。「Venomwarrior」らの曲名も意味深。
(ZOO MUSIC SM-005)7"

TORTURED TONGUES/Arizona Murder



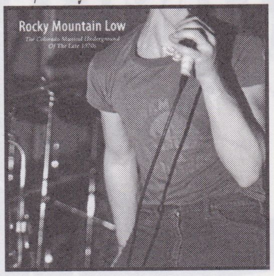
米国東部ペンシルヴァニア州のパンク・バンドのデビュー・シングル。響きの破片が飛んできて喉を突く酸味の強い音の2曲で、"殺人者"と呼ぶにふさわしい絞殺魔の如き強烈なサウンドだ。突き放したように歌うヴォーカルも冷めたトーンで鼓膜にこびりついて離れない。音そのものが薬物みたいな怪音波を発して気持ちイイ頭痛をプレゼントする。バンドのクールな"マニフェスト"が書かれたインナー付。
(LETHAL TRIAD LTR-001)7"

EYES/TAQN



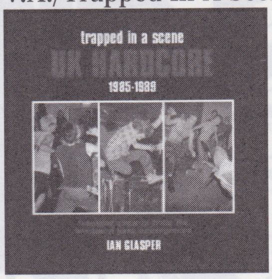
初期LAパンクを代表する一つ。DJ・ボーンブレイク(後にX)とシャーロット・キャフィー(後にGO-GO'S)が去ってから録り、79年にデンジャーハウスから出した唯一の一シングルが、4曲追加(2曲は未発表)で再発。ハードコア登場前夜の文化系の性急なパンク・ロックで、オルガンも功を奏して当時のLAパンクのアート性も鼻をくすぐる。昨今の北欧のメロディアスな地下パンク・バンドとも接点ある音だ。
(ARTIFIX SPR030)10"EP

V.A./Rocky Mountain Low~The Colorado Musical Underground Of The Late 70's



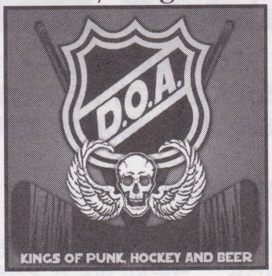
米国コロラド州の70年代後半の17バンド/23曲を収録。75年のニューヨークやクリーヴランドに近い空気を感じるが、現行のユニークな地下パンク・ロックともダブり刺激的だ。ジェロ・ビアフラがローディーだったRAVERSから始まり、彼在籍当時のHEALERSも聴けてLP(他はCDと同内容)では彼抜きの「California Uber Alles」(後にDEAD KENNEDYSがリメイク)も楽しめる。豪華ブックレット付。
(HYPERPYCNAL No Number)2LP+CD

V.A./Trapped In A Scene UK Hardcore1985 - 1989



NAPALM DEATH、HERESY、ENT、STUPIDSら31組ものバンドを、当時のシーンを表すべく種々雑多に収めたこと自体凄い。しかもCIVILISED SOCIETY?、DOOM、SACRILEGE、AXEGRINDERらは初CD化の曲、FILTHKICK、CONCRETE SOX、ELECTRO HIPPIES、JAILCELL RECIPES、HELLBASTARDS、FIEND、HDQ、ATAVISTICは未発表音源。無名バンドが多数聴けるのも嬉しい。
(CHERRY RED CDPUNK 156)CD

D.O.A./Kings Of Punk, Hockey And Beer



カナダのベテラン・パンク・バンドの新たな編集盤。オリジナル・ドラマーのチャック・ビスキッツの死と関係なく数曲の未発表曲も含む86~2009年の録音で、D.O.A.ゆかりのホッケー絡みらしい。政治的な姿勢のバンドだが、アップ・テンポの快活な曲が続きほとんどシンガロングのパーティ・ソングでパワーもらえる。BACHMAN - TURNER OVERDRIVE(BTO)のカヴァーも含み、曲ごとの解説付。
(SUDDEN DEATH SDR-0085)CD

SWINDLE BITCH/Complete Swindle Bitch 1993-1995



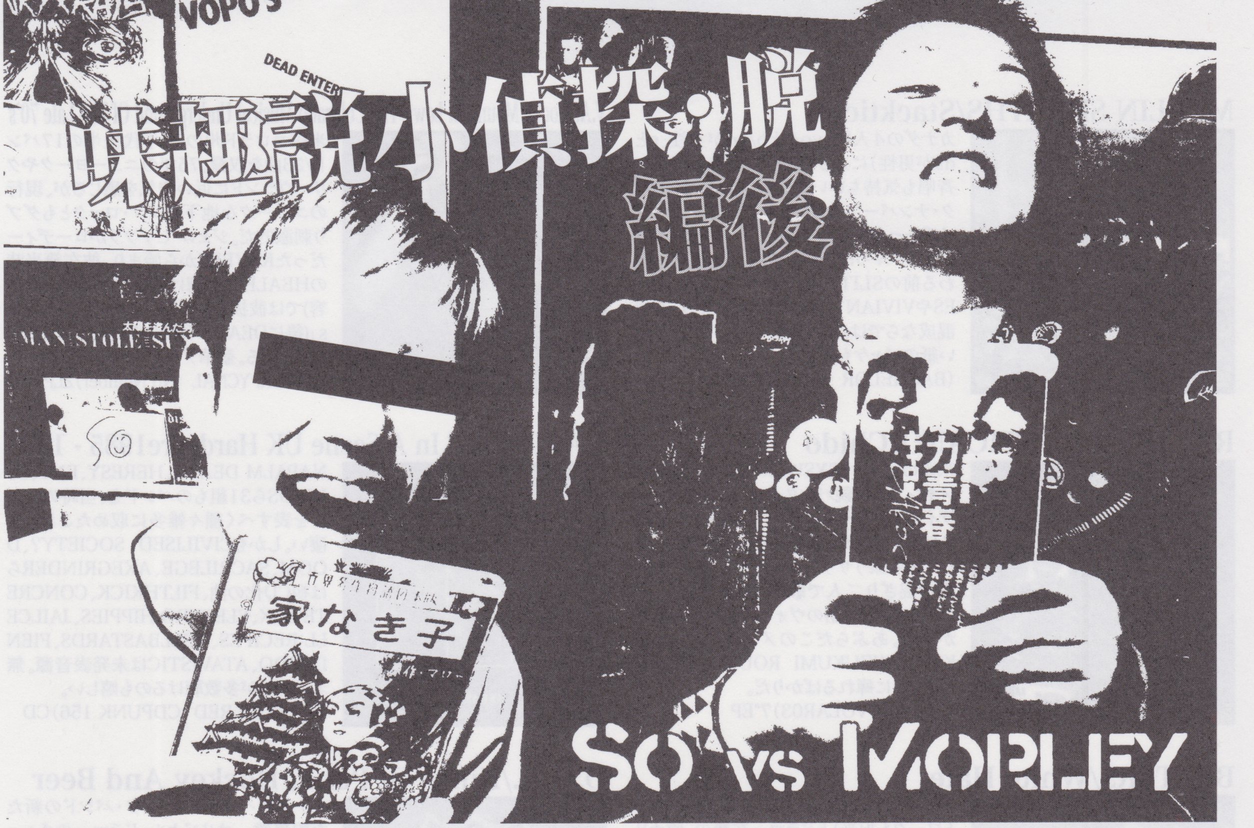
"静岡富士シティHC"を標榜したバンドの音源集。Blurredから出したRUSTLERとのスプリット7"EPの3曲の他に、カセットの曲などで構成した24曲入りだ(曲のダブりあり)。ロッキン・テイストのジャパニーズ・スタイルだが、中低音の効いたノイズィーな音も問答無用なヴォーカルも暴風の如く中央突破。80年代前半の日本のハードコアの匂いも漂い、特にライヴが鬼気迫る。二つ折り紙ジャケ。
(SS RECORDINGS SS-939)CD

BUZZOV-EN/Violence From The Vault



EYEHATEGODと共にスラッジ・コアの先駆だった北カリフォルニアの"バズオヴン"。これは94年録音の未発表の5曲入りだが、絶頂期のセカンド『Sore』の直後だし全34分で聴き応え十分だ。活動フィールドだった地下パンク/ハードコア特有のsick & brutalな激臭に満ちたビリー・アンダーソンのマスタリングも完璧。日本仕様盤には再始動をほのめかすセルフ・ライナーの和訳付のデジパックだ。
(RELAPSE JAPAN YSCY-1169)CD

<追伸> すべてパンク/ハードコアがキーワードにある作品だが、今まで本誌の本欄で扱ってきたものよりも今回はグッと幅を広げてみた。誌面内容が広がってきているからいいのではないかというのと、常に動いてないと澱んでしまうから。昔レコーディングされた作品もいくつか含めてみたが、みな2009年の後半から2010年1月にかけてリリースされたもののはず。たとえ新録でなくても、次から次へと新しく世に出ているレコード/CDの音源を紹介する姿勢は変えたくない。グレイトな音楽はあちこちで鳴っていることを可能な限り示したいから。



前号のあらすじ：OVERTHROW RECORDSの森下さんと「古本対談でもやりますか」という話しになり、KAOTIK HERO ZINE/HARDCORE SURVIVESのSoくんの家に古本と酒を持ち寄りグダグダ喋ること2時間。「これ原稿に起こすの面倒だなぁ…」と思いながらも、まだまだ続く議論の嵐(単なる雑談)。古本とパンクがクロスオーバーする瞬間は果たして訪れるのか!?
疾風怒濤波瀾万丈面目躍如の後編、はじまりまーす。　　**[2009年11月20日/高円寺Soくんの自宅]**

森下(以下、M)「そうだ、これSoにプレゼントの本。赤瀬川原平の本、間違って2冊買っちゃって」
So(以下、S)「わ、ありがとうございます」
M「山路さんにはプレゼントなくてすみません」

■ナニッ(怒)?!

M「いずれ金銀パールプレゼントってことで(笑)」

■なんすかそれ(笑)。じゃあ、本の続きを。

M「あとは、そうだね、赤瀬川原平(※日本の作家、前衛芸術家。近著では『老人力』がベストセラーになった)を無理にパンクと結びつける気はないんだけど、あの人がやってきた色々な奇想天外なことが面白くてさ。ネオ・ダダのムーブメントとも関わっていたし(※芸術家、建築家の荒川修作らと共に、前衛芸術組織ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズを結成)。『ROCKERS』って記録映画あったじゃない。あそこで、"やっぱりフリクションもネオダダの1グループだと思うんですよね"って言う当時のお客さんの声が出てきて、なるほどなって思ったり」
S「僕は赤瀬川原平はあんまり本心を語っていないと思うんですよ」
M「ほう」
S「うまく誤摩化しているような気がするんですよ。つくろっているというか、なんか、オブラートに包んで、どっか本心は隠していると いうか」
M「それは鋭い読み方だね」
S「読み物としても面白いんだけど、核心はちょっとそらしているような」
M「裏でペロっと舌を出しているような感じかな」
S「うん、読んだままじゃなくて」





M「この『東京ミキサー計画』っていうのはさ、赤瀬川原平を知ったのは俺は遅いというか逆流していて。先にこっちが好きだったんだけど、この本(『東京トワイライトゾーン』)の著者、久住昌之さん。この人は、泉昌之って名前でも書いていて、この人が好きだったんだよね。漫画家でもあるんだけど、Q.B.B(※Qusumi Brothers Band。弟の久住卓也との漫画家ユニット)もやっていて、『中学生日記』を書いてたり。赤瀬川原平はこの人の師匠にあたる人なんだよね。"美学校"っていう神保町にある学校で赤瀬川原平が教室を持っていて、そこで久住さんが生徒だったという。本当は赤瀬川原平を知って久住さんを知る、というのが普通なんだろうけどさ。その赤瀬川原平の本を読みたいなと思って、ちくま文庫から出ている『東京ミキサー計画』を読んだんだよ。そのオリジナルが今日持ってきたものなんだけど。俺が生まれる前、昭和30年代後半に、突如として東京のあるところに現れて芸術(ハプニング)を展開していくハイレッド・センターっていう集団の話しでさ」

■何ですかそれ、劇団ですか?

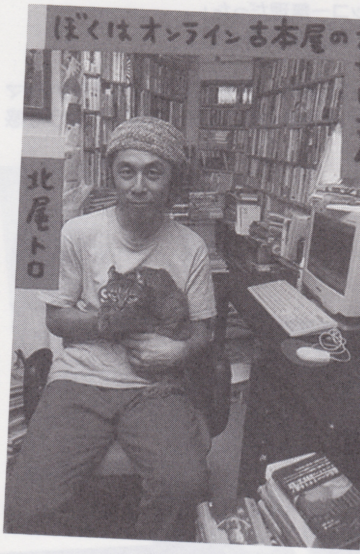
M「劇団ではない、何をしでかすか分からないハイレッド・センターというユニット(!?)。在り方が人を喰っている、おちょくっている感じ(※銀座の街頭のマンホールやアスファルトなどを集団で清潔に磨き上げるなどの

パフォーマンスを繰り広げた」
S「前衛的というかね」
M「それが格好良いなと思って、影響を受けたというかさ。当時から何十年も経った今、"東京でこういうことが起こっていた"というのを知るのは面白いね。行動を起こす前に予告の怪文書みたいなのを見て欲しい人に送りつけたり」
S「千円札をコピーしたのって、なんででしたっけ?」
M「コピーというか、まず拡大模写したドデカイ千円札を作ったりして、それが紙幣を模倣したとして罪に問われたんじゃないかな。裁判になって結局無罪だったのか罰金だったのか忘れたけど、その結果はどうあれ(※懲役3年、執行猶予1年、原銅版没収の判決を受けた)。その後も懲りずに、『美術手帖』で"ダレにも出来ない楽しい工作"といって、貼り合わせると千円札になる工作もわざわざ企画したり(笑)」
S「つかみ所がないですよね」
M「この人もだいぶ高齢だから、最近はめったに人前に現われないけど、トークショーでもあれば一度会ってみたいなと」
S「南伸坊とはどういう関係なんですか?」
M「南さんが弟子だね。美学校の生徒だったのか」
S「今じゃ南伸坊も大御所というか、名の知れた人ですもんね」
M「あとはね、これは単純にビジュアル本で好きなの」
■ん、"浜"?
M「いや、"涙"(笑)。『涙の怪獣パーティー』っていうね、これはね…」



■3Dメガネだ!浮かび上がるんですね。
S「子供向けの本ですか?」
M「いや、これは大人向けなんだよ。高木完さんとかが書いていたりさ。出てすぐに買ったんだけど、どこに行ったか分からなくなって。それで今年の夏、お盆あたりに発見してさ。ただ発見したけどメガネがない!って、それで版元の飛鳥新社に問い合わせたの。これは絶版になっているなと思ったけど、"メガネだけでもないですか?"って」
S「凄いなー(笑)」

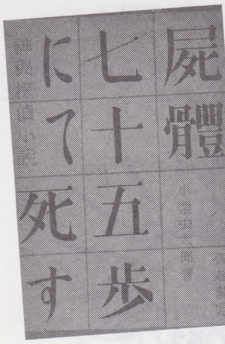
M「そしたら"メガネは申し訳ないですけどないんです。重版の予定もないんです"って言われて。これまた見つけるのに苦労するなと思ったんだけど、その翌週にメガネつきを古本で見つけたの」
S「新しい本ですか?」
M「出たのは全然最近、2005年くらい」
S「面白いですね、"メガネだけ下さい"って(笑)。絶対(版元には)あったよね(笑)」
M「会社近いから、あれば取りに行きますって言ったんだけど」
S「それが逆に」
■絶対"ヘンな奴"って思われましたね(笑)。

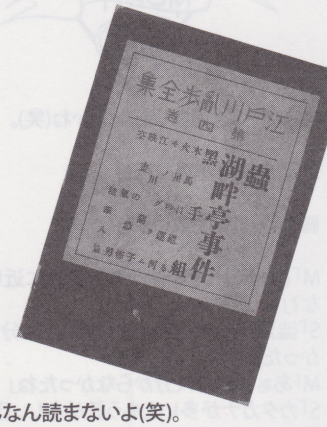


M「俺の場合、北尾トロさんが書いた本、かなり売れただろうけど、『ぼくはオンライン古本屋のおやじさん』というのがあったでしょ。あれは出た時すぐに買って。あの人が定義したのが、"ヘンな本"というね、どこにも属さないサブカルの中でもまたちょっとヘンな本を位置づけしたというのがあって。あの人が古本の楽しみを広げてくれたっていうのはあるよね」
S「僕は『本の本』は大好きですね」
M「さっきの『東京トワイライトゾーン』もトロさんから買ったんだよね。杉並北尾堂っていう、あの人が立ち上げたオンライン古書店で買った。"タモリ倶楽部"の番組の中のコーナーをまとめたもので、トマソン(※上った先に何もない階段など、無用の長物でしかないものを示す概念)と一緒なんだけど、けったいな物件を集めた本なんだよね。そんなところですかね」
■僕もちょろっと古本を持ってきました。
M「うわ、黒い(※古い、という意味)」
S「字が読めない(笑)、"死体"?」

■うん、『屍體七十五歩にて死す』。

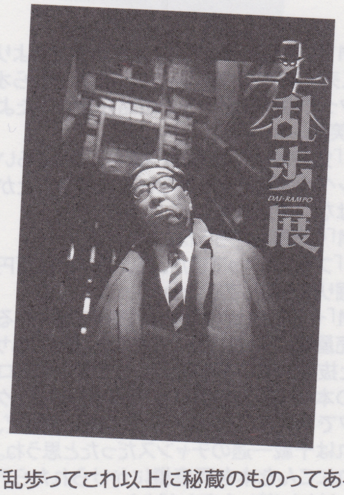
S「右からなんですね、読み方が(笑)。山路くんこれ読んでるの?」





■こんなん読まないよ(笑)。
S「内容自体は?」
■それはいくらでも他の形で読めるからね。あとこれか(『平凡社版江戸川亂歩全集第四巻』)。
S「もうこれは"モノ"としてなんですね」
M「こうなると奥付を見ちゃうよね。昭和6年。太平洋戦争の全然前か」
S「80年前(笑)。自分のじっちゃんばっちゃんが子供の頃ですか。乱歩の蔵書展みたいなのは行った?横浜じゃなかったっけ?」

■(神奈川)近代文学館でやったやつでしょ(※開館25周年記念"大乱歩展")。行ったら時間が遅くてもう閉まっていて、ションボリしてたら図録だけ売ってくれた(笑)。



S「乱歩ってこれ以上に秘蔵のものってあるの?」

■いや、もう出尽くしているでしょ。

M「MOB47みたいな感じか(笑)。けど親族だったら持っているんじゃないの。"これは世に出せない"とかさ」

■スゲーくだらない日記とかね(笑)。

S「乱歩は全作読んだ?」

■いや、読んでないよ(笑)。

M「(乱歩は)澁澤龍彦の世界観に近いのかな?」
S「澁澤はモダンすぎて僕にはよく分からなかった」
M「あぁ、俺もよく分からなかったね」
S「カタカナが多いともう読めない。(登場人物の)名前も覚えられないし。イメージ的にはカルトな感じがするけど」
M「しかしこれは黒っぽいというか、黒いねぇ」
■こんなん読む気が起きないですからね。著者検印(※著者が発行部数を確認するため奥付に押していた印。現在の書籍ではほぼ行われていない)が嬉しいですよね。



M「古本屋に行って、自分が買った時より高く売っていると喜ぶんでしょ?これだからオタクって気持ち悪いって山路が言ってたよね(笑)」
S「気持ちは分かるけどね(笑)。これくらいのレベルだと掘り出せない?ブックオフとかにはないのかな?」
M「もう無理だろうねぇ」
S「ブックオフってまだ、良いものが何百円で掘り出せるんですかね」
M「セドリ屋(※古本を安く買って高く売る転売屋)みたいなのがいるでしょ。あってもサッと抜かれていると思うな。さっきのキャロルの本(※前号参照)も吉田豪さんがブックオフで100円で手に入れたって聞いたけど、それは千載一遇のチャンスだったと思うね。それにこんな本を研磨機にかけられたらアウトだよね(笑)。台無しだよな」

■古い本は匂いもいいんすよ。

M「匂いフェチ(笑)」
S「こっち(『屍體七十五歩にて死す』)は昭和22年」
M「玉音放送から2年後か。それでも、こういう本という娯楽はあったんだね」
■やっぱり人は本を読みたいものなんじゃないですか、どんなに貧しくても。他に娯楽もないでしょうし。

M「GHQの言論統制も厳しかっただろうけど、凄いねぇ」
S「(小栗虫太郎の)『黒死館殺人事件』とかソッコー無理だった」
M「なに、黒死館って?」

■虫太郎の一番有名な作品で、『ドグラ・マグラ』を5倍くらい意味不明にしたような感じ。



※『ドグラ・マグラ』
『黒死館殺人事件』
『虚無への供物』
の3冊が日本三大奇書と呼ばれている

M「俺も『ドグラ・マグラ』読んでみたけど意味分かんなくなったね(笑)。乱歩はやっぱり"少年探偵団シリーズ"だな」
S「僕は"人間椅子"かな、ベタなところで」
M「"少年探偵団シリーズ"は小学校3年生くらいの時に、はまったというか、ミニカーを集めるような感覚だったのかな。最初は『宇宙怪人』を買って、それから『怪人二十面相』、『空飛ぶ二十面相』、『サーカスの怪人』、『二十面相の呪い』、『電人M』とかさ」
S「ああいうのって全部子供向けに書いてるの?」
M「あきらかにそうでしょ」

■丁度仕事がない時代に、版元から"子供向けの一発書いて下さいよ"って言われて、渋々書いたらあたったのかな。

M「逆に『一寸法師』とかはエログロでしょ。俺がその3年生の時に学校の朝の会、ホームルームでさ、"今この本を読んでいます"っていうと、先生が紹介してくれるんだよね。で、"森下くんはこういう本を読んでいます"って紹介されると嬉しくてね。それである奴が『一寸法師』を持ってきたんだけど、中身が難しくて読めなかった。そこで乱歩の二面性を知ったね。小林信彦の"オヨヨ・シリーズ"なんかも子供向けと大人向けで分けているしさ。どっちも凄い好きなんだけど。その時の担任の先生は河合先生ね」
■知らないよ(笑)。
M「どうでもいいんだけど、忘れ物をすると歌を歌わされてね。俺はその頃から人前で歌うのは平気だったんだけど、女の子は可哀想に泣いちゃった子もいてね」

■それに興奮する森下さん(笑)。

M「いや、格好つけているわけじゃなくて、自分が歌いたいから身代わりになるお調子者の俺(笑)。その時には"燃えよドラゴンズ!"を歌っちゃったりして(笑)。板東英二が歌っていたやつをさ」
■音楽の原体験はそこにあると…。
S「あははは(笑)」
M「そうだったりするかも(笑)。しかし君たちどうもいかんなぁ」(この後、森下さんはナゼかE.A.S.T. PEACEの首藤さんのモノマネをはじめる)

■古本からも完全に脱線したところで、そろそろ締めたいんすけど。

M「やっぱり俺たちは"モノ"として欲しい、というのに固執しちゃうのかね。本来であれば本は読んで"楽しかったな"で終わってもいいんだろうけど、Soみたいに、"持っておきたい"っていう気持ちがあるよね。そういう人間もいるんだって話しかな。みなさんに勧めるってわけではないけどね」
S「逆にマイノリティですからね。普通は読み捨てるだろうから」
M「本としての役割、本の一生があるとするならば、ある人に買われて読まれて売られて、それを違う人が買ってまた売られて、そしていつか大事にしてくれる人と巡り会えば、それは本として有意義な生涯を送ったってことになるんだろうね」
S「廻り廻って自分のところで落ち着いてもらいたいですよね」
M「モノを大事にしましょう、という概念とは違うけど、生きている限りは大事にとっておきたいなって思うよね。時々出しては読み返して、"これを読んだ時はこういう気持ちだったなぁ"と思い返したりしてさ。ノスタルジーじゃなくて、時には立ち返ることがあってもいいよね」
■それはやはりレコードでも同じことですよね。本日はどうもありがとうございました。
【完】

always tedious editor's notes

さりげなく4冊目となりました。PAINTBOX/宗さんの「GIVE THE ANARCHIST A CIGARETTE」も始まり、連載記事に関しては、その流れも含めて自分が思い描いていたものに少しずつ近づけているような気もします。

が、肝心の紙質を一向に決められず、今回もまた変えてみました。どういう仕上がりになるかは、ある程度の予想はできても実際のところは製本されて印刷所からあがってくるまで分からないので、ドキドキの連続です。本棚に並べた時の美観を考えるとできるだけ早く固定させたいのですが、今号はどうなることか。単行本もそろそろ出してみたいのですが、費用を考えると頭が痛い…。

しかし、いつか散るなら全てやりきってから散りたいものです。ヤケクソ・スピリットでいきましょう。

巻頭特集風の記事も設けてみましたが、いかがでしたでしょうか。もっとワールドワイドなメンツになる予定でしたが、ズルズルと待って発行を遅らせるわけにもいかず、今回は時間切れで5バンドでの紹介となりました。締め切りを過ぎて、音信不通になったバンドの方々、…連絡待ってます。…ここで、日本語で書いても意味はまるでないんですが(笑)。

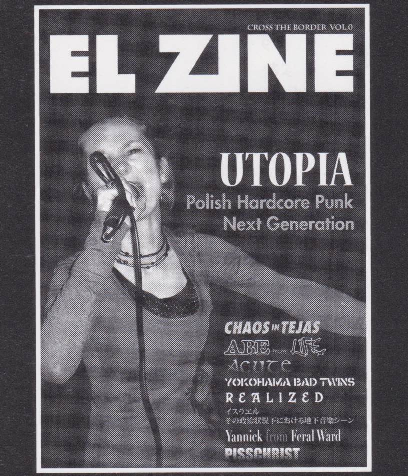
さて、今年もCHAOS IN TEJASが開催されます！主催者のTimmyに「今年もレポートよろしく!」と言ったら、「お前が来い!」と言われてしまいました。昨年度のレポートはVol.0にて掲載させてもらいましたが、悪鬼の如く原稿の催促をしてしまったので、そのことが彼の頭をよぎったのかもしれません。でも、今年もきっと書いてくれることでしょう(多分)。

そんなこんなで、読者の皆さん、執筆者の皆さん、今号にもお付き合い頂きありがとうございました。心からの感謝を込めて。また次号。

発行者　山路健二

次号の発売は…4月くらい?　　※インタヴュアー及び執筆者名の記載のない原稿は全て山路健二が記した
EL ZINE vol.3　2010年2月19日発行　　HP・BLOG・MYSPACE・MIXI→NO FUN　　E-MAIL→unno13@gmail.com

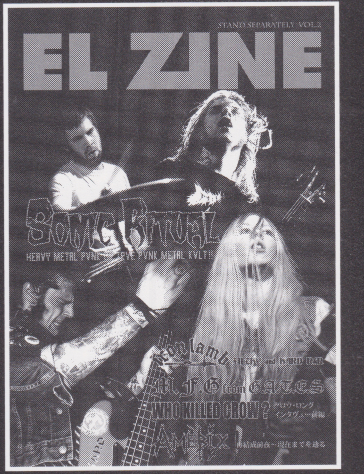
BACK ISSUES



VOL.0 UTOPIA



VOL.1 MOONLESS



VOL.2 SONIC RITUAL

Vol.0、Vol.1共に手持ちの在庫はありません。Vol.2は在庫ありです。
全て500円で全モノクロ、表紙回り含めP60、B5判。　お買い求めは以下のお店またはディストロまでお願いします。

直納しているレコード屋さんetc

ANSWER(名古屋)、BASE(東京・高円寺)、BOY(東京・高円寺)、DISK UNION(関東圏)、G-SIDE(浜松/ライヴ・ハウス)
KNOX(水戸)、K-CLUB(高知)、MISERY(広島)、NAT(東京・西新宿)、PUNK&DESTROY(大阪)、TIME BOMB(大阪)

ディストロして頂いている方々

FUJIさん(REALIZED/北海道)、SOUICHIさん(UNDER THE SURFACE/東京)、YUさん(SKIZOPHRENIA/津山)
はっちゃん(BURST HEAD/沖縄)、紺野さん(SPROUT RECORDS/仙台)、ONIGIRIさん(WATERSLIDE/東京)、CR JAPAN(東京)

MORE RIDICULOUS THAN EVER 27·28·29·30 MAY MEMORIAL DAY WEEKEND 2010

CHAOS IN TEJAS GIG VOL. 6

EMO'S • RED 7 • THE MOHAWK • BEERLAND • THE BROKEN NECK • AUSTIN TEXAS USA

AUSTRALIAN LEGENDS **X**

BASTARD FROM JAPAN ONE-TIME REUNION SHOW

FROM THE UK **SUBHUMANS**

COLOMBIAN METAL GODS **INQUISITION**

FROM JAPAN **CR鴉OW**

NJ'S BASTARD SONS OF METAL - ONLY TX GIG **RORSCHACH**

POISON IDEA

BASTARD NOISE WOOD • CONNELL • NELSON

THE PIST

THE MARKED MEN ONLY 2010 GIG

QUINTRON and ms. pussycat

LEATHERFACE FROM THE UK

TALK IS POISON

A·FRAMES

FINLAND **KYKLOOPPIEN SUKUPUUTTO**

SLANG SAPPORO JAPAN

THE SPITS

THE PONYS

TY SEGALL

BRILLIANT COLORS

IRON LUNG

PSYCHEDELIC HORSESHIT

DEAD TO ME

GEHENNA.

BONE AWL

MASSHYSTERI SWEDEN

WASTED TIME

THE RIVAL MOB

VOLAHN

GRASS WIDOW

WALLS

JEFF THE BROTHERHOOD

MORNE

WASTE MANAGEMENT

YELLOW TEARS

Acephalix • Arctic Flowers • Axeman • Deskonocidos • Fungi Girls • Hex Dispensers
Iron Age • Kim Phuc • La Urss (spain) • Mammoth Grinder • Mind Eraser • Mother of Mercy
Nerveskade • Ninja Gun • Ratas Del Vaticano • Shanghai River • Underground Railroad to Candyland
Vaaska • Wild Thing • World Burns to Death • Woven Bones • Young Offenders and of course a lot more!

ART! MUSIC! ART! MUSIC! ART! all over town, featuring the works and collections of

WINSTON SMITH • TIM KERR • BRYAN RAY TURCOTTE & more!

TICKETS: available soon MORE INFO: coming soon KEEP CHECKING: webang.blogspot.com